ISSN 1341-8548

館報 1996 45

ANNUAL REPORT

OF BRIDGESTONE MUSEUM OF ART & ISHIBASHI MUSEUM OF ART

石橋財団ブリヂストン美術館
石 橋 財 団 石 橋 美 術 館

館報 1996 45

ANNUAL REPORT

OF BRIDGESTONE MUSEUM OF ART & ISHIBASHI MUSEUM OF ART

石橋財団ブリヂストン美術館
石 橋 財 団 石 橋 美 術 館

館報45号（1996年度）

編集・発行

石橋財団ブリヂストン美術館
〒104　東京都中央区京橋1-10-1

石橋財団石橋美術館
〒839　福岡県久留米市野中町1015

制作
エディタス

1997年11月発行

Annual Report of Bridgestone Museum of Art & Ishibashi Museum of Art
No.45 (1996)

Edited and published by

Bridgestone Museum of Art, Ishibashi Foundation
10-1, Kyobashi 1-chome, Chuo-ku, Tokyo 104, Japan

Ishibashi Museum of Art, Ishibashi Foundation
1015, Nonaka-machi, Kurume-shi, Fukuoka-ken 839, Japan

Creative direction by Editus Inc.

©1997
Bridgestone Museum of Art,
Ishibashi Museum of Art,
Ishibashi Foundation

目次　Contents

1　設立趣旨，機構・運営 …… 4

Brief Histories of the Museums, Organization and Management …… 5

2　主な記録 …… 6

ブリヂストン美術館

・特集展示，特別展 …… 6

・土曜講座 …… 14

・その他の記録 …… 15

石橋美術館・石橋美術館別館

・特別展 …… 16

・美術講座 …… 26

・その他の記録 …… 27

3　1996年度入場者数 …… 28

4　新収蔵作品　New Acquisitions …… 29

5　修復記録 …… 30

6　研究報告 …… 42

7　美術館案内　Guide to the Museums …… 66

8　石橋財団職員 …… 67

設立趣旨

ブリヂストン美術館

ブリヂストン美術館は，石橋正二郎(1889-1976)が多年にわたって蒐集愛蔵した内外の美術品を，社会公共のため，広く一般の鑑賞に供し，文化向上の一端に貢献したいとの趣旨に基づき，1952年(昭和27)1月8日，ブリヂストンビルディング竣工とともに同ビル内に開設されたものである。その後1956年(昭和31)4月に設立された財団法人石橋財団がその経営を継承し，1961年(昭和36)9月には同財団が石橋正二郎から所蔵美術品の寄贈を受けた。なお，1959年(昭和34)5月には面積が二倍に拡張されると共に，設備に大改良が加えられた。

石橋美術館

石橋美術館は，株式会社ブリヂストンの創業者・石橋正二郎が1956年(昭和31)4月26日，同社の創立25周年を記念して，社会公共の福祉と文化向上のために，郷土久留米市に寄贈した石橋文化センターの中心施設である。1977年(昭和52)，石橋正二郎の遺族の寄付により増改築が行われ，同年4月以降，久留米市の要請により，石橋財団がその経営に当たっている。

石橋美術館別館

石橋美術館別館は，1995年(平成7)1月8日，石橋正二郎によって蒐集された石橋コレクションのうち書画・陶磁器類を収蔵展示する施設として石橋幹一郎により久留米市に建設寄贈され，一年余の養生期間を経て1996年(平成8)10月17日に開館した。なお建設寄贈と同時に石橋美術館と同様，石橋財団が管理運営に当たっている。

機構・運営

石橋財団 (1997年3月31日現在)

理事長 石橋幹一郎
理事 有田一壽，真藤　恒，内田　宏，石橋　寛，中川　洋，大原　譲，石樽和夫
監事 亀徳正之，唐澤高美，鵜澤昌和
評議員 石橋幹一郎，石井公一郎，石橋　寛，真藤　恒，高碕芳郎，有田一壽，橋口　収，高階秀爾，友部　直，喜多村禎勇，三木常正，富山秀男，平野　実，中川　洋，大原　譲，石樽和夫，朝比奈仙二
顧問 嘉門安雄

美術館運営委員会
委員長 石橋幹一郎
委員 高階秀爾，友部　直，石橋　寛，富山秀男，嘉門安雄，中川　洋，石樽和夫

寄付助成選考委員会
委員長 有田一壽
委員 内田　宏，鵜澤昌和，友部　直，吉久勝美，加嶋昭男

常務理事 大原　譲

事務局
事務局長 朝比奈仙二

ブリヂストン美術館
館長 石樽和夫　**事務部長** 尾島　聰　**学芸課長** 宮崎克己

石橋美術館
館長 中川　洋　**事務部長** 平井麟之輔　**学芸課長** 田内正宏　**学芸課・課長** (兼)橋富博喜

石橋美術館別館
館長 (兼)中川　洋　**事務部長** (兼)平井麟之輔　**学芸課長** 橋富博喜

Brief Histories of the Museums

Bridgestone Museum of Art

On January 8, 1952, Shōjirō Ishibashi (1889-1976), wishing to promote cultural development in Japan, opened to the public an art gallery within the newly-completed Bridgestone Building under the name of the "Bridgestone Gallery". The works of art, both Japanese and foreign, which he had collected over the years formed the nucleus of the exhibits. In April 1956, the Ishibashi Foundation was established to take over the management of the Gallery, and in September 1961, Ishibashi donated the works in the Gallery to the Foundation. In May 1959, the Gallery was enlarged to twice its original size and entirely renovated. In January 1968, the English name was changed from the "Bridgestone Gallery" to the "Bridgestone Museum of Art".

Ishibashi Museum of Art

On April 26, 1956, in commemoration of the 25th anniversary of the Bridgestone Corporation, Shōjirō Ishibashi, the founder of the Corporation, donated the Ishibashi Cultural Center to his home town of Kurume to render a public service and promote cultural development. The Ishibashi Museum of Art (originally the Ishibashi Art Gallery) is the principal institution in the Center. In 1971, the English name was changed from the "Ishibashi Art Gallery" to the "Ishibashi Museum of Art". In 1977, the Museum building was enlarged and renovated, thanks to a contribution from the Ishibashi family, and in April of the same year the city of Kurume entrusted the Ishibashi Foundation with the management of the Museum.

Ishibashi Museum of Art, Asian Gallery

On January 8, 1995, Kanichirō Ishibashi, son of Shōjirō Ishibashi donated to the city of Kurume a new museum especially designated to exhibit Shōjirō's collection of Asian Arts, such as brush painting, calligraphy, porcelain works. The museum has been open to the public since October 17, 1996, after careful observation and research for over a year. Since the time of its donation to Kurume, the museum is being managed by the Ishibashi Foundation, along with the Ishibashi Museum of Art.

Organization and Management

Ishibashi Foundation (As of March 31, 1997)

President of the Board of Directors	Kanichirō Ishibashi				
Directors	Kazuhisa Arita	Hisashi Shintō	Hiroshi Uchida	Hiroshi Ishibashi	Yoh Nakagawa
	Yuzuru Ohara	Kazuo Ishikure			
Auditors	Masayuki Kitoku	Takami Karasawa	Masakazu Uzawa		
Councillors	Kanichirō Ishibashi	Kōichirō Ishii	Hiroshi Ishibashi	Hisashi Shintō	Yoshirō Takasaki
	Kazuhisa Arita	Osamu Hashiguchi	Shūji Takashina	Naoshi Tomobe	Sadao Kitamura
	Tsunemasa Miki	Hideo Tomiyama	Minoru Hirano	Yoh Nakagawa	Yuzuru Ohara
	Kazuo Ishikure	Senji Asahina			
Adviser	Yasuo Kamon				

Executive Committee of the Museums

Chairman	Kanichirō Ishibashi			
Members	Shūji Takashina	Naoshi Tomobe	Hiroshi Ishibashi	Hideo Tomiyama
	Yasuo Kamon	Yoh Nakagawa	Kazuo Ishikure	

Contribution Selection Committee

Chairman	Kazuhisa Arita				
Members	Hiroshi Uchida	Masakazu Uzawa	Naoshi Tomobe	Katsumi Yoshihisa	Akio Kashima

Managing Director Yuzuru Ohara

Administration

Executive Secretary Senji Asahina

Bridgestone Museum of Art

Director	Kazuo Ishikure		
Administrator	Satoru Ojima	Curator	Katsumi Miyazaki

Ishibashi Museum of Art

Director	Yoh Nakagawa				
Administrator	Rinnosuke Hirai	Chief Curator	Masahiro Tauchi	Curator	Hiroki Hashitomi

Ishibashi Museum of Art, Asian Gallery

Director	Yoh Nakagawa		
Administrator	Rinnosuke Hirai	Chief Curator	Hiroki Hashitomi

主な記録　ブリヂストン美術館

《特集展示》

『パン』の版画
1996年4月23日（火）－6月9日（日）
出品内容：版画97点，冊子8点　計105点

『パン』の版画展ポスター

1. フェリシアン・ロップス《老いたるカーテ》/ ソフトグランドエッチング，エッチング，アクアチント / 20.7×14.6cm
2. ゲオルク・リューリヒ《デーメルの「酒の歌」のための縁飾り》/ リトグラフ / 30.4×22.2cm，30.2×22.0cm
3. フェリックス・ヴァロットン《R. シューマンの肖像》/ 木版画 / 15.2×12.2cm
4. マックス・リーバーマン《ローゼンハイムの野外酒場》/ エッチング / 17.8×22.7cm
5. モーリス・デュモン《サッフォー》/ グリュプトグラフ / 12.2×19.2cm
6. ショーン・ウェンバン《風景》/ エッチング / 5.3×12.0cm
7. アンデルス・ソルン《肖像》/ エッチング / 23.3×16.0cm
8. エルンスト=モーリッツ・ガイガー《巨人》/ エッチング / 28.9×22.2cm
9. マックス・クリンガー《哲学者》/ エッチング，アクアチント / 26.7×15.6cm
10. ハンス・トーマ《ヴァイオリン弾き》/ リトグラフ / 27.3×22.4cm
11. オットー・エックマン《春訪れなば》/ リトグラフ / 25.4×11.2cm
12. トーマス・テオドール・ハイネ《書籍の表紙》/ 複製 / 19.1×27.3cm
13. テオフィル・アレクサンドル・スタンラン《書籍の表紙》/ リトグラフ / 20.5×26.5cm
14. テオフィル・アレクサンドル・スタンラン《書籍の表紙》/ リトグラフ / 21.3×27.1cm
15. フランツ・ナーゲル《ファルケの「緑の中の騎士」のための縁飾り》/ リトグラフ / 25.3×17.3cm
16. オットー・エックマン《アイリス》/ 木版画 / 22.0×12.5cm
17. エドムント・クロッツ《少女の顔》/ エッチング，アクアチント / 11.5×15.1cm
18. エドムント・クロッツ《二つの頭部習作》/ エッチング，アクアチント / 4.9×8.2cm
19. カール・シュタウファー=ベルン《ペーター・ハルム》/ エッチング / 19.1×14.4cm
20. アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック《無題（マルセル・ランデール嬢）》/ リトグラフ / 32.6×24.2cm
21. ペーター・ハルム《無題（風景）》/ エッチング，アクアチント / 28.5×21.6cm
22. カール・テオドール・マイヤー=バーゼル《無題（水辺の樹木）》/ エッチング，アクアチント / 22.0×15.0cm
23. ヤーコプ・ヘラルト・フェルトヘール《無題（小さな町の建物群）》/ 木口木版画 / 27.9×20.6cm
24. オイゲン・キルヒナー《無題（外出着姿の若い女性のいる室内）》/ エッチング，アクアチント / 13.2×9.6cm
25. アルベルト・クリューガー《ドナテッロのブロンズに基づく銅版画》/ エッチング，アクアチント，ソフトグランドエッチング / 24.8×15.4cm
26. マックス・クリンガー《ペネロペ》/ リトグラフ，エッチング，アクアチント / 18.5×29.7cm
27. オットー・ウッベローデ《ラーン川上流の風景》/ エッチング / 17.4×13.3cm
28. オットー・ガンパート《無題（風景）》/ エッチング，アクアチント / 5.7×11.2cm
29. マックス・リーバーマン《テオドール・フォンターネ》/ リトグラフ / 27.0×22.2cm
30. ヴァルター・ライスティコウ《樹林》/ エッチング，アクアチント，ドライポイント / 11.7×17.7cm
31. アルベルト・クリューガー《老人（リーバーマンに基づく銅版画）》/ エッチング，アクアチント，ソフトグランドエッチング，ドライポイント / 16.0×22.2cm

32. フランツ・スカルビーナ《雨の辻馬車》/ リトグラフ/ 24.8×21.5cm
33. マルティン・ヘーネマン《母と子（ドーラ・ヒッツに基づく木版画）》/ 木口木版画 / 18.4×16.6cm
34. アンデルス・ソルン《ポール・ヴェルレーヌ》/ エッチング, アクアチント / 23.7×16.0cm
35. シャルル・モーラン《母と子》/ ソフトグランドエッチング/ 24.5×18.2cm
36. マックス・クリンガー《追憶》/ エッチング, メゾチント / 24.9×12.0cm
37. オットー・フィッシャー《雷雨模様》/ エッチング/ 18.8×19.9cm
38. オットー・グライナー《ゴルゴタ》/ エッチング, アクアチント / 20.2×26.1cm
39. マックス・ピーチュマン《ケンタウロスのカップル》/ エッチング/ 24.6×16.5cm
40. ハンス・ウンガー《女の顔習作》/ リトグラフ/ 27.9×21.2cm
41. カール・メディッツ《ローベルト・ディーツ》/ リトグラフ/ 25.7×17.3cm
42. ゲオルク・リューリヒ《フロイアと巨人たち》/ リトグラフ/ 25.1×20.2cm
43. ヴィルヘルム・フォルツ《サロメ》/ リトグラフ/ 27.3×18.7cm
44. オットー・ライム《風景（シュテブリに基づく銅版画）》/ エッチング, アクアチント / 12.8×18.0cm
45. グスタフ・カンプマン《立ちのぼる霧》/ リトグラフ/ 25.3×18.0cm
46. オットー・ガンパート《ぶなの森》/ ソフトグランドエッチング, エッチング, アクアチント/ 14.3×23.7cm
47. ペーター・ハルム《ライヒェナウ島の風景》/ エッチング, アクアチント / 17.8×26.6cm
48. オイゲン・キルヒナー《11月》/ エッチング, アクアチント / 31.2×19.0cm
49. ベルンハルト・パンコック《教会》/ メゾチント / 17.0×11.5cm
50. オットー・エックマン《五位鷺》/ 木版画 / 13.3×24.7cm
51. ハンス・トーマ《無題（風景）》/ リトグラフ/ 17.7×25.7cm
52. ペーター・ハルム《私の娘たち（ウーデに基づく銅版画）》/ エッチング, ドライポイント / 16.2×20.4cm
53. カール・ケッピング《ケッピングの装飾ガラス》/ エッチング, アクアチント / 25.0×15.0cm
54. ハンス・オルデ《クラウス・グロート》/ アクアチント, ドライポイント / 26.6×19.4cm
55. アルトゥール・イリース《月の出》/ エッチング, アクアチント / 18.3×14.7cm
56. ツァハリアス夫人, エンゲル=ライマース夫人《Ph.O. ルンゲの植物習作》/ 木版画 / 21.6×11.8cm, 21.5×11.8cm
57. ウィリアム・ローテンスタイン《ウォルター・クレイン》/ リトグラフ/ 27.5×23.8cm
58. ジョセフ・ペンネル《海岸風景》/ リトグラフ/ 13.6×19.6cm
59. ウィリアム・ストラング《自画像》/ エッチング/ 19.9×14.7cm
60. ヴァルター・ライスティコウ《ヴァルトゼー》/ エッチング, アクアチント / 17.3×22.9cm
61. ルートヴィヒ・フォン・ホフマン《アダムとエバ》/ 複製 / 25.3×19.5cm
62. アルベルト・クリューガー《無題（ドガに基づく版画）》/ リトグラフ/ 15.8×15.0cm
63. アンドレ・ルヴェイエ《バスティアン・ルパージュ（ロダンに基づく木版画）》/ 木口木版画 / 26.8×18.7cm
64. ヴィルヘルム・ライブル《老女の肖像》/ エッチング, アクアチント / 18.0×13.7cm
65. マックス・リーバーマン《水浴の若者たち》/ エッチング/ 14.1×18.8cm
66. フェリックス・ホレンベルク《森のある丘に立つ農家》/ エッチング, アクアチント / 14.8×22.8cm
67. ヤン・フェート《ヨゼフ・イスラエルス》/ リトグラフ/ 26.1×22.7cm
68. オットー・ウッベローデ《ヘッセンの風景》/ エッチング, アクアチント / 18.6×15.7cm
69. エミール・オルリック《風景》/ エッチング, アクアチント / 6.1×13.0cm
70. エミール・オルリック《畑にて》/ エッチング, アクアチント / 7.0×13.0cm
71. ウィリアム・ニコルソン《老女》/ 木版画 / 24.6×19.5cm
72. エミール・オルリック《気晴らし》/ エッチング, アクアチント / 6.6×5.2cm
73. エミール・オルリック《さいころ遊びをする人々》/ エッチング, アクアチント / 5.4×8.4 cm
74. モーリス・ドニ《無題（母と子）》/ リトグラフ / 24.6×17.5cm
75. オーギュスト・ロダン《アントナン・プルースト》/ エッチング/ 11.3×6.5cm
76. ルートヴィヒ・フォン・ホフマン《うららかな日》/ リトグラフ/ 17.1 ×28.9 cm
77. カール・ケッピング《座る裸婦》/ エッチング/ 16.0×10.5cm
78. レオポルト・フォン・カルクロイト《帰宅》/ リトグラフ/ 19.1×19.3cm
79. アンリ・エラン《戯れる人魚》/ 木版画, リトグラフ/ 29.1×20.6cm
80. イッポリュト・プティジャン《モーリス・メーテルリンク》/ リトグラフ/ 25.6×21.0cm

81. ポール・シニャック《夕暮れ》/ リトグラフ/ 20.3×26.2cm
82. マクシミリアン・リュス《溶鉱炉》/ リトグラフ/ 26.1×20.2cm
83. テオ・ヴァン・レイセルベルヘ《アンリ・ド・レニエ》/ リトグラフ/ 21.8×16.8cm
84. アルベルト・クリューガー《アルノルト・ベックリーン》/ 木口木版画 / 9.3×9.3 cm
85. イッポリュト・プティジャン《装飾下絵》/ リトグラフ/ 26.2×20.3cm
86. アンリ=エドモン・クロス《シャンゼリゼで》/ リトグラフ/ 20.3×26.2cm
87. アンリ・ヴァン・デ・ヴェルデ《トロポンの広告》/ リトグラフ/ 30.9 ×19.9 cm
88. アルベルト・クリューガー《ボッティチェリに基づくウェヌス》/ 木口木版画 / 25.6×11.5cm
89. ハンス・オルデ《デトレフ・フォン・リリエンクローン》/ リトグラフ/ 21.3×19.0cm
90. ヴァルター・ライスティコウ《鶴》/ リトグラフ/ 21.9×28.1cm
91. ヴィルヘルム・フォルツ《ニンフの行進と踊り》/ リトグラフ/ 10.8×21.0cm
92. アルベルト・クリューガー《ヤーコプ・ブルクハルト》/ 木口木版画 / 9.7×8.6 cm
93. ペーター・ベーレンス《無題（接吻する二つの頭部）》/ 木版画 / 27.4×21.7cm
94. ペーター・ハルム《ポプラ》/ エッチング, アクアチント / 28.3×20.7cm
95. ハンス・フォン・フォルクマン《アイフェル礼拝堂》/ リトグラフ/ 23.7×19.5cm
96. マクシミリアン・フォン・フィヒャルト《シュトラスブルクの風景》/ エッチング, アクアチント / 7.5×11.5cm
97. グスタフ・カンプマン《谷間の製粉所》/ リトグラフ/ 21.5×17.6cm
98. カール・テオドール・マイヤー=バーゼル《オーバーバイエルンのわらぶき小屋》/ エッチング,アクアチント/ 16.1×12.6cm
99. アルベルト・クリューガー《死神のいるベックリーンの自画像》/ 木口木版画 / 13.5×10.9cm
100. アルベール・ベルソン《古橋》/ エッチング, アクアチント / 20.0×23.5cm
101. カール・テオドール・マイヤー=バーゼル《メールスブルクの家々》/ エッチング, アクアチント / 17.0×23.7cm
102. ショーン・ウェンバン《風景》/ エッチング/ 7.2×16.0cm
103. ケーテ・コルヴィッツ《あいさつ》/ エッチング/ 11.0 ×7.8 cm
104. ヤコプ・ヘラルト・フェルトヘール《マッケンにて》/ 木口木版画 / 21.0×14.9cm
105. ダニエル・モルダン《眠り（カリエールに基づくエッチング）》/ エッチング/ 17.1×23.0cm
106. エミール・オルリック《エディンバラ》/ リトグラフ/ 12.9×20.9cm
107. リヒャルト・ミュラー《鉄塔のある雪の屋根》/ エッチング, アクアチント / 10.3×18.1cm
108. レオポルト・フォン・カルクロイト《ニンネナイとおばさん》/ メゾチント / 22.1×18.8cm
109. グスタフ・カンプマン《雲の塊》/ リトグラフ/ 23.9×14.9cm
110. マックス・リーバーマン《薪を集める女たち》/ リトグラフ/ 16.8×29.0cm
111. ヴァルター・ライスティコウ《家》/ エッチング, アクアチント, ドライポイント / 16.2×22.6cm
112. ハンス・オルデ《フリードリヒ・ニーチェ》/ エッチング, アクアチント / 16.9×12.5cm
113. ペーター・ベーレンス《冬景色》/ 木版画 / 26.6×21.2cm

『パン』第1年次第1号，第1年次第2号，第1年次第3号，第1年次第5号，第2年次第4号，第3年次第4号，第4年次第4号，第5年次第4号

＊ 出品作はすべてブリヂストン美術館蔵。以下の作品は展示されなかった。
Nos.12-15, 25, 26, 31, 33, 44, 52, 56, 61, 62, 84, 88, 105

《特別展》

結成100年記念　白馬会－明治洋画の新風
1996年10月19日（土）－11月28日（木）
主催：石橋財団ブリヂストン美術館／東京国立文化財研究所
　　／日本経済新聞社
出品内容：油彩100点，水彩4点，パステル1点，モザイク1点，
　　木炭18点，木版画12点　計136点
入場者総数：34,986人

白馬会－明治洋画の新風展チラシ

1-1. 黒田清輝《昔語り下絵　構図Ⅱ》/ 明治29年（1896）/ 油彩・カンヴァス/ 41.1×63.3cm / 東京国立文化財研究所
1-2. 黒田清輝《昔語り下絵　舞妓》/ 明治29年（1896）/ 油彩・カンヴァス/ 94.4×46.8cm / 東京国立文化財研究所
1-3. 黒田清輝《昔語り下絵　男》/ 明治29年（1896）/ 油彩・カンヴァス/ 98.3×47.6cm / 東京国立文化財研究所
1-4. 黒田清輝《昔語り下絵　男と舞妓》/ 明治29年（1896）/ 油彩・カンヴァス/ 78.0×51.5cm / 東京国立文化財研究所
1-5. 黒田清輝《昔語り下絵　舞妓》/ 明治29年（1896）/ 油彩・カンヴァス/ 93.2×46.0cm / 東京国立文化財研究所
1-6. 黒田清輝《昔語り下絵　仲居》/ 明治29年（1896）/ 油彩・カンヴァス/ 93.8×47.7cm / 東京国立文化財研究所
1-7. 黒田清輝《昔語り下絵　僧》/ 明治29年（1896）/ 油彩・カンヴァス / 78.8×42.3cm / 東京国立文化財研究所
1-8. 黒田清輝《昔語り下絵　草刈り娘》/ 明治29年（1896）/ 油彩・カンヴァス/ 59.8×44.1cm / 東京国立文化財研究所
1-9. 黒田清輝《昔語り下絵　清閑寺景》/ 明治29年（1896）/ 油彩・カンヴァス/ 29.7×48.8m / 東京国立文化財研究所
1-10. 黒田清輝《昔語り下絵　清閑寺門》/ 明治29年（1896）/ 油彩・カンヴァス/ 35.6×26.4cm / 東京国立文化財研究所
2-1. 黒田清輝《昔語り画稿　構図》/ 明治29年（1896）/ 木炭・紙 / 47.0×63.0cm / 東京国立文化財研究所
2-2. 黒田清輝《昔語り画稿　舞妓半身像》/ 明治29年（1896）/ 木炭・紙 / 63.0×47.0cm / 東京国立文化財研究所
2-3. 黒田清輝《昔語り画稿　女の顔》/ 明治29年（1896）/ 木炭・紙 / 63.0×47.0cm / 東京国立文化財研究所
2-4. 黒田清輝《昔語り画稿　手》/ 明治29年（1896）/ 木炭・紙 / 63.0×47.0cm / 東京国立文化財研究所
2-5. 黒田清輝《昔語り画稿　手》/ 明治29年（1896）/ 木炭・紙 / 63.0×47.0cm / 東京国立文化財研究所
2-6. 黒田清輝《昔語り画稿　男着衣半身像》/ 明治29年（1896）/ 木炭・紙 / 63.0×47.0cm / 東京国立文化財研究所
2-7. 黒田清輝《昔語り画稿　男裸体半身像》/ 明治29年（1896）/ 木炭・紙 / 63.0×47.0cm / 東京国立文化財研究所
2-8. 黒田清輝《昔語り画稿　男の脚》/ 明治29年（1896）/ 木炭・紙 / 63.0×47.0cm / 東京国立文化財研究所
2-9. 黒田清輝《昔語り画稿　仲居全身像》/ 明治29年（1896）/ 木炭・紙 / 63.0×47.0cm / 東京国立文化財研究所
2-10. 黒田清輝《昔語り画稿　仲居半身像》/ 明治29年（1896）/ 木炭・紙 / 63.0×47.0cm / 東京国立文化財研究所
2-11. 黒田清輝《昔語り画稿　舞妓全身像》/ 明治29年（1896）/ 木炭・紙 / 63.0×47.0cm / 東京国立文化財研究所
2-12. 黒田清輝《昔語り画稿　舞妓半身像》/ 明治29年（1896）/ 木炭・紙 / 63.0×47.0cm / 東京国立文化財研究所
2-13. 黒田清輝《昔語り画稿　僧半身像》/ 明治29年（1896）/ 木炭・紙 / 63.0×47.0cm / 東京国立文化財研究所
2-14. 黒田清輝《昔語り画稿　僧の手》/ 明治29年（1896）/ 木炭・紙 / 63.0×47.0cm / 東京国立文化財研究所
2-15. 黒田清輝《昔語り画稿　僧の足》/ 明治29年（1896）/ 木炭・紙 / 47.0×63.0cm / 東京国立文化財研究所
2-16. 黒田清輝《昔語り画稿　草刈り娘全身像》/ 明治29年（1896）/ 木炭・紙 / 63.0×47.0cm / 東京国立文化財研究所
2-17. 黒田清輝《昔語り画稿　草刈り娘の顔》/ 明治29年（1896）/ 木炭・紙 / 63.0×47.0cm / 東京国立文化財研究所
2-18. 黒田清輝《昔語り画稿　草刈り娘の足》/ 明治29年（1896）/ 木炭・紙 / 47.0×63.0cm / 東京国立文化財研究所

3. 黒田清輝《美人散歩（逍遥）》/ 明治28年（1895）/ 油彩・カンヴァス/ 57.6×62.7cm / 東京国立博物館
4. 黒田清輝《大磯鴫立庵》/ 明治29年（1896）/ 油彩・板 / 25.0×36.2cm / 個人蔵
5. 黒田清輝《波打ち際の岩》/ 明治29年（1896）/ 油彩・板 / 24.3×32.8cm / 平塚市美術館
6. 黒田清輝《智・感・情》/ 明治30-32年（1897-1899）/ 油彩・カンヴァス/ 各180.6×99.8cm / 東京国立文化財研究所
7. 黒田清輝《自画像（ベレー帽）》/ 明治30年（1897）/ 油彩・板 / 36.0×25.3cm / 久米美術館
8. 黒田清輝《魚舟着岸》/ 明治30年（1897）/ 油彩・板 / 27.7×38.0cm / 東京国立文化財研究所
9. 黒田清輝《湖畔》/ 明治30年（1897）/ 油彩・カンヴァス/ 69.0×84.7cm / 東京国立文化財研究所
10. 黒田清輝《母子》/ 明治30年（1897）/ 油彩・カンヴァス/ 36.6×29.0cm / 東京国立文化財研究所
11. 黒田清輝《砂浜乾魚》/ 明治30年（1897）/ 油彩・カンヴァス/ 27.3×39.5cm / 鹿児島県歴史資料センター黎明館
12. 黒田清輝《書見》/ 明治31年（1898）/ 油彩・カンヴァス/ 59.0×40.5cm / 東京国立文化財研究所
13. 黒田清輝《樹蔭》/ 明治31年（1898）/ 油彩・カンヴァス/ 78.0×93.7cm / 個人蔵
14. 黒田清輝《逗子五景》/ 明治31年（1898）/ 油彩・板 / 各23.9×32.3cm / 神奈川県立近代美術館
15. 久米桂一郎《残嘯下絵》/ 明治31年（1898）/ 油彩・カンヴァス/ 35.5×45.5cm / 佐賀県立美術館
16-1. 合田清《日本武将鑑 新田義興》/ 明治30年（1897）/ 木口木版 / 15.0×10.6cm / 個人蔵
16-2. 合田清《日本武将鑑 児島高徳》/ 明治30年（1897）/ 木口木版 / 15.4×11.0cm / 個人蔵
16-3. 合田清《日本武将鑑 楠正儀》/ 明治30年（1897）/ 木口木版 / 15.4×11.0cm / 個人蔵
16-4. 合田清《日本武将鑑 村上義光》/ 明治30年（1897）/ 木口木版 / 15.5×10.9cm / 個人蔵
16-5. 合田清《日本武将鑑 北条時宗》/ 明治30年（1897）/ 木口木版 / 15.1×10.7cm / 個人蔵
16-6. 合田清《日本武将鑑 弁内侍》/ 明治30年（1897）/ 木口木版 / 15.1×10.6cm / 個人蔵
16-7. 合田清《日本武将鑑 伊賀局》/ 明治30年（1897）/ 木口木版 / 15.4×10.6cm / 個人蔵
16-8. 合田清《日本武将鑑 宇都宮公綱》/ 明治30年（1897）/ 木口木版 / 15.5×10.6cm / 個人蔵
16-9. 合田清《日本武将鑑 藤原藤房》/ 明治30年（1897）/ 木口木版 / 15.3×10.7cm / 個人蔵
16-10. 合田清《日本武将鑑 北畠顯家》/ 明治30年（1897）/ 木口木版 / 15.3×10.7cm / 個人蔵
16-11. 合田清《日本武将鑑 小山田高家》/ 明治30年（1897）/ 木口木版 / 15.4×10.7cm / 個人蔵
16-12. 合田清《日本武将鑑 桜山茲俊》/ 明治30年（1897）/ 木口木版 / 15.1×10.6cm / 個人蔵
17. 藤島武二《池畔納涼》/ 明治31年（1898）/ 152.0×194.4cm / 東京芸術大学芸術資料館
18. 岡田三郎助《むぎわら細工》/ 明治29年（1896）/ 油彩・板 / 32.8×26.0cm / 個人蔵
19. 和田英作《少女新聞を読む》/ 明治30年（1897）/ 油彩・カンヴァス/ 54.8×84.5cm / 東京芸術大学芸術資料館
20. 和田英作《渡頭の夕暮》/ 明治30年（1897）/ 油彩・カンヴァス/ 126.0×189.3cm / 東京芸術大学芸術資料館
21. 安藤仲太郎《東寺》/ 明治29年（1896）/ 油彩・カンヴァス/ 28.6×45.3cm / 東京芸術大学芸術資料館
22. 小林萬吾《農夫晩帰》/ 明治31年（1898）/ 油彩・カンヴァス/ 170.1×109.1cm / 東京芸術大学芸術資料館
23. 白瀧幾之助《稽古》/ 明治30年（1897）/ 油彩・カンヴァス/ 136.5×197.0cm / 東京芸術大学芸術資料館
24. 湯浅一郎《松林》/ 明治30年（1897）/ 油彩・カンヴァス/ 32.7×45.7cm / 久米美術館

白馬会－明治洋画の新風展会場入口

白馬会－明治洋画の新風展会場

25. 湯浅一郎《漁夫晩帰》/ 明治31年（1898）/ 油彩・カンヴァス/ 139.2×200.3cm / 東京芸術大学芸術資料館
26. 長原孝太郎《牛肉屋の二階》/ 明治25年（1892）/ 水彩，ペン，インク・紙 / 18.6×24.3cm / 三重県立美術館
27. 長原孝太郎《焼芋屋》/ 水彩，インク・紙 / 23.0×30.6cm / 三重県立美術館
28. ロドルフ・ウィッツマン《風景》/ 油彩・カンヴァス/ 100.0×80.3cm / 東京芸術大学芸術資料館
29. 磯野吉雄《田圃の斜陽》/ 明治31年（1898）/ 油彩・板 / 23.1×32.7cm / 東京芸術大学芸術資料館
30. 広瀬勝平《磯》/ 明治31年（1898）/ 油彩・カンヴァス/ 88.0×121.5cm / 東京芸術大学芸術資料館
31. ラファエル・コラン《夏の野》/ c.1889 / 油彩・カンヴァス/ 46.6×55.6cm / 久米美術館
32. 黒田清輝《少女・雪子十一才》/ 明治32年（1899）/ 油彩・板 / 33.5×24.2cm / 東京国立文化財研究所
33. 小代為重《シンガポール》/ 明治33年（1900）/ 油彩・カンヴァス/ 21.3×28.0cm / 佐賀県立美術館
34. 小代為重《テームズ河畔》/ 明治33年（1900）/ 油彩・カンヴァス/ 22.8×31.9cm / 佐賀県立美術館
35. 藤島武二《造花》/ 明治34年（1901）/ 油彩・カンヴァス/ 136.5×194.0cm / 東京芸術大学芸術資料館
36. 岡田三郎助《自画像》/ 明治32年（1899）/ 油彩・カンヴァス/ 48.0×37.0cm / 個人蔵
37. 岡田三郎助《セーヌ上流》/ 明治33年（1900）/ 油彩・カンヴァス/ 49.8×60.2cm / 個人蔵
38. 小林萬吾《門づけ》/ 明治33年（1900）/ 油彩・カンヴァス/ 157.5×108.1cm / 東京国立博物館
39. 白瀧幾之助《草刈童》/ 明治32年（1899）/ 油彩・カンヴァス/ 91.3×60.7cm / 東京芸術大学芸術資料館
40. 白瀧幾之助《少女》/ 明治33年（1900）/ 油彩・カンヴァス/ 45.7×60.6cm / 個人蔵
41. 湯浅一郎《画室》/ 明治34-36年（1901-1903）/ 油彩・カンヴァス/ 159.5×106.5cm / 群馬県立近代美術館
42. 中沢弘光《少婦》/ 明治33年（1900）/ 油彩・カンヴァス/ 88.0×68.4cm / 東京芸術大学芸術資料館
43. 中沢弘光《非水像》/ 明治34年（1901）/ 油彩・カンヴァス/ 46.0×33.5cm / 個人蔵
44. 矢崎千代治《教鵡》/ 明治33年（1900）/ 油彩・カンヴァス/ 73.7×58.8cm / 東京芸術大学芸術資料館
45. 北蓮蔵《御殿山の雪》/ 明治32年頃（c.1899）/ 油彩・板 / 23.8×32.9cm / 東京芸術大学芸術資料館
46. 山本森之助《落葉》/ 明治33年（1900）/ 油彩・カンヴァス/ 70.6×99.8cm / 個人蔵
47. 赤松麟作《夜汽車》/ 明治34年（1901）/ 油彩・カンヴァス/ 161.0×200.0cm / 東京芸術大学芸術資料館
48. 田中寅三《山村の夕暮》/ 明治33年（1900）/ 油彩・カンヴァス/ 45.4×60.7cm / 東京芸術大学芸術資料館
49. 小西正太郎《残雪》/ 明治31年（1898）/ 油彩・板 / 23.8×32.9cm / 東京芸術大学芸術資料館
50. 龍田精三《雲間を洩るる光》/ 明治32年（1899）/ 油彩・板 / 23.4×32.5cm / 東京芸術大学芸術資料館
51. 郡司卯之助《根岸の春》/ 油彩・カンヴァス/ 34.6×45.5cm / 東京芸術大学芸術資料館
52. 内野猛《浜辺の家》/ 油彩・板 / 23.5×32.8cm / 東京芸術大学芸術資料館
53. 宇和川通喩《風景》/ 明治33年（1900）/ 油彩・板 / 23.5×32.5cm / 東京芸術大学芸術資料館
54. ラファエル・コラン《オデオン座天井画下絵》/ c.1890 / 油彩・カンヴァス/ 89.0×33.0cm / 鹿児島市立美術館
55. 黒田清輝《庭の雪》/ 明治38年（1905）/ 油彩・板 / 34.8×26.0cm / 茨城県近代美術館
56. 藤島武二《天平の面影》/ 明治35年（1902）/ 油彩・カンヴァス/ 197.5×94.0cm / 石橋財団石橋美術館
57. 藤島武二《婦人と朝顔》/ 明治37年（1904）/ 油彩・カンヴァス/ 46.0×45.6cm / 個人蔵
58. 藤島武二《夢想》/ 明治37年（1904）/ 油彩・カンヴァス/ 46.6×32.3cm / 個人蔵
59. 岡田三郎助《ファルギエール》/ 明治32年（1899）/ 油彩・カンヴァス/ 40.9×25.1cm / 個人蔵
60. 岡田三郎助《薔薇の少女》/ 明治34年（1901）/ 油彩・カンヴァス/ 119.0×78.8cm / 石橋財団石橋美術館
61. 岡田三郎助《舞子》/ 明治36年（1903）/ 油彩・カンヴァス / 60.6×45.5cm / 財団法人野間奉公会
62. 和田英作《グレー風景》/ 明治35年（1902）/ 油彩・カンヴァス/ 45.5×33.5cm / 財団法人長島美術館
63. 和田英作《読書》/ 明治35年（1902）/ 油彩・カンヴァス/ 73.6×54.0cm / 石橋財団石橋美術館
64. 和田英作《思郷》/ 明治35年（1902）/ 油彩・カンヴァス/ 95.7×66.9cm / 東京芸術大学芸術資料館
65. 和田英作《塚本靖肖像》/ 明治34年（1901）/ 油彩・カンヴァス / 44.2×36.5cm / 千葉県立美術館
66. 和田英作《くものおこなひ（衣通姫）》/ 明治38年（1905）/ 油彩・カンヴァス/ 220.0×140.0cm / 株式会社歌舞伎座
67. 白瀧幾之助《さらひ》/ 明治36年（1903）/ 油彩・カンヴァス/ 76.0×101.0cm / 大阪市立近代美術館（仮称）建設準備室
68. 湯浅一郎《徒然》/ 明治37年（1904）/ 油彩・カンヴァス/ 133.0×68.5cm / 群馬県立近代美術館
69. 中村勝治郎《洗い場》/ 油彩・板 / 23.0×32.5cm / 東京芸術大学芸術資料館
70. 中沢弘光《冬の山麓》/ 明治38年（1905）/ 油彩・カンヴァス/ 118.0×75.0cm / 東京国立博物館
71. 中丸精十郎《天使像》/ ガラスによるモザイク / 75.2×32.7cm / 東京芸術大学芸術資料館
72. 山本森之助《首里の夕月》/ 明治35年（1902）/ 油彩・カンヴァス/ 92.5×73.7cm / 個人蔵
73. 三宅克己《雨後のノートルダム》/ 明治35年（1902）/ 水彩・紙 / 36.5×25.8cm / お茶の水図書館

74. 小林鍾吉《船》/ 明治36年(1903) / 油彩・カンヴァス/ 46.1×60.9cm / 東京芸術大学芸術資料館
75. 大東昌可《秋景色》/ 油彩・カンヴァス/ 60.8×45.4cm / 東京芸術大学芸術資料館
76. 森川松之助《紅葉》/ 油彩・カンヴァス/ 60.8×45.0cm / 東京芸術大学芸術資料館
77. 塩見競《葱洗い》/ 油彩・カンヴァス/ 60.5×45.4cm / 東京芸術大学芸術資料館
78. 大八木一郎《風景》/ 水彩・紙 / 29.5×43.5cm / 東京芸術大学芸術資料館
79. 和田三造《牧場の晩帰下絵》/ 油彩・カンヴァス/ 78.0×67.0cm / 松戸市戸定歴史館
80. 戸田謙二《風景》/ 明治34年(1901) / 油彩・カンヴァス/ 61.0×81.0cm / 東京芸術大学芸術資料館
81. 時任鵬熊《風景》/ 油彩・カンヴァス/ 60.8×45.2cm / 東京芸術大学芸術資料館
82. 渡辺亮輔《水汲み》/ 明治35年(1902) / 油彩・カンヴァス/ 130.0×89.0cm / 宮城県美術館
83. 青木繁《黄泉比良坂》/ 明治36年(1903) / 色鉛筆, パステル, 水彩・紙 / 48.5×33.5cm / 東京芸術大学芸術資料館
84. 青木繁《闇威弥尼》/ 明治36年(1903) / 油彩・板 / 14.7×10.3cm / 石橋財団石橋美術館
85. 青木繁《海の幸》/ 明治37年(1904) / 油彩・カンヴァス/ 70.2×182.0cm / 石橋財団石橋美術館
86. 青木繁《海景(布良の海)》/ 明治37年(1904) / 油彩・カンヴァス/ 35.8×72.0cm / 石橋財団石橋美術館
87. 青木繁《大穴牟知命》/ 明治38年(1905) / 油彩・カンヴァス/ 75.5×127.4cm / 石橋財団石橋美術館
88. 平井武雄《鎌倉海岸》/ 明治37年(1904) / 油彩・板 / 23.7×32.8cm / 東京芸術大学芸術資料館
89. 太田喜二郎《泉》/ 油彩・カンヴァス/ 53.6×43.4cm / 東京芸術大学芸術資料館
90. 関屋敬次《夕の湖》/ 油彩・カンヴァス/ 33.8×45.5cm / 東京芸術大学芸術資料館
91. 小林千古《ミルクメイド》/ 明治30年(1897) / 油彩・カンヴァス/ 69.0×50.8cm / 広島県立美術館
92. ラファエル・コラン《帽子を持つ婦人》/ 1894 / 油彩・カンヴァス/ 194.0×112.0cm / 福岡市美術館
93. 久米桂一郎《村娘》/ 明治27年(1894) / 油彩・カンヴァス/ 54.5×38.0cm / 財団法人中野美術館
94. 久米桂一郎《清水秋景図》/ 明治26年(1893) / 油彩・カンヴァス/ 55.5×46.0cm / 奈良県立美術館
95. 長原孝太郎《自画像》/ 明治33年(1900) / 油彩・カンヴァス/ 45.5×33.5cm / 三重県立美術館
96. 黒田清輝《森の中》/ 明治43年(1910) / パステル・紙 / 40.2×15.1cm / 東京国立文化財研究所
97. 黒田清輝《花野》/ 明治37-大正4年(1907-1915) / 油彩・カンヴァス/ 126.5×181.2cm / 東京国立文化財研究所
98. 藤島武二《ルツェルン》/ 明治41年(1908) / 油彩・板 / 23.5×32.8cm / 石橋財団ブリヂストン美術館
99. 藤島武二《スイス風景》/ 明治41年(1908) / 油彩・板 / 23.6×32.8cm / 石橋財団ブリヂストン美術館
100. 中沢弘光《霧》/ 明治40年(1907) / 油彩・カンヴァス/ 188.0×133.0cm / 東京国立博物館
101. 青山熊治《アイヌ》/ 明治42年(1909) / 油彩・カンヴァス/ 148.1×185.0cm / 北海道立近代美術館
102. 山脇信徳《雨の夕》/ 明治41年(1908) / 油彩・カンヴァス/ 33.5×45.5cm / 高知市立中央公民館(高知県立美術館寄託)
103. 栗原忠二《月島の月》/ 明治42年(1909) / 油彩・カンヴァス/ 90.5×117.5cm / 三島市郷土館
104. 山口亮一《秋の日》/ 明治42年(1909) / 油彩・カンヴァス/ 45.2×60.7cm / 佐賀県立美術館

＊ Nos. 3, 20, 70, 91, 92は出品されていない。

《関連行事》

明治美術学会研究発表
主催：明治美術学会／ブリヂストン美術館
日時：11月17日（日）14:00－17:00
会場：ブリヂストン美術館ホール

「黒田清輝・外光派の絵画意識と美術教育」 ―――― 金子一夫
「黒田清輝と白馬会」 ―――― 田中淳
「黒田清輝とサロンのヌード」 ―――― 丹尾安典

記念シンポジウム
「明治美術の光彩－白馬会をめぐって」
主催：ブリヂストン美術館／明治美術学会／日本経済新聞社
日時：11月18日（月）14:00－19:00
会場：日経ホール

基調講演「白馬会の時代」 ―――― 陰里鐵郎
研究発表　司会：芳賀徹
　「白馬会と裸体画」 ―――― 植野健造
　「東京美術学校と白馬会」 ―――― 吉田千鶴子
　「異種交配の海－山本芳翠《浦島》をめぐって」 ―――― 高階絵里加
　「白馬会のその後と岸田劉生」 ―――― 横田洋一

パネルディスカッション　司会：高階秀爾
　パネリスト：青木茂，歌田眞介，陰里鐵郎，佐藤道信，芳賀徹

付記：シンポジウムの内容は，明治美術学会会誌『近代画説』第5号（1997年）に再録されている。

シンポジウム会場

《土曜講座》

通算回数	月日	講座題目	講師
		《世紀末の美術と文化》	
1754	1996年4月27日	牧神(パン)たちの世紀末－雑誌『パン』,「パンの会」,雑誌『方寸』のことなど	水沢　勉氏
1755	5月11日	ベルギー象徴派と世紀末文芸 －〈薔薇＋十字〉会をめぐる画家たち,クノップフ・デルヴィル・モンタルド	倉智恒夫氏
1756	5月18日	夢見る少年たち－シーレとココシュカ	池田　紀氏
1757	5月25日	世紀末芸術と近代日本－漱石・抱月・杢太郎を中心に	佐渡谷重信氏
1758	6月 1日	オスカー・ワイルドと3人の画家－ビアズリー・リケッツ・アラスター	河村錠一郎氏
		《地中海学会連続講演会－地中海の遊びと気晴らし》	
1759	6月22日	トルコ・エーゲ海に遊ぶ	内藤正典氏
1760	6月29日	ローマ社会のパンとサーカス	本村凌二氏
1761	7月 6日	ヴェネツィアの都市空間と遊び	陣内秀信氏
1762	7月13日	古代ギリシアの市民と遊び	桜井万里子氏
1763	7月20日	異郷生活の気晴らしについて－近世レヴァントのヨーロッパ商人の場合	深沢克己氏
		《地中海学会秋期連続講演会－地中海の光と色彩－聖堂とその装飾をめぐって》	
1764	9月14日	ラヴェンナのモザイク装飾－誰が教会を建てたか	名取四郎氏
1765	9月21日	ガウディ,聖なる光	鳥居徳敏氏
1766	9月28日	ジョットの青－スクロヴェーニ礼拝堂	森田義之氏
1767	10月5日	マティスの光－ヴァンスのロザリオ礼拝堂	関　直子氏
		《「白馬会－明治洋画の新風」展開催記念－黒田清輝と白馬会の画家たち》	
1768	10月19日	黒田清輝と《昔語り》について	三輪英夫氏
1769	10月26日	脂派から紫派へ－黒田清輝の位置	島田康寛氏
1770	11月 2日	コランの弟子,フォンタネージの弟子－芸術家村グレーとクレミューをめぐって	荒屋鋪透氏
1771	11月 9日	黒田清輝と白馬会の風景画－“白馬会風”の意味をめぐって	山梨絵美子氏
		《書物の歴史と美術－Part1：活字印刷の誕生が美術にもたらしたもの》	
1772	12月 7日	書物の出現－パリ,リヨン,そしてジュネーヴ	宮下志朗氏
1773	12月14日	絵と言葉－19世紀の挿絵本から現代まで	小勝禮子氏
1774	12月21日	美術ジャーナリズムの草創期	北澤憲昭氏
		《男装する絵画,女装する絵画》	
1775	1997年1月18日	天皇の母のための絵画－京都・南禅寺の障壁画をめぐって	千野香織氏
1776	1月25日	中国絵画と女性	宮崎法子氏
1777	2月 1日	作られた「母性」－フランス19世紀末の母子像をめぐって	馬渕明子氏
1778	2月 8日	不在の父親－17世紀オランダ風俗画における家庭像	高橋達史氏
1779	2月15日	ルネサンス美術とホモセクシュアリティ	森田義之氏
		《20世紀をひらいた革命家たち》	
1780	3月 1日	マティスとモダニズム	天野知香氏
1781	3月 8日	《ロマンティックな風景》－カンディンスキーと私たち	有川治男氏
1782	3月15日	ダリ,死への誘(いざな)い	岡村多佳夫氏
1783	3月22日	《アヴィニョンの娘たち》,ピカソ,キュビスム－プリミティヴ芸術を超えて	大高保二郎氏
1784	3月29日	《階段を降りる花嫁》－マルセル・デュシャン,ピカソからの遁走	飯田善國氏

《博物館実習生の受入れ》

学芸員資格取得のための博物館実習生を次のように受入れた。
期間：1996年7月23日－28日，7月30日－8月4日
人数：10校　26名

実習内容：

	10:30－12:30	13:30－15:00	15:30－17:00
第1日 (火)	館長挨拶 美術館の組織と運営	美術館内見学	レジストレーションI
第2日 (水)	文献検索	図書資料の整理	レジストレーションII
第3日 (木)	他美術館見学	企画展 I	企画展 II
第4日 (金)	保存・修復 I	保存・修復 II	実習ノート整理
第5日 (土)	調査・研究 III	調査・研究I	調査・研究II
第6日 (日)		展示デザイン	まとめ～美術館の将来

《1996年度新収図書》

	購入	寄贈	計
和書	61冊	86冊	147冊
洋書	209冊	65冊	274冊
計	270冊	151冊	421冊

(展覧会図録・逐次刊行物は含まない)

石橋美術館
《特別展》

石橋文化センター開園40周年記念
石橋コレクション名品展
1996年4月27日（土）－5月12日（日）
主催：石橋財団石橋美術館
共催：久留米市／財団法人久留米文化振興会
出品内容：石橋財団所蔵の西洋近代絵画40点，日本近代洋画50点，
　　西洋近代彫刻10点　計100点
入場者総数：29,829人

石橋コレクション名品展ポスター

1. ジャン=オーギュスト=ドミニク・アングル《若い女の頭部》/ 油彩・カンヴァス/ 40.8×32.3cm*
2. カミーユ・コロー《オンフルールのトゥータン農場》/ 1845年頃 / 油彩・カンヴァス/ 44.4×63.8cm*
3. カミーユ・コロー《森の中の若い女》/ 1865年 / 油彩・板 / 54.7×38.9cm*
4. オノレ・ドーミエ《山中のドン・キホーテ》/ 1850年頃 / 油彩・板 / 39.6×31.2cm*
5. ジャン=フランソワ・ミレー《乳しぼりの女》/ 1854-1860年 / 油彩・カンヴァス/ 59.0×72.4cm*
6. ギュスターヴ・クールベ《雪の中を駆ける鹿》/ 1856-1857年頃 / 油彩・カンヴァス/ 93.5×148.8cm*
7. ウジェーヌ・ブーダン《トルーヴィル近郊の浜》/ 1865年頃 / 油彩・板 / 35.7×57.7cm*
8. カミーユ・ピサロ《ブージヴァルのセーヌ河》/ 1870年 / 油彩・カンヴァス/ 51.4×82.2cm*
9. カミーユ・ピサロ《菜園》/ 1878年 / 油彩・カンヴァス/ 55.2×45.9cm*
10. エドゥワール・マネ《自画像》/ 1878-1879年 / 油彩・カンヴァス/ 95.4×63.4cm*
11. エドガー・ドガ《レオポール・ルヴェールの肖像》/ 1874年頃 / 油彩・カンヴァス/ 65.0×54.0cm*
12. アルフレッド・シスレー《サン=マメス六月の朝》/ 1884年 / 油彩・カンヴァス/ 54.6×73.4cm*
13. ポール・セザンヌ《鉢と牛乳入れ》/ 1873-1877年頃 / 油彩・カンヴァス/ 20.0×18.1cm*
14. ポール・セザンヌ《帽子をかぶった自画像》/ 1890-1894年頃 / 油彩・カンヴァス/ 61.2×50.1cm*
15. クロード・モネ《雨のベリール》/ 1886年 / 油彩・カンヴァス/ 60.5×73.7cm*
16. クロード・モネ《睡蓮》/ 1903年 / 油彩・カンヴァス/ 81.5×100.5cm*
17. ピエール=オーギュスト・ルノワール《すわるジョルジェット・シャルパンティエ嬢》/ 1876年 / 油彩・カンヴァス/ 97.8×70.8cm*
18. ピエール=オーギュスト・ルノワール《すわる水浴の女》/ 1914年 / 油彩・カンヴァス/ 55.0×44.2cm*
19. アンリ・ルソー《イヴリー河岸》/ 1907年頃 / 油彩・カンヴァス/ 46.1×55.0cm*
20. アンリ・ルソー《牧場》/ 1910年 / 油彩・カンヴァス/ 46.0×55.3cm*
21. ポール・ゴーガン《馬の頭部のある静物》/ 1886年 / 油彩・カンヴァス/ 49.0×38.5cm*
22. ポール・ゴーガン《乾草》/ 1889年 / 油彩・カンヴァス/ 55.4×46.2cm*
23. フィンセント・ファン・ゴッホ《モンマルトルの風車》 / 1886年 / 油彩・カンヴァス/ 48.2×39.5cm*
24. ポール・シニャック《コンカルノー港》/ 1925年 / 油彩・カンヴァス/ 73.4×53.9cm*
25. ピエール・ボナール《桃》/ 1920年 / 油彩・カンヴァス/ 36.0×38.1cm*
26. アンリ・マティス《画室の裸婦》/ 1899年 / 油彩・紙 / 66.3×50.5cm*
27. アンリ・マティス《青い胴着の女》/ 1935年 / 油彩・カンヴァス/ 46.0×33.0cm*
28. モーリス・ドニ《バッカス祭》/ 1920年 / 油彩・カンヴァス/ 99.2×139.5cm*
29. ジョルジュ・ルオー《郊外のキリスト》/ 1920年 / 油彩・紙 / 92.0×73.6cm*

30. ジョルジュ・ルオー《ピエロ》/ 1925年 / 油彩・紙 / 75.2×51.2cm*
31. モーリス・ド・ヴラマンク《運河船》/ 1905-1906年 / 油彩・カンヴァス/ 60.2×73.0cm*
32. ラウル・デュフィ《オーケストラ》/ 1942年 / 油彩・カンヴァス/ 65.2×81.1cm*
33. パブロ・ピカソ《腕を組んですわるサルタンバンク》 / 1923年 / 油彩・カンヴァス/ 130.8×98.0cm*
34. パブロ・ピカソ《茄子》/ 1946年 / 油彩，グワッシュ・紙 / 51.1×66.2cm*
35. ジョルジュ・ブラック《梨と桃》/ 1924年 / 油彩・板 / 27.7×45.3cm*
36. モーリス・ユトリロ《サン=ドニ運河》/ 1906-1908年 / 油彩・紙 / 53.4×74.5cm*
37. マリー・ローランサン《二人の少女》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス/ 64.9×54.2cm*
38. アメデオ・モディリアーニ《若い農夫》/ 1918年頃 / 油彩・カンヴァス/ 73.4×50.3cm*
39. ジョルジョ・デ・キリコ《吟遊詩人》/ 油彩・カンヴァス/ 62.4×49.8cm*
40. カイム・スーティン《大きな樹のある南仏風景》/ 1924年 / 油彩・紙 / 49.8×60.6cm*
41. 中丸精十郎《瀑》/ 1890年 / 油彩・カンヴァス/ 107.6×70.2cm
42. 百武兼行《臥裸婦》/ 1881年頃 / 油彩・カンヴァス/ 97.3×188.0cm
43. 浅井忠《縫物》/ 1902年 / 油彩・カンヴァス/ 60.7×45.5cm*
44. 黒田清輝《針仕事》/ 1890年 / 油彩・カンヴァス/ 81.2×65.0cm
45. 黒田清輝《杣》/ 油彩・カンヴァス/ 80.4×60.5cm*
46. 黒田清輝《鉄砲百合》/ 1909年 / 油彩・カンヴァス/ 60.3×80.0cm
47. 藤島武二《天平の面影》/ 1902年 / 油彩・カンヴァス/ 197.5×94.0cm
48. 藤島武二《ヴェルサイユ風景》/ 1906-1907年 / 油彩・カンヴァス/ 72.4×91.0cm
49. 藤島武二《チョチャラ》/ 1908-1909年 / 油彩・カンヴァス/ 45.5×38.0cm*
50. 藤島武二《五剣山の日の出》/ 1932年 / 油彩・カンヴァス/ 52.8×72.6cm
51. 岡田三郎助《臥裸婦》/ 1901年 / 油彩・カンヴァス/ 45.2×91.6cm
52. 岡田三郎助《水浴の前》/ 1916年 / 油彩・カンヴァス/ 197.0×76.2cm
53. 満谷国四郎《坐婦》/ 1913年 / 油彩・カンヴァス/ 64.8×54.8cm
54. 満谷国四郎《ブルターニュ風景》/ 1913年頃 / 油彩・カンヴァス/ 46.5×55.3cm
55. 和田英作《読書》/ 1902年 / 油彩・カンヴァス/ 73.6×54.0cm
56. 和田英作《チューリップ》/ 1927年 / 油彩・カンヴァス/ 80.3×65.0cm
57. 吉田博《ウダイプール宮殿》/ 1931年 / 油彩・カンヴァス/ 33.0×45.4cm
58. 小杉放庵《山幸彦》/ 1917年 / 油彩・カンヴァス/ 194.6×300.5cm
59. 山下新太郎《ブルターニュの女》/ 1908年 / 油彩・板 / 44.0×32.2cm
60. 山下新太郎《供物》/ 1915年 / 油彩・カンヴァス/ 55.2×46.1cm*
61. 青木繁《自画像》/ 1903年 / 油彩・カンヴァス/ 80.5×60.5cm
62. 青木繁《輪転》/ 1903年 / 油彩・カンヴァス/ 26.8×37.8cm
63. 青木繁《海の幸》/ 1904年 / 油彩・カンヴァス/ 70.2×182.0cm
64. 青木繁《海景（布良の海）》/ 1904年 / 油彩・カンヴァス/ 35.8×72.0cm
65. 青木繁《大穴牟知命》 / 1905年 / 油彩・カンヴァス/ 75.5×127.4cm
66. 青木繁《わだつみのいろこの宮》/ 1907年 / 油彩・カンヴァス/ 180.0×68.3cm
67. 青木繁《月下滞船図》/ 1908年 / 油彩・カンヴァス/ 42.5×60.0cm
68. 石井柏亭《傘松（ナポリ風景）》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス/ 49.6×60.4cm
69. 坂本繁二郎《魚を持ってきた海女》/ 1913年 / 油彩・カンヴァス/ 117.0×80.6cm
70. 坂本繁二郎《牛》/ 1920年 / 油彩・カンヴァス/ 71.0×116.5cm
71. 坂本繁二郎《読書の女》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス/ 40.8×31.7cm
72. 坂本繁二郎《帽子を持てる女》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス/ 80.7×65.0cm
73. 坂本繁二郎《パリ郊外》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス/ 53.0×65.0cm
74. 坂本繁二郎《放牧三馬》/ 1932年 / 油彩・カンヴァス/ 79.6×99.0cm
75. 中村彝《自画像》/ 1909年 / 油彩・カンヴァス/ 80.6×61.0cm*
76. 小出楢重《帽子をかぶった自画像》/ 1924年 / 油彩・カンヴァス/ 126.0×91.3cm*
77. 小出楢重《裸婦》/ 1925年 / 油彩・カンヴァス/ 70.0×46.0cm
78. 安井曾太郎《ばら》/ 1932年 / 油彩・カンヴァス/ 63.0×51.9cm*

79. 安井曾太郎《玉蟲先生像》/ 1934年 / 油彩・カンヴァス/ 47.5×39.0cm
80. 国吉康雄《夢》/ 1922年/ 油彩・カンヴァス/ 51.5×76.7cm*
81. 長谷川利行《動物園風景》/ 1937年頃 / 油彩・カンヴァス/ 45.5×52.7cm
82. 長谷川利行《裸婦》/ 1938年 / 油彩・カンヴァス/ 45.4×52.7cm
83. 児島善三郎《海芋とキリン草》/ 1954年 / 油彩・カンヴァス/ 91.0×72.9cm
84. 古賀春江《素朴な月夜》/ 1929年 / 油彩・カンヴァス/ 116.5×91.0cm
85. 古賀春江《鳥籠》/ 1929年 / 油彩・カンヴァス/ 111.2×145.0cm
86. 古賀春江《単純な哀話》/ 1930年 / 油彩・カンヴァス/ 116.7×91.4cm
87. 佐伯祐三《コルドヌリ(靴屋)》/ 1925年 / 油彩・カンヴァス/ 72.6×60.3cm
88. 佐伯祐三《休息(鉄道工夫)》/ 1927年頃 / 油彩・カンヴァス/ 59.4×71.3cm
89. 岡鹿之助《雪の発電所》/ 1956年 / 油彩・カンヴァス/ 72.8×90.9cm*
90. 牛島憲之《タンクの道》/ 1955年 / 油彩・カンヴァス/ 60.9×91.2cm*
91. オノレ・ドーミエ《ラタポワール》/ 1850年頃 / ブロンズ/ 43.5cm*
92. エドガー・ドガ《アラベスク》/ 1882-1895年 / ブロンズ/ 27.5cm*
93. オーギュスト・ロダン《青銅時代》/ 1904年 / ブロンズ/ 63.5cm*
94. エミール=アントワーヌ・ブルデル《ペネロープ》/ 1909年 / ブロンズ/ 118.8cm*
95. エミール=アントワーヌ・ブルデル《弓をひくヘラクレス》/ 1909年 / ブロンズ/ 78.5cm*
96. アレキサンダー・アーキペンコ《ゴンドラの船頭》/ 1914年 / ブロンズ/ 83.0cm*
97. オシップ・ザッキン《三美神》/ 1950年 / ブロンズ/ 76.7cm*
98. ヘンリー・ムア《横たわる人体》/ 1976年 / ブロンズ/ 39.8cm*
99. アルベルト・ジャコメッティ《ディエゴの胸像》/ 1954-1955年 / ブロンズ/ 55.0cm*
100. マリノ・マリーニ《騎手》/ 1952年 / ブロンズ/ 58.0cm*

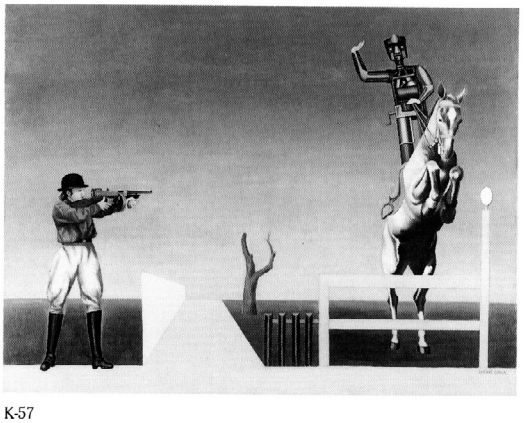
＊*印の作品はブリヂストン美術館，その他は石橋美術館の所蔵作品。
＊寸法は絵画については縦×横，彫刻については像高を示す。

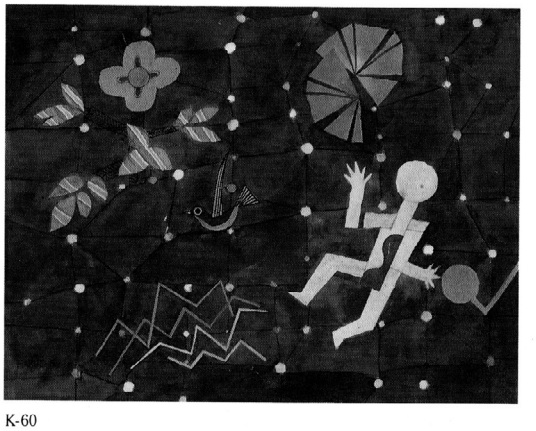
麗しき前衛の時代－古賀春江と三岸好太郎
1996年6月25日(火)－7月25日(日)
主催：石橋財団石橋美術館／「古賀春江と三岸好太郎」展実行委員会
共催：久留米市／久留米市教育委員会／財団法人久留米文化振興会
出品内容：古賀春江　油彩35点，水彩27点，
　　三岸好太郎　油彩51点，素描等13点　計126点
入場者総数：4,736人

古賀春江と三岸好太郎展ポスター

古賀春江
K-1.　《自画像》/ 1916年 / 水彩・紙(ハガキ)/ 14.3×9.0cm / 石橋財団ブリヂストン美術館
K-2.　《檜》/ 1917年 / 水彩・紙 / 51.0×63.7cm / FBS福岡放送
K-3.　《地蔵尊》/ 1919年 / 水彩・紙 / 51.0×34.5cm / 石橋財団石橋美術館

K-4. 《竹薮》/ 1920年 / 水彩・紙 / 45.5×60.5cm / 福岡県立美術館
K-5. 《風景》/ 1920年 / 水彩・紙 / 36.5×44.8cm / 東京国立近代美術館
K-6. 《婦人像》/ 1920年頃 / 水彩・紙 / 58.5×48.0cm / 茨城県近代美術館
K-7. 《好江夫人像》/ 1920年頃 / 水彩・紙 / 36.5×28.2cm
K-8. 《観音》/ 1921年 / 油彩・カンヴァス/ 91.0×72.5cm / 東京国立近代美術館
K-9. 《無題》/ 1921年頃 / 油彩・カンヴァス/ 72.5×72.5cm / 石橋財団石橋美術館
K-10. 《埋葬》/ 1922年 / 油彩・カンヴァス/ 91.1×116.7cm / 総本山知恩院
K-11. 《二階より》/ 1922年 / 油彩・カンヴァス/ 61.3×73.5cm
K-12. 《縁側の女》/ 1922年頃 / 油彩・カンヴァス/ 73.0×91.0cm / 東京国立近代美術館
K-13. 《物乞》/ 1922年頃 / 油彩・カンヴァス/ 71.5×90.0cm / 茨城県近代美術館
K-14. 《曲彖につく》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス/ 89.0×115.0cm / 個人蔵(石橋財団石橋美術館寄託)
K-15. 《海水浴の女》 / 1923年 / 油彩・カンヴァス/ 89.7×115.1cm / 石橋財団石橋美術館
K-16. 《女》/ 1924年 / 油彩・カンヴァス/ 65.0×53.0cm / 東京国立近代美術館
K-17. 《生誕》/ 1924年 / 油彩・カンヴァス/ 91.4×116.9cm / 福岡市美術館
K-18. 《風景》/ 1924年 / 油彩・カンヴァス/ 60.5×72.8cm
K-19. 《誕生》/ 1924年 / 油彩・カンヴァス/ 91.0×116.8cm / 石橋財団石橋美術館
K-20. 《卓上静物》/ 1924年頃 / 油彩・カンヴァス/ 73.0×60.5cm / 茨城県近代美術館
K-21. 《ランプ》/ 1924年 / 水彩・紙 / 50.5×39.5cm / 東京国立近代美術館
K-22. 《風景》/ 1925年 / 水彩・紙 / 48.8×60.3cm / 東京国立近代美術館
K-23. 《静物》/ 1925年頃 / 水彩・紙 / 38.7×51.0cm / 石橋財団石橋美術館
K-24. 《窓外風景》/ 1925年頃 / 水彩・紙 / 49.5×60.3cm / 長崎県立美術博物館
K-25. 《クレー〈町習作〉(1914)の模写》/ 水彩・紙 / 23.6×31.6cm / 東京国立近代美術館
K-26. 《クレー〈カイルアーン〉(1914)の模写》/ 水彩・紙 / 23.6×31.5cm / 東京国立近代美術館
K-27. 《花》/ 1926年 / 水彩・紙 / 62.0×50.0cm / 東京国立近代美術館
K-28. 《風景》/ 1926年 / 油彩・カンヴァス/ 45.4×53.0cm
K-29. 《風景》/ 1926年 / 油彩・カンヴァス/ 53.0×45.7cm
K-30. 《月花》/ 1926年 / 油彩・カンヴァス/ 91.0×117.0cm / 東京国立近代美術館
K-31. 《赤い風景》/ 1926年 / 水彩・紙 / 38.8×56.5cm / FBS福岡放送
K-32. 《遊園地》/ 1926年 / 水彩・紙 / 47.1×61.0cm / 石橋財団ブリヂストン美術館
K-33. 《美しき博覧会》/ 1926年 / 水彩・紙 / 38.5×57.0cm / 石橋財団ブリヂストン美術館
K-34. 《船着場》/ 1926年 / 水彩・紙 / 45.8×60.2cm / パーフェクトリバティー教団
K-35. 《室内》/ 1926年頃 / 水彩, 鉛筆・紙 / 57.0×39.2cm / 東京国立近代美術館
K-36. 《煙火》/ 1927年 / 油彩・カンヴァス/ 91.0×61.0cm

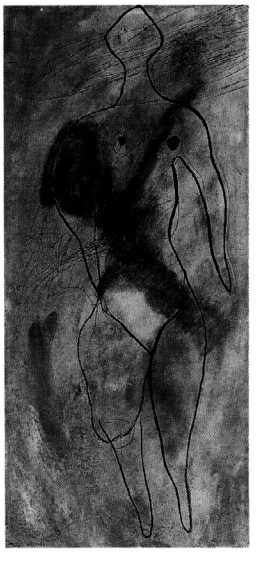

K-57

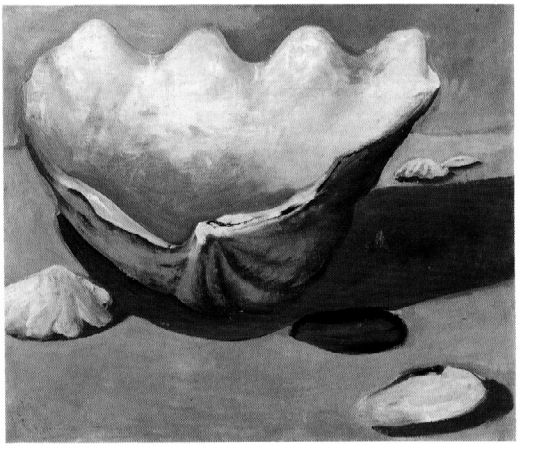

K-60

K-37.《窓》/ 1927年 / 油彩・カンヴァス/ 90.5×72.7cm / 福岡県立美術館
K-38.《夏山》/ 1927年 / 油彩・カンヴァス/ 90.9×116.7cm / 愛知県美術館
K-39.《窓外風景》/ 1927年 / 水彩・紙 / 38.2×29.0cm
K-40.《牛を焚く》/ 1927年 / 水彩・紙 / 15.6×21.5cm
K-41.《山ノ手風景》/ 1928年 / 油彩・カンヴァス/ 90.0×72.0cm
K-42.《題のない画》/ 1929年 / 油彩・カンヴァス/ 90.0×116.0cm / 下関市立美術館
K-43.《題のない画(下絵)》/ 1929年 / 水彩・紙 / 36.0×48.9cm / 北九州市立美術館
K-44.《素朴な月夜》/ 1929年 / 油彩・カンヴァス/ 116.5×91.0cm / 石橋財団石橋美術館
K-45.《海》/ 1929年 / 油彩・カンヴァス/ 130.0×162.5cm / 東京国立近代美術館
K-46.《鳥籠》/ 1929年 / 油彩・カンヴァス/ 111.2×145.0cm / 石橋財団石橋美術館
K-47.《漁夫》/ 1929年 / 油彩・カンヴァス/ 90.8×72.6cm / 福岡県立美術館
K-48.《窓外の化粧》/ 1930年 / 油彩・カンヴァス/ 161.8×130.2cm / 神奈川県立近代美術館
K-49.《単純な哀話》/ 1930年 / 油彩・カンヴァス/ 116.7×91.4cm / 石橋財団石橋美術館
K-50.《涯しなき逃避》/ 1930年 / 油彩・カンヴァス/ 116.2×90.8cm / 石橋財団石橋美術館
K-51.《コンポジション》/ 1930年頃 / 油彩・カンヴァス/ 60.5×73.0cm / 埼玉県立近代美術館
K-52.《朗らかな春》/ 1930年 / 水彩, インク・紙 / 29.3×38.5cm
K-53.《無題》/ 水彩・紙 / 15.5×21.5cm / 北九州市立美術館
K-54.《音楽》/ 1931年 / 油彩・カンヴァス/ 60.0×49.3cm / 古賀政男音楽博物館
K-55.《厳しき伝統》/ 1931年 / 油彩・カンヴァス/ 111.2×144.0cm / 石橋財団石橋美術館
K-56.《感傷の静脈》/ 1931年 / 油彩・カンヴァス/ 116.7×90.8cm / 石橋財団石橋美術館
K-57.《現実線を切る主智的表情》/ 1931年 / 油彩・カンヴァス/ 112.5×145.8cm / 西日本新聞社(福岡市美術館寄託)
K-58.《孔雀》/ 1932年 / 油彩・カンヴァス/ 144.8×111.8cm / 福岡大学
K-59.《無題》/ 1932年頃 / 油彩・カンヴァス/ 72.5×60.0cm
K-60.《花野原》/ 1932年 / 水彩・紙 / 38.8×50.0cm / 小さな栗の木美術館
K-61.《深海の情景》/ 1933年 / 油彩・カンヴァス/ 129.0×161.0cm / 財団法人大原美術館
K-62.《そこに在る》/ 1933年 / 水彩・紙 / 23.8×33.0cm
K-63.《公園のエピソード》/ 1933年 / 水彩・紙 / 32.5×23.8cm

三岸好太郎
M-1.《自画像》/ 1921年 / 墨・紙 / 29.0×19.3cm
M-2.《大塚仲町風景》/ 1922年 / 油彩・カンヴァス/ 41.1×52.9cm / 北海道立三岸好太郎美術館
M-3.《花を持つ少女》/ 1922年頃 / 油彩・ボール紙 / 31.1×18.2cm / 北海道立三岸好太郎美術館
M-4.《赤い肩かけの婦人像》/ 1924年 / 油彩・カンヴァス/ 66.0×51.0cm / 北海道立三岸好太郎美術館
M-5.《兄及ビ彼ノ長女》/ 1924年 / 油彩・カンヴァス/ 45.8×33.5cm / 北海道立三岸好太郎美術館
M-6.《机上の静物》/ 1925年 / 油彩・板 / 35.3×42.0cm / 北海道立三岸好太郎美術館
M-7.《我孫子風景》/ 1925年頃 / 油彩・カンヴァス/ 41.2×53.4cm / 北海道立三岸好太郎美術館
M-8.《支那の少女》/ 1926年 / 油彩・カンヴァス/ 42.4×42.5cm / 北海道立三岸好太郎美術館
M-9.《静物(水瓜とぶどう)》/ 1927年頃 / 油彩・カンヴァス/ 32.1×41.2cm / 北海道立三岸好太郎美術館
M-10.《陽子像》/ 1927年頃 / 油彩・カンヴァス/ 53.0×45.5cm / 北海道立三岸好太郎美術館
M-11.《茶畑》/ 1928年 / 油彩・カンヴァス/ 32.2×40.9cm / 北海道立三岸好太郎美術館
M-12.《ニコライ堂遠望》/ 1928年頃 / 油彩・カンヴァス/ 31.8×41.0cm / 神奈川県立近代美術館
M-13.《大通教会》/ 1928年頃 / 油彩・カンヴァス/ 45.5×65.2cm / 北海道立三岸好太郎美術館
M-14.《少年道化》/ 1929年 / 油彩・カンヴァス/ 78.0×63.0cm / 東京国立近代美術館
M-15.《マリオネット》/ 1930年 / 油彩・カンヴァス/ 80.6×65.4cm / 北海道立三岸好太郎美術館
M-16.《黄服少女》/ 1930年 / 油彩・カンヴァス/ 91.1×61.1cm / 北海道立三岸好太郎美術館
M-17.《黒い服の婦人像》/ 1930年頃 / 油彩・紙 / 66.4×46.7cm / 北海道立三岸好太郎美術館
M-18.《道化》/ 1930-31年頃 / 油彩・カンヴァス/ 73.3×54.8cm / 北海道立三岸好太郎美術館
M-19.《白馬と道化》/ 1931年 / 油彩・厚紙 / 40.8×27.5cm / メナード美術館
M-20.《少年》/ 1931年 / 油彩・カンヴァス/ 40.0×31.5cm / 財団法人ヒマラヤ美術館

M-21.《婦人像(赤い服の)》/ 1931年頃 / 油彩・カンヴァス/ 41.8×32.3cm / 北海道立三岸好太郎美術館
M-22.《道化》/ 1931年頃 / 油彩・カンヴァス/ 72.8×53.0cm / 財団法人住建美術館準備室
M-23.《二人の道化》/ 1931年頃 / 油彩・紙 / 57.0×38.0cm / 三重県立美術館
M-24.《立てる道化》/ 1932年頃 / 油彩・カンヴァス/ 130.5×80.8cm / 北海道立三岸好太郎美術館
M-25.《少年道化》/ 1932年頃 / 油彩・板 / 33.0×23.6cm
M-26.《ピエロ》/ 1932年頃 / 油彩・カンヴァス/ 33.5×24.5cm
M-27.《少年道化》/ 1932年頃 / 油彩・板 / 25.5×17.3cm / 高崎市美術館
M-28.《大通公園》/ 1932年 / 油彩・カンヴァス/ 65.0×80.3cm / 北海道立三岸好太郎美術館
M-29.《男二人》/ 1932年 / 油彩・カンヴァス/ 162.3×130.7cm / 北海道立三岸好太郎美術館
M-30.《裸婦B》/ 1932年 / 油彩・ボール紙 / 72.8×48.3cm / 北海道立三岸好太郎美術館
M-31.《立てる裸婦》/ 1932年頃 / 油彩・ボール紙 / 50.5×39.3cm
M-32.《少女の首》/ 1932年頃 / 油彩・カンヴァス/ 45.7×33.8cm / 北海道立三岸好太郎美術館
M-33.《婦人像》/ 1932年頃 / 油彩・カンヴァス/ 33.5×24.9cm / 北海道立三岸好太郎美術館
M-34.《花卜蝶》/ 1932年 / 油彩・カンヴァス/ 80.6×65.6cm / 北海道立三岸好太郎美術館
M-35.《乳首》/ 1932年 / 油彩・カンヴァス/ 106.6×49.7cm / 北海道立三岸好太郎美術館
M-36.《花》/ 1933年 / 油彩・カンヴァス/ 79.0×63.0cm / 茨城県近代美術館
M-37.《花》/ 1933年 / 油彩・カンヴァス/ 92.0×61.7cm / 北海道立三岸好太郎美術館
M-38.《オーケストラ》/ 1933年 / 油彩・カンヴァス/ 91.0×116.5cm / 宮城県美術館
M-39.《〈オーケストラ〉のための下絵》/ 1933年 / クレヨン・紙 / 20.7×30.9cm / 北海道立三岸好太郎美術館
M-40.《〈オーケストラ〉のための下絵》/ 1933年 / クレヨン・紙 / 20.7×30.9cm / 北海道立三岸好太郎美術館
M-41.《〈オーケストラ〉のための下絵》/ 1933年 / コンテ・紙 / 20.7×30.9cm / 北海道立三岸好太郎美術館
M-42.《〈オーケストラ〉のための下絵》/ 1933年 / 墨・紙 / 30.9×20.7cm / 北海道立三岸好太郎美術館
M-43.《構図(暖炉のある静物)》/ 1933年 / 油彩・カンヴァス/ 46.0×53.5cm / 名古屋市美術館
M-44.《パレットのある静物》/ 1933年 / 油彩・カンヴァス/ 45.7×53.4cm / 北海道立三岸好太郎美術館
M-45.《金魚》/ 1933年 / 油彩, コラージュ・カンヴァス/ 53.0×45.3cm
M-46.《三人》/ 1933年 / 油彩・カンヴァス/ 52.5×45.0cm / 財団法人ヒマラヤ美術館
M-47.《コンポジション》/ 1933年頃 / 油彩・カンヴァス/ 106.6×50.5cm / 北海道立三岸好太郎美術館
M-48.《コンポジション》/ 1933年頃 / 油彩・カンヴァス/ 45.2×37.6cm / 北海道立三岸好太郎美術館
M-49.《コンポジション》/ 1933年 / グワッシュ・紙 / 58.3×44.8cm / 北海道立三岸好太郎美術館
M-50.《見物客》/ 1933年 / コラージュ・紙 / 29.4×38.5cm / 北海道立三岸好太郎美術館


M-35


M-61

M-51.《飛行船と人物》/ 1933年頃 / コラージュ，水彩，墨・紙 / 38.6×29.3cm / 北海道立三岸好太郎美術館
M-52.《マーヴェラス・ヴォイス》/ 1933年頃 / コラージュ・紙 / 32.9×25.9cm / 北海道立三岸好太郎美術館
M-53.《目玉》/ 1933年頃 / 墨・紙 / 32.5×24.8cm / 北海道立三岸好太郎美術館
M-54.《二人人物室内》/ 1933年頃 / 墨・紙 / 38.4×29.1cm / 北海道立三岸好太郎美術館
M-55.《窓辺》/ 1933年頃 / 墨・紙 / 38.6×29.2cm / 北海道立三岸好太郎美術館
M-56.《蝶と裸婦》/ 1934年 / 油彩・カンヴァス / 53.0×45.5cm
M-57.《旅愁》/ 1934年 / 油彩・板 / 121.3×85.0cm / 国際興業株式会社強羅ホテル
M-58.《海洋を渡る蝶》/ 1934年 / 油彩・板 / 121.3×85.0cm / 国際興業株式会社強羅ホテル
M-59.《海と射光》/ 1934年 / 油彩・カンヴァス / 162.0×130.8cm / 福岡市美術館
M-60.《飛ぶ蝶》/ 1934年 / 油彩・合板 / 121.2×84.9cm / 北海道立三岸好太郎美術館
M-61.《貝殻》/ 1934年 / 油彩・カンヴァス / 44.5×51.7cm
M-62.《海と射光》/ 1934年 / 油彩・カンヴァス / 72.8×60.8cm / 名古屋市美術館
M-63.《雲の上を飛ぶ蝶》/ 1934年 / 油彩・カンヴァス / 91.6×60.6cm
M-64.《貝殻と蝶》/ 1934年 / 油彩・カンヴァス / 24.3×33.4cm / 北海道立三岸好太郎美術館
M-65. 筆彩素描集『蝶と貝殻』/ 1934年 / 印刷，手彩色・紙 / 30.2×22.8cm / 茨城県近代美術館
1.《蛾》
2.《旅愁》
3.《ヴィーナスと蝶》
4.《貝殻》
5.《雲の上の蛾》
6.《海洋を渡る蝶》
7.《海と射光》
8.《ヒマラヤ杉と蝶》
9.《蝶と蛾》
10.《花と蝶》

＊K-45, M-34は不出品。
＊所蔵の記載のないものは，すべて個人蔵。

結成100年記念　白馬会－明治洋画の新風
1997年2月7日（金）－3月16日（日）
主催：石橋財団石橋美術館／東京国立文化財研究所／日本経済新聞社／西日本新聞社
後援：久留米市教育委員会／財団法人久留米文化振興会
特別協力：東京芸術大学
出品内容：油彩102点，水彩4点，パステル1点，モザイク1点，木炭18点，木版画12点　計138点
入場者総数：12,211人

出品リストは，「主な記録　ブリヂストン美術館」の同展の項を参照のこと。ただし，nos.66, 94, 100は出品されていない。

白馬会展ポスター

石橋美術館別館
《特別展》

石橋美術館別館では，1996年10月17日（木）開館の記念式典をおこない，10月19日（土）より一般公開をおこなった。なお開館記念展は収蔵作品のなかから三期にわけて展示した。

石橋美術館別館開館記念式典

石橋美術館別館 外観

開館記念展
第I期　1996年10月19日（土）－11月10日（日）
出品内容：書画19点，陶磁器6点　計25点

1. 因陀羅《禅機図断簡 丹霞焼仏図》/ 元時代 / 紙本墨画・掛幅装 / 35.0×36.8cm / 国宝*
2. 雪舟《四季山水図（春）》/ 室町時代 / 絹本墨画淡彩・掛幅装 / 70.6×44.2cm / 重要文化財
3. 雪舟《四季山水図（夏）》/ 室町時代 / 絹本墨画淡彩・掛幅装 / 70.6×44.2cm / 重要文化財
4. 雪舟《四季山水図（秋）》/ 室町時代 / 絹本墨画淡彩・掛幅装 / 70.6×44.2cm / 重要文化財

伝 宗達《保元平治物語絵》

開館記念展ポスター

5. 雪舟《四季山水図(冬)》/ 室町時代 / 絹本墨画淡彩・掛幅装 / 70.6×44.2cm / 重要文化財
6. 《古今和歌集巻一断簡 高野切》/ 平安時代 / 紙本墨書・掛幅装 / 25.8×48.8cm / 重要文化財*
7. 《伊勢集断簡 石山切(にさへや)》/ 平安時代 / 紙本墨書・掛幅装 / 20.2×15.4cm / 重要美術品*
8. 《伊勢集断簡 石山切(ももしきの)》/ 平安時代 / 紙本墨書・掛幅装 / 20.4×15.8cm / 重要美術品*
9. 《伊勢集断簡 石山切(みそめすも)》/ 平安時代 / 紙本墨書・掛幅装 / 20.2×15.7cm / 重要美術品*
10. 豊太閤《書翰》/ 安土桃山時代 / 紙本墨書・掛幅装 / 14.0×90.0cm / 重要美術品*
11. 伝 宗達《保元平治物語絵》/ 江戸時代 / 紙本金地著色・めくり(扇面) / 18.2×55.4cm
12. 伝 宗達《保元平治物語絵》/ 江戸時代 / 紙本金地著色・めくり(扇面) / 18.0×55.2cm
13. 伝 宗達《保元平治物語絵》/ 江戸時代 / 紙本金地著色・めくり(扇面) / 18.0×55.2cm
14. 伝 宗達《保元平治物語絵》/ 江戸時代 / 紙本金地著色・めくり(扇面) / 18.4×55.6cm
15. 伝 宗達《保元平治物語絵》/ 江戸時代 / 紙本金地著色・めくり(扇面) / 18.2×55.2cm
16. 伝 宗達《保元平治物語絵》/ 江戸時代 / 紙本金地著色・めくり(扇面) / 17.6×55.0cm
17. 《武蔵野図》/ 江戸時代 / 紙本金地著色・六曲一隻屏風 / 152.3×355.8cm*
18. 円山応挙《牡丹孔雀図》/ 1781年 / 絹本著色・二曲一隻屏風 / 136.0×168.8cm
19. 上村松篁《春日》/ 1996年 / 紙本金地著色・額装 / 85.6×116.0cm*
20. 《色絵菊流水文皿》/ 江戸時代前期 / 5.8×22.8cm*
21. 《色絵竹梅文竹形水注》/ 江戸時代前期 / 15.1cm*
22. 《色絵竹梅虎文六角瓶》/ 江戸時代前期 / 29.0cm*
23. 《色絵花鳥文瓶》/ 江戸時代前期 / 21.5cm*
24. 《色絵花鳥文輪花鉢》/ 江戸時代前期 / 8.0×22.0cm*
25. 《色絵紫陽花唐花文鉢》/ 江戸時代中期 / 9.2×24.2cm*

第II期　11月12日(火)－12月1日(日)
出品内容：書画10点，陶磁器12点　計22点

1. 因陀羅《禅機図断簡 丹霞焼仏図》/ 元時代 / 紙本墨画・掛幅装 / 35.0×36.8cm / 国宝*
2. 雪舟《四季山水図(春)》/ 室町時代 / 絹本墨画淡彩・掛幅装 / 70.6×44.2cm / 重要文化財
3. 雪舟《四季山水図(夏)》/ 室町時代 / 絹本墨画淡彩・掛幅装 / 70.6×44.2cm / 重要文化財
4. 雪舟《四季山水図(秋)》/ 室町時代 / 絹本墨画淡彩・掛幅装 / 70.6×44.2cm / 重要文化財
5. 雪舟《四季山水図(冬)》/ 室町時代 / 絹本墨画淡彩・掛幅装 / 70.6×44.2cm / 重要文化財
6. 雲谷等顔《騎驢人物図》/ 安土桃山時代 / 紙本墨画淡彩・六曲一双屏風 / 154.0×359.6cm*
7. 浦上玉堂《煙雨模糊》/ 1817年 / 紙本墨画・掛幅装 / 112.6×61.8cm*
8. 仙厓《猫鼠》/ 江戸時代 / 紙本墨画・掛幅装 / 35.3×56.9cm
9. 富岡鉄斎《飲中八仙図》/ 近代 / 紙本著色・掛幅装 / 134.6×33.1cm
10. 上村松篁《春日》/ 1996年 / 紙本金地著色・額装 / 85.6×116.0cm*
11. 《灰釉両耳壺》/ 前漢時代 / 30.7cm
12. 《緑釉壺》/ 後漢時代 / 15.7cm*
13. 《三彩壺(万年壺)》/ 唐時代(8世紀) / 18.3cm
14. 《三彩馬》/ 唐時代 / 51.3cm
15. 《白地黒掻落牡丹文花瓶》/ 宋時代 / 21.4cm
16. 《青白磁面取水注》/ 宋時代 / 24.0cm
17. 《青磁銹斑文瓶(飛青磁)》/ 元時代 / 27.0cm / 重要文化財*
18. 《青釉龍文壺》/ 元時代 / 23.5cm*
19. 《色絵唐草文瓢形瓶》/ 明時代 / 19.6cm
20. 《色絵(呉須赤絵)花鳥文大皿》/ 明時代 / 7.5×37.6cm*
21. 《辰砂釉耳付花瓶》/ 清時代 / 29.0cm*
22. 《辰砂象耳角形花瓶》/ 清時代 / 27.5cm*

第III期　12月3日（火）—12月25日（水）
出品内容：書画18点，陶磁器4点　計22点

1. 竹内栖鳳《秋景富嶽図》/ 1933年 / 紙本著色・掛幅装 / 45.0×48.3cm
2. 竹内栖鳳《錦秋図》/ 近代 / 絹本著色・掛幅装 / 44.5×50.6cm
3. 竹内栖鳳《渓山雨後》/ 近代 / 紙本墨画・掛幅装 / 30.5×29.9cm
4. 中村不折《寒山拾得》/ 近代 / 紙本墨画淡彩・掛幅装 / 106.8×38.4cm*
5. 横山大観《紀の森　秋雨》/ 1919年 / 絹本著色・掛幅装 / 50.4×70.6cm
6. 横山大観《神州第一峰》/ 1930年 / 絹本著色・掛幅装 / 67.8×114.8cm
7. 横山大観《霊峰不二》/ 近代 / 絹本著色・掛幅装 / 46.3×56.8cm*
8. 今村紫紅《海の幸山の幸》/ 1908年 / 絹本著色・二曲一双屏風 / 167.8×181.0cm / 法量向右隻*
9. 今村紫紅《竹林閑居》/ 近代 / 絹本著色・掛幅装 / 126.0×40.8cm*
10. 橋本関雪《巫峡帰帆図》/ 1928年 / 絹本著色・掛幅装 / 43.4×56.7cm
11. 橋本関雪《鷹図》/ 近代 / 絹本著色・掛幅装 / 63.6×71.2cm*
12. 近藤浩一路《暁月》/ 近代 / 紙本墨画・掛幅装 / 43.6×53.2cm
13. 川端龍子《木菟（竹夜）》/ 近代 / 紙本墨画淡彩・掛幅装 / 47.4×62.3cm
14. 川端龍子《千鳥》/ 1947年 / 絹本著色・掛幅装 / 67.2×86.4cm*
15. 前田青邨《風神雷神》/ 近代 / 紙本墨画淡彩・掛幅装 / 205.5×108.2cm
16. 前田青邨《紅白梅》/ 近代 / 紙本著色・額装 / 56.4×77.6cm
17. 前田青邨《獅子図》/ 近代 / 紙本金地著色・額装 / 52.8×67.8cm
18. 上村松篁《春日》/ 1996年 / 紙本金地著色・額装 / 85.6×116.0cm*
19. 板谷波山《氷華磁葡萄文花瓶》/ 近代 / 39.0cm
20. 清水六兵衛《古稀彩歯朶花瓶》/ 1974年 / 43.0cm*
21. 清水六兵衛《銹泑秋月花瓶》/ 近代 / 31.0cm*
22. 清水六兵衛《銹泑叢花瓶》/ 1974年 / 35.7cm*

＊*印を付記した作品は寄託作品。

雪舟《四季山水図（春）》

今村紫紅《海の幸山の幸》右隻

《美術講座》

	月日	講座題目	講師
		《石橋文化センター開園40周年記念特別講演会》（於石橋文化ホール）	
1996年	5月 4日	印象派とその時代	高階秀爾氏
		《「麗しき前衛の時代－古賀春江と三岸好太郎展」開催記念美術講座》	
	6月29日	古賀春江と三岸好太郎の「出会い」	杉本秀子
	7月 6日	古賀春江と三岸好太郎のサーカス	山梨俊夫氏
	7月13日	麗しきかな，かの前衛の時代	小泉淳一氏
		《石橋美術館別館開館記念美術講演会》（於石橋文化会館小ホール）	
	10月26日	日本絵画と秋	武田恒夫氏
		《石橋美術館学芸員による美術講座》	
	12月14日	明治期の美術と裸体画	植野健造
	12月21日	中丸精十郎の《瀑》をめぐって	橋富博喜
1997年	1月11日	青木繁と神話	田内正宏
	1月18日	明治期のやまと絵派	平間理香
	1月25日	萬鉄五郎から古賀春江へ	杉本秀子
		《「結成100年記念　白馬会－明治洋画の新風」展開催記念美術講座》（於石橋文化会館小ホール）	
	2月15日	黒田清輝と白馬会	三輪英夫氏
	2月22日	白馬会－組織と活動	植野健造
	3月 1日	風景画の視線－日本近代洋画と白馬会	松本誠一氏

《博物館実習生の受入れ》

学芸員資格取得のための博物館実習生を次のように受入れた。
期間：1996年7月26日－8月6日
人数：2校　6名

実習内容：

	10:00－12:00	13:00－17:00
7/26（金）	作品撤去と梱包作業見学・実習	
7/27（土）	展示作業見学・実習	
7/28（日）	公募展作品搬出作業実習	
7/29（月）	公募展作品搬出作業実習	
7/30（火）	レポート作成	
7/31（水）	施設の管理	図書資料の整理保存
8/ 1（木）	作品の管理	作品調書の作成
8/ 2（金）	他館の見学	
8/ 3（土）	「筑後川フェスタ・シンポジュウム：筑後川と筑紫平野の歴史」参加	
8/ 4（日）	「筑後川フェスタ・シンポジュウム：筑後川の将来構想と文化・クラスター構想群」参加	
8/ 5（月）	レポート作成	
8/ 6（火）	特別展の企画	梱包実習

《1996年度新収図書》

	購入		寄贈	計
	石橋美術館	石橋美術館別館		
和書	257冊＊	292冊	180冊	729冊
洋書	34冊	1冊	10冊	45冊
漢書	0冊	23冊	0冊	23冊
計	291冊	316冊	190冊	797冊

(展覧会図録・逐次刊行物は含まない)
＊マイクロフィルム100リールを含む

1996年度入場者数

ブリヂストン美術館

月	開館日数	有料					無料	総計	一日平均
		一般	大・高生	中・小生	団体	合計			
4	22	2,810	571	265	188	3,834	70	3,904	177
5	27	4,806	1,324	660	430	7,220	104	7,324	271
6	20	3,364	729	237	490	4,820	115	4,935	247
7	26	3,390	694	407	655	5,146	57	5,203	200
8	27	5,055	1,246	1,434	205	7,940	59	7,999	296
9	25	3,423	688	141	449	4,701	41	4,742	190
10	21	3,926	513	140	670	5,249	2,132	7,381	351
11	24	13,232	1,288	224	858	15,602	13,749	29,351	1,223
12	17	2,166	411	50	185	2,812	65	2,877	169
1	23	2,731	588	128	139	3,586	52	3,638	158
2	24	4,045	743	313	292	5,393	63	5,456	227
3	26	4,817	948	362	186	6,313	189	6,502	250
合計	282	53,765	9,743	4,361	4,747	72,616	16,696	89,312	317

石橋美術館

月	開館日数	有料					無料	総計	一日平均
		一般	大・高生	中・小生	団体	合計			
4	22	5,370	359	517	538	6,784	810	7,594	345
5	23	15,510	1,178	1,306	2,572	20,566	5,321	25,887	1,125
6	20	1,747	89	57	1,276	3,169	316	3,485	174
7	23	1,826	120	97	520	2,563	1,335	3,898	169
8	26	1,685	243	410	320	2,658	18	2,676	102
9	25	1,592	90	90	305	2,077	49	2,126	85
10	27	2,351	82	68	697	3,198	335	3,533	131
11	26	2,322	203	55	979	3,559	433	3,992	153
12	23	820	82	31	191	1,124	101	1,225	53
1	23	938	39	42	4	1,023	124	1,147	50
2	19	3,603	166	140	673	4,582	1,161	5,743	302
3	22	4,003	253	213	545	5,014	2,249	7,263	330
合計	279	41,767	2,904	3,026	8,620	56,317	12,252	68,569	252

石橋美術館別館

月	開館日数	有料					無料	総計	一日平均
		一般	大・高生	中・小生	団体	合計			
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10	11	3,081	73	53	55	3,262	633	3,895	354
11	26	3,148	103	58	28	3,337	1,041	4,378	168
12	21	998	43	23	0	1,064	296	1,360	65
1	23	669	13	20	20	722	145	867	38
2	24	1,083	34	19	162	1,298	152	1,450	60
3	26	1,391	50	32	109	1,582	229	1,811	70
合計	131	10,370	316	205	374	11,265	2,496	13,761	105

新収蔵作品　New Acquisitions

石橋美術館別館

円山応挙
MARUYAMA Okyo
1733-1795

牡丹孔雀図
天明元年(1781)
絹本著色，屏風装(二曲一隻)，136.0×168.8cm
画面右下に落款印章：辛丑仲春／應擧寫；應擧／之印；仲／選

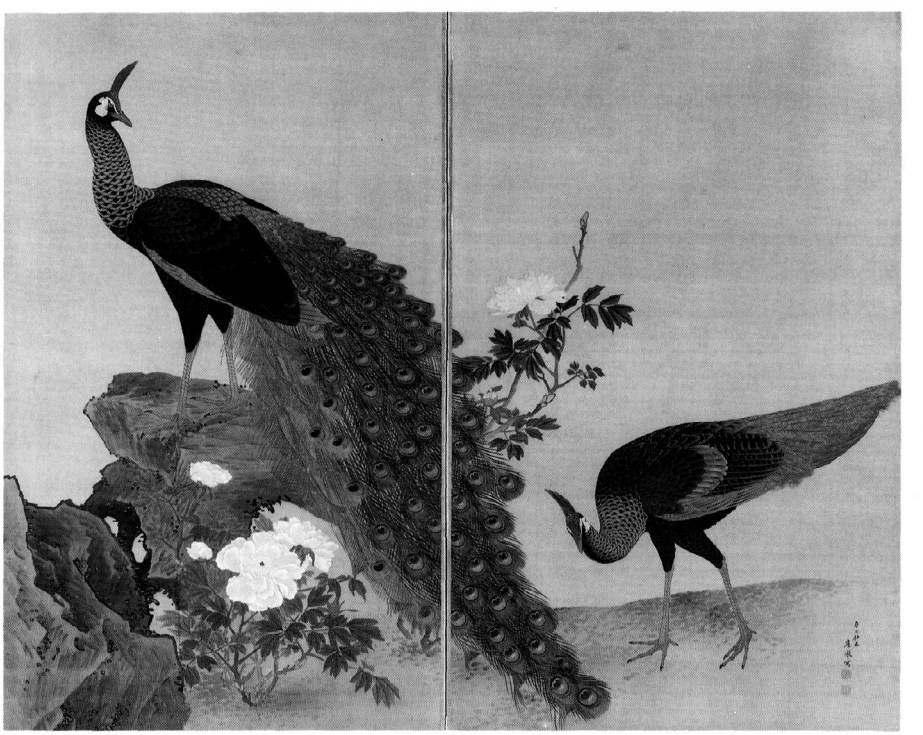
Peony and Peacocks
1781
Color on silk, folding screen (consisted of two panels), 136.0×168.8cm
Signed, dated and sealed lower right

来歴：個人，ニューヨーク；1996年，東京画廊；1996年，石橋財団
Prov.: Private collection, New York; 1996, Tokyo Art Gallery; 1996, Ishibashi Foundation

保管：石橋美術館別館
Managed by Ishibashi Museum of Art, Asian Gallery (Kurume)

江戸時代中期の京都の画家円山応挙は，写実的な画風を特色とする円山派の祖とされる。

孔雀は応挙の得意とする題材のひとつで，今日多くの作品が伝わっている。その中で明和8年(1771)に制作された旧円満院蔵の《牡丹孔雀図》(現萬野美術館蔵)とは，構図や材質，法量がほぼ同じであり，本作品もともとは大幅の掛幅装であったと考えられる。本作品を制作した天明元年(1781)，応挙は光格天皇即位大礼に臨んで《牡丹孔雀図屏風》を描いている。



修復記録

長谷川路可《フェドラ》 1955-56年
フレスコ(画布に移し換えられている)91.5×57.4cm
ブリヂストン美術館

長谷川路可《パリファエ》 1955-56年
フレスコ(画布に移し換えられている)85.0×65.0cm
ブリヂストン美術館

長谷川路可《シルラ》 1955-56年
フレスコ(画布に移し換えられている)97.1×63.0cm
ブリヂストン美術館

[はじめに]

昨年度に引き続き長谷川路可作品3点を修復した。現在ブリヂストン美術館には同時期の路可作品が計8点収蔵されている。これは石橋正二郎氏が路可にブリヂストン美術館のためにフレスコでポンペイ壁画を模写することを依頼したためである(『ブリヂストン・ニュース』1965年5月号)。

それぞれの作品は漆喰地にア・フレスコ技法で描かれた後,作者自身の手で彩色層が壁から剥がされ,漆喰壁が画布に移し換えられて制作が完了し,現在に至ったものである。

言うまでもなくア・フレスコ技法で描かれた後ストラッポされた本作品は,絵画表現としての彩色層だけでなく漆喰という素材が物質感として作品の表現を支えている。特に今回の作品はローマ時代の壁画の模写であり,作者は模写を単なる図像として行ったのではなく,石橋正二郎氏の依頼のとおりにフレスコという技法・材料の面からアプローチした。

同時に路可が「対談　壁画　宗教芸術　フレスコの歴史と技術(美術手帖1957年11月号)」において,

fig.1　《フェドラ》修復後全図

fig.2　《パリファエ》修復後全図

fig.5　《パリファエ》側光線写真
漆喰層の厚さの違いによる画面の変形が見られる

私がなぜこれを(フレスコのストラッポ技法)夢中になって覚えるために粘ってローマにいたかといいますと,日本の画壇に新しい技術が入るんですよ。創作をフレスコでやり,それをカンバスに張りつけて油絵と同じような方法で陳列すれば,これはひとつの技巧が入るんです。勿論これは見せるだけのものなんで,壁画の本質はそれでは嘘なんです。決して持っていって見せるものではなく,建築の一部を装飾して,はじめて壁画の本質がある。

と語っていることからも,彼が作品の物質性と同じように展示空間や環境までをも意識して制作していたことが明らかとなる。

作品の制作にあたり,作者がこのように技法と材料に関心を示していた以上,修復処置にあたっては作品の構造的なオリジナリティーの保存が非常に重要なこととなる。

「修復の原則は,原画を損なわず,作品をできる限り元の状態に戻す。再修復に備えて除去の容易な材料を使用する。」といった考えはほとんどの修復家の念頭にあることと思う。しかしこの原則を維持するためには"原画"とは何か,"元の状態"とはどういった状態であるのか,ということをその出発点として確認する必要がある。

今回保存修復処置にあたり,ともすれば図像の保存・修復にのみ偏りがちな処置の評価に対して,作品の物質や構造としてのオリジナリティーを保存・修復することを評価の基準とした。

結果として作者の意図した作品の構造的な"原画"の保存修復ができたものと考えている。しかし,図像の修復の面から見ると,鑑賞の妨げとなる部分を残した可能性があり,一般的な修復に対する期待には応えていないかも知れない。作品に対する保存修復処置を,何を持って評価するのかは,今後より広く検討されるべきものと考える。これは,我々修復処置を行った者のみで解答が出せる問題ではないからである。

[作品の状態]

《フェドラ》(fig.1)《パリファエ》(fig.2)

これらの作品は当初漆喰に描かれた後剥ぎ取られ,亜麻布に移し換えられている。この亜麻布は《フェドラ》では目の粗い薄地のもの(織り糸数 経糸10,緯糸10本/1cm^2)で,地塗り層は観察できなかった。また《パリファエ》では非常に目の細かい薄地のもの(織り糸数　経糸18,緯糸18本/1cm^2)で,白色の地塗りが施されていた。

壁画を本来の壁から剥し,他の支持体に移し換えるこの技法は,ストラッポと呼ばれ,本来は作品の移動・保存のための処置であった。この作者はストラッポ技法も一つの表現上の技法として使用した可能性もある

ストラッポされた絵画層は,漆喰層部分を含んでやや厚めにはぎ取られている。漆喰層は砂混じりの灰白色で表面にはやや荒い粒子が目立つ。厚めにストラッポされた為,随所に漆喰層の割れ・浮き上がりがあり,剥落の恐れがある。資料によると作者は画布への接着にアクリル・エマルジョンの接着剤を用いている。作品の一部彩色層はめくれあがるように浮き上がり,剥落している(fig.3, 4)。

堅く脆い漆喰地を柔軟性のある画布の上に移し換えた事により様々な問題が起きている。接着剤を大量に用いて処置(漆喰層の移し換え)が行われているため漆喰層は硬く固化し,画布に歪みが発生している(fig.5)。このように漆喰の厚い作品は脆く壊れやすいため,画布のたわみや振動による損傷を防ぐ目的で板状の支持体を画布裏面にあてがう必要がある。

木枠は目の字型でF50号の規格品を断ち落とし再使用。断ち落とした部分は45度に切られ,ほぞ組無しで直接に接着されている。また中桟もほぞ組はなく,釘打ちによって接

fig.3　《フェドラ》彩色層の浮き上がりと剥落

fig.4　《パリファエ》支持体から浮き上がった漆喰層の状態

合されている。木枠には若干の変形があるが，充分な強度を持っている。木枠の四隅と中桟には楔穴は無く，楔が使用された形跡は無い。

剥ぎ取られ，移し換えられた表面は矩形ではない。作品画面寸法よりも大きく，枠側面に折込まれた部分がある(fig.6)。剥ぎ取り層の周辺部ではめくれたり，巻込まれたまま接着された部分もある。

本作品の画布は薄く，特に画布の張りしろ部分が劣化している。このままでは作品の保持が不充分であり，支持方法を改良する必要がある。

《シルラ》(fig.7)

この作品も他の2点と同様の模写であるが，ストラッポと呼ぶよりもスタッコと呼ばれる処置に近い。こちらはストラッポに比べ比較的厚く，構造としての壁面漆喰層まで剥ぎ取る処置である。本報告書では今後この方法はスタッコと呼ぶ。

作品はスタッコされた壁画の部分と，スタッコ時に欠損し画布に直接漆喰を塗り付け，高さあわせをした後に補筆された部分と，さらにその後漆喰が剥落した部分の三種の部分から成っている。

作品木枠は目の字型でＰ40号の規格品を断ち落として使用している。断ち落とした部分の組み手は無く，45度に切られた材をそのまま接着固定している。また中桟もほぞ組はなく，釘打ちによって接合されている。木枠には若干の変形があるが，充分な強度を持っている。木枠の四隅と中桟には楔穴は無く，楔が使用された形跡は無い。

支持体の亜麻布は非常に目の粗い薄地のもの(織り糸数　経糸10，緯糸10本／1cm^2)で，地塗り層は観察できない。この画布は《フェドラ》と同じものと考えられる。

堅く脆い漆喰地を柔軟性のある画布に移し換えたことによって，様々な問題が起きている。

漆喰地は非常に厚く4から5mm程もあり，作品支持体には多大なるストレスが掛かっている。また画面四隅にはこの漆喰層がなく麻布が露出した部分もあり，支持体にはより多くのストレスが掛かっている。さらに，非常に厚い漆喰層は一切の柔軟性がなく，柔軟な支持体である麻布はこの漆喰層を支持しきれず，漆喰層は木枠に沿って亀裂，浮き上がり，剥落を起こしている(fig.8)。

この剥落は既にスタッコ時に発生し，その部分には作者によって漆喰の充填と補筆が行われている。

スタッコ時に使用された接着剤が画面表面に残っているため，この接着剤の縮みにより，絵具層には接着不良と浮き上がりが発生しており，一部には剥落の恐れがある。

模写の図像となるオリジナルの絵具層はスタッコ時にかなりの部分が失われ，半ば消えかかった状態で残っている。現在はっきり見えている図像はスタッコ終了後の作者による補筆と考えられる。

本作品の画布は薄く，スタッコ時に強く洗浄された為，特に画布の張りしろ部分が劣化している。このままでは作品の保持が不充分であり，支持方法を改良する必要がある。

［処置の方針］

処置の前に3点の作品それぞれに紫外線蛍光写真撮影・実体顕微鏡写真撮影を伴う調査を行なった。結果作品には前回館報(館報44号)で報告したものと同様に様相の異なる四種類の“損傷”(見かけ上の破綻を含む)が認められた。

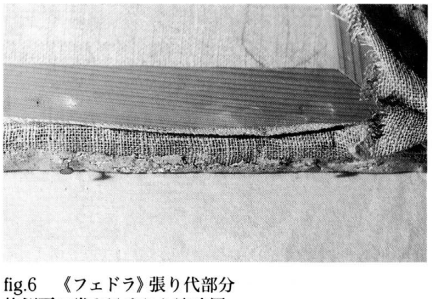


fig.6　《フェドラ》張り代部分
枠側面に巻き込まれた漆喰層

fig.7　《シルラ》修復後全図

fig.8　《シルラ》側光線写真
漆喰層の亀裂と画布の変形が見られる

1. 模写対象作品の現状として模写された“損傷”
2. 移し換え時に損われ，作者が放置した“損傷”
3. 作者が漆喰の盛り上げと彩色によって補った，周囲と違和感のある加筆（“損傷”）
4. 制作終了後に受けた“損傷”

今年度の修復処置では《シルラ》のストラッポと言うよりは，スタッコと言えるほど厚く剥ぎ取られている漆喰層の保存処置が問題となった。前述したように，これらの剥ぎ取りの技法も，作者は表現上の一つの技法として使用した可能性がある。漆喰層が厚いため，重く木枠に張った画布では作品を支持しきれない。充分な支持力を持つ他の支持体に置き換える処置を検討した。

しかし修復に当たり第一に考慮しなければならない事は，作品のオリジナリティーの保存にある。前述したように作品はストラッポやスタッコという通常保存・修復の為の技法がその制作手法の一部となった可能性がある。通常の修復処置では，原作の質感と違和感を持った旧修復は除去し再修復を行う。しかし本作品に於いては，この違和感を持った部分が修復処置ではなく，作者の意図する表現であった可能性も否定できない。さらに，作品は壁画の現状模写であり，模写された原画のオリジナリティーと，模写を行なった作者の作品としてのオリジナリティーとの問題も内在する。

我々は修復処置の方針を，原作の質感と違和感の無いように，出来る限り現状を維持保存することとした。明らかに制作後に受けた損傷部であっても，現時点に於いては充填や補彩は行わず，今後の課題として広く関係者の意見を聞くこととした。

［修復処置工程］

《フェドラ》《パリファエ》

＊紫外線蛍光写真撮影・実体顕微鏡写真撮影を伴う作品の調査を行なった
＊合成樹脂 D-8（エチレン化酢酸ビニル樹脂エマルジョン）5%水溶液を損傷部に含浸させ接着を強化した
＊漆喰層の浮き上がり部にD-8を含浸させ加温加圧し変形を修正した（fig.9, 10）
＊合成樹脂（BEVA371）5%トルエン溶液を含浸させ漆喰層の強化をはかった
＊木枠を解体し再接着によって調整を行った
＊樹脂板裏面にクラフト紙を貼った後亜麻布を貼り付けた
＊木枠にアルミでコートされた樹脂板を接着した
＊緩衝材として樹脂板表面にフェルトを貼り付けた（fig.11）
＊画布貼り代部分を薄手の亜麻布で補強した
＊調整した木枠へステンレスのタックスで張り込んだ
＊修復後の写真撮影及び報告書を作成した

紫外線蛍光写真撮影・実体顕微鏡写真撮影を伴う作品の調査を行った。

移し換え，貼り付けられた絵具層の浮き上がり部に，D-8 5%水溶液を含浸させ，接着を強化した。

損傷部周辺の漆喰が脆くなり剥落の恐れのある部分に，D-8 5%水溶液を含浸させ漆喰層の接着を強化した。

漆喰層の層間剥離部や，支持体との浮き上がり部にD-8を含浸させ，シリコンコートされたフィルム越しに加温加圧し漆喰層の変形を修正した。

再度，漆喰層の強化をはかり，BEVA371 5%トルエン溶

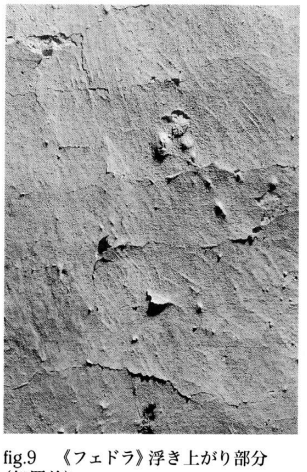


fig.9　《フェドラ》浮き上がり部分（処置前）

fig.10　《フェドラ》浮き上がり部分（処置後）

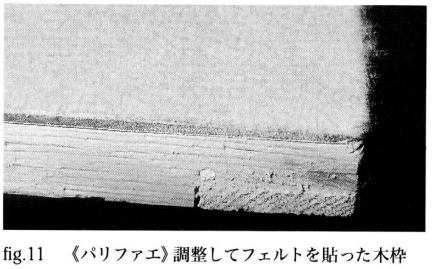


fig.11　《パリファエ》調整してフェルトを貼った木枠

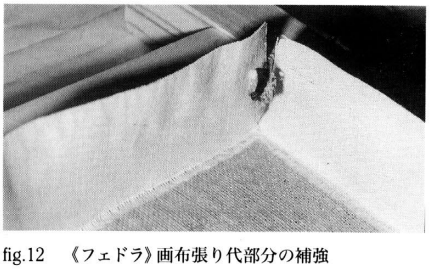


fig.12　《フェドラ》画布張り代部分の補強

液を漆喰層に含浸させた。

画布の支持を補助するため，アルミでコートされた樹脂板を木枠表面にステンレス製ビスで固定した。この樹脂板の裏面には，原作の質感を保持するためクラフト紙を貼り付けた後，目の粗い亜麻布を貼り付けた。樹脂板の表面には画布の緩衝材としてフェルトを貼り付けた。

画布貼り代部分に薄手の亜麻布をBEVA371で裏打ちし，画布張り込みの補強をした(fig.12)。

調整した木枠へ補強した画布を，ステンレス製のタックスを使用して張り込んだ。この際出来る限り補強した画布の元の釘穴へタックスを打った。

修復後の状態を撮影記録した。

《シルラ》

＊紫外線蛍光写真撮影・実体顕微鏡写真撮影を伴う作品の調査を行なった

＊D-8 5%水溶液を絵具層損傷部に含浸させ接着を強化した

＊D-8を漆喰層の損傷部に注入し，漆喰層の接着を強化し，同時に柔軟性を与えた

＊木枠を解体し再接着によって調整を行った

＊アルミでコートされた樹脂板表面にスチレンボードと中性紙ボードをD-8で接着した

＊準備された樹脂板にドリルでパンチングを行った

＊画布張り代部分を薄手の亜麻布で補強した

＊画布裏面へ和紙による裏打ちを行った

＊準備された画布と準備された樹脂板をD-8に粉末状シリコンとマイクロバルーンを混入した接着剤で貼り付けた

＊作品を接着した樹脂板裏面に中性紙ボードを貼り付けた

＊中性紙ボードにクラフト紙を接着した

＊木枠に亜麻布を張り込んだ

＊画布張り代を木枠にステンレスタックスで固定した

＊修復後の写真撮影及び報告書を作成した

紫外線蛍光写真撮影・実体顕微鏡写真撮影を伴う作品の調査を行った。双眼実体顕微鏡による調査の結果，前述した作品の状態が確認された。透過光の観察でも画面の漆喰層の厚さが確認された。

本作品はスタッコされた模写であり，オリジナリティーの保存に留意して修復処置を行った。

絵具層の浮き上がり部に，D-8 5%水溶液を含浸させ加温加圧して接着をした(fig.13, 14)。

剥落の恐れがある漆喰層の接着不良部分にD-8を注入し接着を強化した。田中千秋氏の指導で，この部分には上記した絵具層の浮き上がり部のような加温加圧による接着は行わず，現状を維持することとした。

画布張り代部分に薄手の亜麻布をBEVA371で裏打ちし，画布張り代の補強をした。

画布裏面にD-8を接着剤として和紙による裏打ちを行った(fig.15)。これは接着剤が画布の目から作品表面へ染み出すことを防止するためである。

断ち落とされ，接着固定された木枠を解体し，接着面を削り接合角を修整した後，再接着することで木枠の調整を行った。

画布の支持法を改善するため，アルミでコートされた樹

fig.13　《シルラ》浮き上がり部分(処置前)

fig.14　《シルラ》浮き上がり部分(処置後)

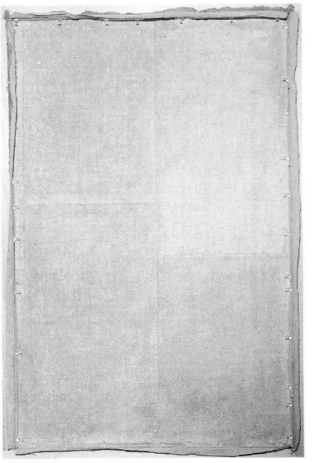


fig.15　《シルラ》和紙による裏打ち後

脂板にスチレンボードを貼り，その上に中性紙ボードを貼り付けた。今後樹脂版を外す必要が生じた際には，スチレンボードの層から解体することができる。

画布接着時に過分となる接着剤を排出するため，と同時に接着剤による投錨効果で接着を補強するため，ボード表面全面にドリルによるパンチング処理を行った(fig.16)。

調整したボードへ補強した画布を，D-8にマイクロバルーンと粉末シリコンを混入したペースト状の接着剤で貼り付けた(fig.17, 18)。

作品を貼り付けたボードの変形を防ぐため裏面に中性紙ボードを接着した。

原作の質感を保持するため作品裏面にクラフト紙を接着した。また木枠に目の粗い薄手の亜麻布を張った。その上に作品を貼り付けたボードを乗せ，画布張り代部分を木枠にステンレス製のタックスを使用して張り込んだ。この張り込みによって木枠とボードを固定した。尚この際画布の補強した元の釘穴へタックスを打った。

修復後の状態を撮影記録した(fig.19)。

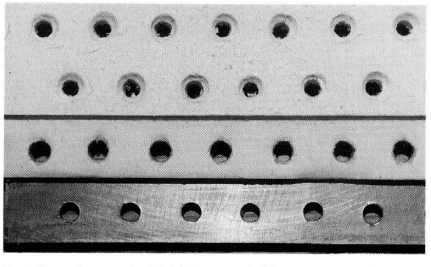


fig.16　《シルラ》支持体として調整した樹脂板(サンプル)

fig.17　《シルラ》マイクロバルーンと
粉末シリコンを混入したD-8を画布裏面に塗る

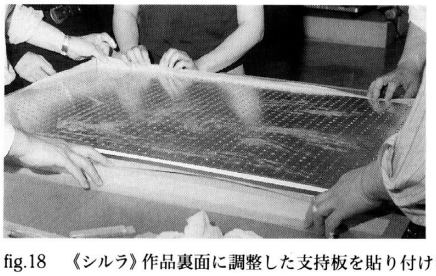


fig.18　《シルラ》作品裏面に調整した支持板を貼り付ける

[おわりに]

今回の処置によって，作者が意図した作品の構造的な“原画”の保存修復ができたものと考えている。

ここで言う“原画”とは作者が制作した“模写”としての原画であり，模写の対象となった作品の“原画”ではない。よって，図像の保存・修復の面から見ると，鑑賞の妨げとなる部分を残した可能性があり，一般的な修復に対する期待には応えていないかも知れない。作品に対する保存修復処置を何を持って評価するのかは，今後より広く検討されるべきものと考える。そのためにも“原画”とは何か，“元の状態”とはどういった状態であるのか，ということをその出発点として確認する必要があろう。今回の処置に際して保存担当学芸員田中千秋氏と充分な検討を行った。しかし，上述した問題は我々修復処置を行った者のみで解答が出せたとは思えない。

現時点で急いで結論を出すことよりは，充分な議論がなされ，修復処置に対するコンセンサスが得られるまで現状を保存することも修復処置の一つの在り方ではないだろうか。これは修復処置としては消極的とも捉えられるが，保存修復処置としては積極的な解答でもあろう。

今回の処置に当たり処置方針の検討時や処置作業中に，保存担当学芸員 田中千秋氏のみならず，ブリヂストン美術館の学芸員諸氏にも積極的にお手伝いいただいた。これは，美術館が作品を展示するためだけの場ではなく，保存修復し，作品を研究するための機関として機能していることの表われであろう。

fig.19　《シルラ》修復後側光線写真

藤島武二《ネミ湖》 1908年
油彩・板　26.2×34.8cm
石橋美術館

［作品の状態］

ワニス層には経年による黄化，及び汚れがある。絵具層の支持体との固着状態は良好であるが，上辺中央部が一箇所，支持体ごと欠損している。また，額当たりによる剥落や変形が四辺周辺に生じている。汚れ，細かいしみや虫糞が目立つ。

画面端や画面中の塗り残し箇所に支持体の木地が見えるため，地塗層を施さずに直接板に描いたと思われる。

支持体は約3mm厚，裏面四辺をゆるやかに斜めに削った油彩用板で，画面側に凸状の反りが水平方向に最大約5mm（中央部）生じている。裏面右辺端は破損し，欠けている所もあり，下辺には虫喰い跡もある。また，油性，水性のしみも見える。右辺やや上部にCIANPINOの字が天地逆に鉛筆で書かれている。板の反りの絵具層への悪影響は現時点では認められない（fig.1, 2）。

［処置の概要］

1. 写真撮影（fig.3），状態調査。
2. ワニス除去：ミネラルスピリットとエタノールの混合溶液を使用した
3. 画面洗浄：希アンモニア水で洗浄後，純水で洗浄の仕上げを行った（fig.4）。なお，虫糞は湿り気を与え，やや柔かくした後，よく切れるメスで絵具層を傷めない様に注意しながら慎重に除去した。
4. 支持体裏面処置：エタノールで清掃殺菌した後，破損部を膠水で接着し，欠損部に充填をし，整形した。
5. 充填整形：支持体ごと欠損している上辺部及び絵具層の欠損箇所に，強化ワックスと炭酸カルシウムを練り合わせたものを充填し，周囲のマチエールに合わせて整形した（fig.5）。
6. 殺菌・防黴：画面，及び裏面にチアベンダゾールを主剤とする防黴剤を塗布した。
7. 補彩：充填箇所に溶剤型アクリル絵具及び修復用樹脂絵具にて補彩を施した。
8. ワニス塗布：下層にダンマル樹脂，上層にケトン樹脂を塗布した。
9. 修復後の写真撮影：なお，修復中の工程毎にも必要に応じた写真撮影を行った（fig.6, 7）。

（創形美術学校修復研究所　村山浩規）

fig.1　《ネミ湖》修復前全図 表

fig.2　《ネミ湖》修復前全図 裏

fig.3　《ネミ湖》修復前全図 左側光

fig.4　《ネミ湖》修復中全図 洗浄途中

fig.5　《ネミ湖》修復中全図 充填整形

fig.6　《ネミ湖》修復後全図 表

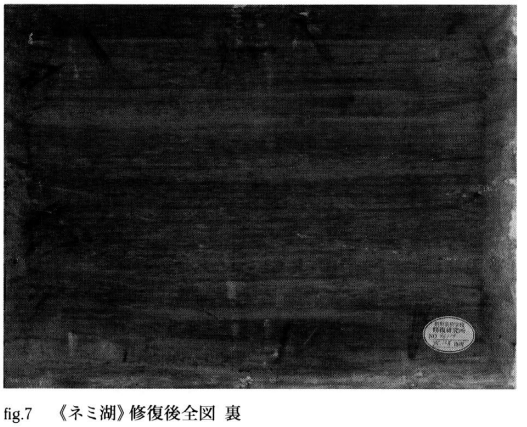


fig.7　《ネミ湖》修復後全図 裏

平賀亀祐《古い巴里の街角》 1954年
油彩・麻布　120.5×144.5cm
石橋美術館

［作品の状態］

ワニスは埃が付着し汚れており，塗りむらがある。

絵具は厚塗りである。画面中央の赤い建物部分の損傷がひどく，浮き上がりを伴った剥落と細かい亀裂が生じており，画面保護の為に和紙が貼られている。空部分には大小の亀裂が左右方向に生じ，僅かに浮き上がりかけている。周辺部分には額ずれによる擦傷がある。

既製のキャンバスで地塗りは白色である。

支持体は麻布で目の細かい平織りである。天地方向の織り糸は緯糸で，織り糸数は1cm²当たり経糸20本，緯糸30本である。張りが弱く画面四隅にたわみが生じている。また，絵具の亀裂に沿って変形を起こしている。裏面には油性のしみがあり埃が付着して汚れている。

木枠は手製で打ち接ぎ式である。員数は6本で中桟が十字に入っている。ネジ釘が錆びており周囲の木枠が腐食している。四辺には補強の為と思われる細い木材が打ち付けてある。楔及び楔穴は無い。木枠が薄い為，強度が不足している。

［処置の概要］

1. 写真撮影(fig.1, 2, 3)，状態調査。
2. 浮き上がり接着：木枠より取り外した後，パネルに固定。膠水にて仮接着し保護和紙を取り除いてから，パラロイドB72にて接着。
3. 変形修正：裏面から加湿，加温して修正した。
4. 耳補強：帯状に切った麻布を四辺の耳部分にBEVA 371シートにて接着し補強した。
5. 支持体張り直し：裏面をエタノールで殺菌した後，新調した木枠に張り込んだ。
6. ワニス除去：キシレンを使用した(fig.4)。
7. 画面洗浄：ミネラルスピリットとキシレンの混合液を使用した。
8. 充填整形：絵具層の欠損部分に炭酸カルシウムと合成樹脂を練り合わせたものを充填し，周囲のマチエールに合わせて整形した(fig.5)。
9. 殺菌：画面にチアベンダゾールを主剤とする防黴剤を塗布した。
10. 補彩：充填整形箇所及び擦傷部分に，溶剤型アクリル絵具及び修復家用樹脂絵具にて補彩を施した。
11. ワニス塗布：下層にダンマル樹脂，上層にケトン樹脂を塗布した。
12. 修復後の写真撮影：なお，修復中の工程毎にも必要に応じた写真撮影を行った(fig.6, 7)。

（創形美術学校修復研究所　増田久美）

fig.1　《古い巴里の街角》修復前全図 表

fig.2　《古い巴里の街角》修復前全図 裏

fig.3　《古い巴里の街角》修復前全図 左側光

fig.4　《古い巴里の街角》修復中全図 洗浄途中

fig.5　《古い巴里の街角》修復中全図 充填整形

fig.6　《古い巴里の街角》修復後全図 表

fig.7　《古い巴里の街角》修復後全図 裏

児島善三郎《トレド風景》　1928年頃
油彩・麻布　50.1×100.1cm
石橋美術館

［作品の状態］

支持体は織り糸数1cm²当たり，経糸26本，緯糸27本，平織りの亜麻布である。ワニス層は認められない。

油性の白色塗料の上に褐色の地塗りを施し，それを生かして描いている。下辺耳部分には，画面と同じ色調の絵具があることから，以前に画面変更が行われたと考えられる。

全面に細かく亀裂があり，亀裂の角が浮き上がり気味になっている。実際浮き上がっているところもある。全面に細かく走る亀裂のため，支持体も僅かに変形し，その結果浮き上がりなど絵具層に影響を及ぼしている。

額の入れ子で隠れていた部分の絵具は比較的明るい色調であることから，その他の部分の絵具層は，経年により変色していると考えられる（fig.1）。

綿埃が全面に付着し，黴の形跡も見られる。以前に脱脂綿などで拭いたのではないかと思われる。

支持体には木枠との接触により生じた変形があり，側光線写真からわかるように，かなり目立っている（fig.3, 4）。裏面側に数カ所油性のしみがあるが，状態は良好である（fig.2）。

木枠は員数6本の杉材，留め接ぎ構造で楔穴はあるが楔はない。木枠に張られた状態では確認できなかったが，作品を木枠から外してみると，内側，つまり画布と木枠とが接触している側は，画布と木枠が直接接する部分を少なくするために，中桟以外の木枠はL字形に細工されていた。一箇所割れている。

［処置の概要］

1. 写真撮影，状態調査。
2. 浮き上がり接着：絵具層に柔軟性がないこと，亀裂の状態から将来再び浮き上がりを生じる危険性が心配されることなどから，パラロイドB72を用い，加温，加圧して接着した。
3. 洗浄：純水とエタノールの混合液を洗浄剤として使用した。以前に洗浄されているらしく，ほとんど汚れは見られなかった。
4. 支持体変形修正：木枠から取り外し，裏面より加湿，加温，加圧して変形を修正した。
5. 張り直し：画布の周囲に帯状の麻布を，シート状のBEVA371で接着，補強した（fig.5）。画布そのものには損傷は認められず，状態も良いことから，接着剤を用いての全面的な裏打は必要ないと判断し，ポリエステル布で，ルースライニングをした。ルースライニングにより，物理的な画布の動きを軽減し，木枠との関係を緩和することができた。またこの方法は湿気や埃などから作品を防ぐ効果もある。
   木枠は二重の張り込みに耐えられるように，新たに楔付き特注木枠を使用した（fig.8）。
6. 充填整形：絵具層の欠損部分に，炭酸カルシウムと強化ワックスを練り合わせたものを充填し，周囲のマチエールに合わせて整形した（fig.6）。
7. 殺菌・防黴処置：画面にはチアベンダゾールを主剤とした防黴剤を塗布し，作品裏面側はエタノールを用い殺菌した。
8. 補彩：修復用樹脂絵具を使用した（fig.7）。
9. ワニス塗布：下層にダンマル樹脂，上層にケトン樹脂のワニスを塗布した。
10. 修復後の写真撮影：修復中の作業工程のその都度，必要に応じて写真撮影を行った。

fig.1　《トレド風景》修復前全図 表

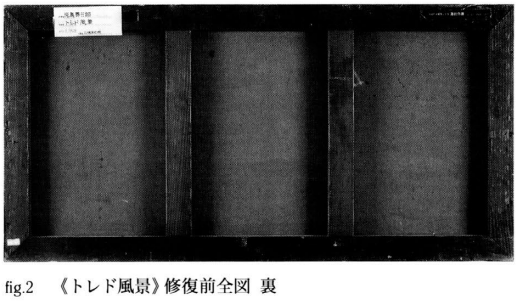


fig.2　《トレド風景》修復前全図 裏

[まとめ]

亀裂や木枠との接触による変形は，完全には修正できなかったが，作品の状態を考慮すると，これ以上の処置は今のところ必要ないと判断した。また画面全体に見られる絵具層の変色，特に空部分の変色は，確かに暗い印象ではあるが，全体的なバランスは保たれていると判断し，現状のままとした。

※ルースライニング：麻布や化繊布を木枠に張り込み，その上に作品を張る，いわゆる接着剤を使用しない裏打方法。

（創形美術学校修復研究所　村松裕美）

fig.3　《トレド風景》修復前全図 左側光

fig.4　《トレド風景》修復前全図 上側光

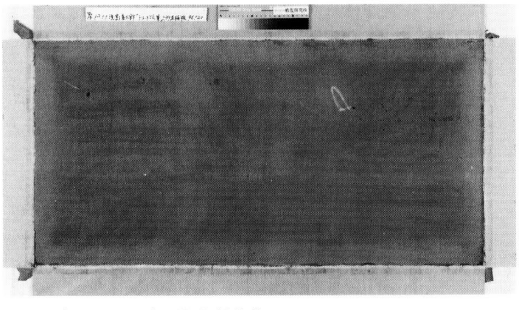


fig.5　《トレド風景》耳部分補強後

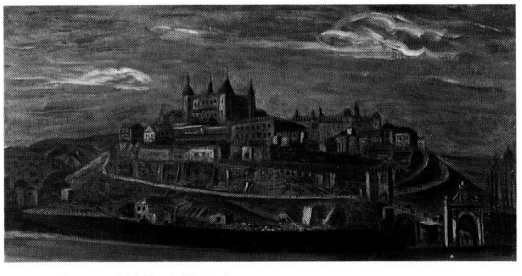


fig.6　《トレド風景》充填整形

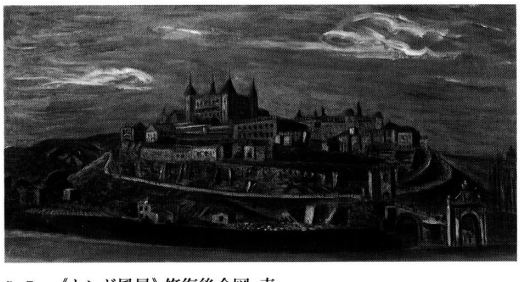


fig.7　《トレド風景》修復後全図 表

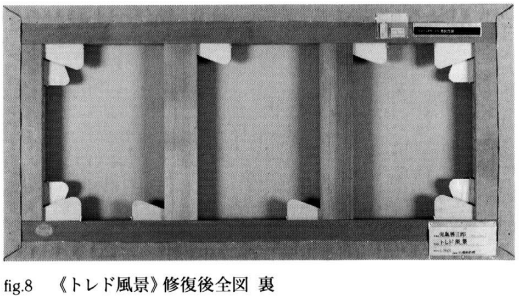


fig.8　《トレド風景》修復後全図 裏

青木繁関連記事目次（1957年－1980年）

後藤純子

凡例

1) 本目次は，昭和32年から石橋美術館において作成し所蔵している新聞切り抜き帳の中から青木繁に関する記事を採取し，昭和32年1月から昭和55年12月までの期間に限って一覧表としたものである。なお，石橋美術館所蔵の新聞切り抜き帳における新聞記事の収集状況と整理法，ならびに坂本繁二郎関連記事目次については『館報』第42号～第44号で報告してきた[1]。
2) 収録紙は当初『朝日新聞』，『毎日新聞』，『西日本新聞』，『フクニチ新聞』の4紙で，昭和40年1月から『読売新聞』，昭和59年4月から『日本経済新聞』が加わり，平成4年4月以降『フクニチ新聞』が休刊となり，現在5紙を購読している。
3) 石橋美術館の新聞切り抜き帳は，この時期，新聞紙名・日付のみを採取した記事に記載していたので，本目次には朝・夕刊の別，地方版などに関するデータをいれることができなかった。
4) 本目次の記載については以下のとおりとした。
   ① 記事の順序は発行年月日順とし，同じ日付の場合は新聞紙名の50音順とした。
   ②「切抜帳」の項目は切り抜き帳の年次と分冊数次を表したものである。切り抜き記事は，この時期，内容分類に従い数冊に分けて製本されているため，日付順に配列すると分冊数次が前後する場合もある。
   ③「執筆者」の項目は記事中の表記に従ったが，(談)などの記載を補ったものもある。
   ④「見出し」の記載については原則として記事の表記に従い，大見出し，小見出しの順に記載したが，「見出し」を読むだけでおよその内容を把握できることを配慮し，順序を変えて記載したものもある。また，見出しが多数ある場合など，いくつかの見出しを省略したものもある。コラム記事に関してはコラム名を〈 〉で表した。連載記事は連載番号を( )にいれた。
   ⑤ コラム名や見出しだけでは内容がまったく不明と思われる記事には，本文の一部を引用したものもある。また，見出しのうしろに〈行事案内〉〈番組紹介〉など記事にはない記載を補ったものもある。
   ⑥ 記事の見出しの中には明らかに誤植と思われるものがあったが，記事の表記どおりに記載した。また，切り抜き記事に記載された新聞紙名や日付の中にも誤りと思われるものもあったが，これも切り抜き帳の記載どおりとした。また，連載記事の中には連載番号よりみて採取漏れとみられる記事もあるが，これを原紙や他の資料等によって補うことはしなかった。

（ごとうじゅんこ　石橋美術館）

註

1) 後藤純子，植野健造「石橋美術館所蔵新聞切り抜き帳について　附：坂本繁二郎関連記事目次（1957年－1969年）」『ブリヂストン美術館　石橋美術館　館報』第42号，平成6年10月
   後藤純子，植野健造「坂本繁二郎関連記事目次（1970年－1980年）」『ブリヂストン美術館　石橋美術館　館報』第43号，平成7年12月
   後藤純子，植野健造「坂本繁二郎関連記事目次（1981年－1990年）」『ブリヂストン美術館　石橋美術館　館報』第44号，平成8年11月

青木繁関連記事目次（1957年－1980年）

	新聞紙名	発行年月日	切抜帳	執筆者	見出し
1		1957年	1957-2		青木繁素描展
2	朝日	1957年04月01日	1957-1		青木画伯をしのぶ　盛大に“けしけし祭”
3	毎日	1957年06月26日	1957-1		いしぶみの旅　(2)　青木繁の碑　思い出のケシケシ山　“天才画家”の歌きざむ
4	西日本	1957年06月27日	1957-1	平	らくがき文化地理　九州山口　(27)　筑後
5	毎日	1957年08月31日	1957-3	坂本繁二郎（談）	わが十代の思い出　(26)　夢中でつづけた絵
6	朝日	1957年09月10日	1957-1		青木繁の画集決定版を作る
7	西日本	1957年10月03日	1957-1		青木繁画伯の画集発行
8	毎日	1957年10月05日	1957-1		青木繁画集の決定版を　友人の坂本画伯らが編集着手

9	西日本	1957年10月24日	1957-2		示現会　話題の二婦人の作品　野尻たね子さんと石橋フクさん
10	朝日	1957年11月05日	1957-1		〈文化横丁〉　青木繁の偽画
11	毎日	1957年11月29日	1957-3	杉本寿恵男	〈筑後往来〉　出したい青木繁の伝記
12	西日本	1958年03月27日	1958-1		30日に青木画伯追悼けしけし祭
13	朝日	1958年08月03日	1958-3	池上丁一	〈文化横町〉　「晩帰」と青木繁
14	朝日	1958年11月19日	1958-2	谷口鉄雄	〈学芸〉　福岡ユネスコ協会設立10周年記念　『近代美術展』をみて
15	西日本	1959年02月21日	1959-1		筑後平野　その(40)　郷土の先輩　上　にじむ郷土の人情と風土　偉大な三人の画家　坂本繁二郎，青木繁に古賀春江
16	西日本	1959年03月16日	1959-3	増田洋	〈筑後文化〉　けしけし祭によせて
17	フクニチ	1959年03月20日	1959-1		29日に久留米のけしけし祭
18	朝日	1959年03月30日	1959-1		〈青鉛筆〉　久留米が生んだ明治画壇の鬼才青木繁をしのぶ第6回“けしけし祭”が29日久留米市山本町柳坂公民館で行われた。…
19	毎日	1959年04月01日	1959-1	福田蘭童，豊田勝秋（対談）	父・青木繁の思い出　オンブして描く　好んでひいたアコーディオン
20	西日本	1959年04月27日	1959-1		文学碑をたずねて　郷愁をうたった画壇の奇才・青木繁
21	朝日	1959年06月03日	1959-2		日本洋画代表作家展
22	西日本	1959年06月03日	1959-2	兵	〈画廊〉　日本洋画代表作家展
23	毎日	1959年06月04日	1959-2	男	質的には高い　地方巡回に良心きざし　二つの画展を見て
24	朝日	1959年07月25日	1959-3	裾分一弘	絵画にみる永遠の女性像　福田たね　青木繁
25	毎日	1959年08月21日	1959-2	男	日本近代洋画の流れ　上　明治　写実主義と外光主義
26	朝日	1959年08月23日	1959-2	兵	重点的な選択40点　「日本近代洋画の流れ」展
27	西日本	1959年10月14日	1959-2		第二回近代美術展　未公開作品も展覧　目をひくルオー，ブラマンク
28	西日本	1959年10月14日	1959-3	竹藤寛	「裏方の記」
29	フクニチ	1959年10月16日	1959-2		ユネスコ第二回近代美術展　〈告示〉
30	朝日	1959年10月19日	1959-2	玉	圧巻二点　ブラマンクとルオーの作品　第二回「近代美術展」
31	フクニチ	1959年10月28日	1959-3	中村キクヨ（談）	とっておきの話　(7)　私の二階で完成した「晩帰」　明治画壇の鬼才・青木氏の制作苦悩時代
32	毎日	1959年11月16日	1959-1		明善校　(22)　卒業生たち　画家　幾多の人材育てる　受け入れぬ？校風　次々に出た中退組
33	朝日	1960年03月13日	1960-1		〈話の小箱〉　福田蘭童も出席　27日“けしけし祭”
34	毎日	1960年03月15日	1960-1		来る27日「けしけし祭」　蘭童が尺八でたむけの曲
35	フクニチ	1960年03月18日	1960-1		27日に「けしけし祭」　洋画家青木繁をしのび　出身地の久留米で
36	毎日	1960年03月27日	1960-1	増田洋	「けしけし祭り」に寄せて　青木繁の自画像のことなど

37	フクニチ	1960年03月28日	1960-1		カッポ酒で故青木氏しのぶ　久留米　けしけし祭りにぎわう
38	フクニチ	1960年03月30日	1960-3	豊田勝秋(談)	〈フクニチ伝言板〉　久留米が生んだ天才画家青木繁のことしは50年忌，…
39	朝日	1960年04月11日	1960-1		一枚の絵を音で表現　詩人や作家も協力　文化放送が野心的ドラマ　青木繁『海の幸』モデルに
40	朝日	1960年04月29日	1960-3		洗礼受けた青木繁　親友にあてた手紙でわかる
41	毎日	1960年04月29日	1960-1		〈かっぱ〉　洗礼受けた青木繁
42	毎日	1960年07月07日	1960-1		青木繁「海の幸」　一枚の絵をドラマに　28日RKB毎日で放送
43	フクニチ	1960年11月07日	1960-2		明治・大正・昭和　秀作美術展　新春早々，福岡市で開幕　〈社告〉
44	西日本	1960年11月16日	1960-2		福岡県内所蔵近代美術展　二十三日から福岡市丸善画廊で
45	朝日	1960年11月20日	1960-2		23日から近代美術展
46	西日本	1960年11月30日	1960-2	岸田勉	貴重な青木繁の資料　第三回福岡県内所蔵近代美術展をみて
47	フクニチ	1961年01月01日	1961-2		秀作美術展　“近代美術の粋”一堂に　〈社告〉
48	フクニチ	1961年01月15日	1961-2		ズラリ　みごとな90点　17日から「明治大正昭和秀作美術展」
49	朝日	1961年01月19日	1961-2	玉	時代的足どりの興味　明治・大正・昭和秀作美術展　だが統一のない展観
50	西日本	1961年02月08日	1961-1		〈告知版〉　久留米　有馬記念館(篠山城跡)は二階の郷土資料室で久留米出身の三人の洋画家坂本繁二郎，故古賀春江，青木繁の初期の作品…
51	西日本	1961年02月10日	1961-3	野田宇太郎	九州の知性　(5)　青木繁　印象派の代表画家　生命感の躍動するその絵
52	毎日	1961年03月14日	1961-1		〈短信〉　けしけし祭　〈行事案内〉
53	朝日	1961年03月15日	1961-1		今年もにぎやかな顔ぶれで　春分の日　けしけし祭り
54	フクニチ	1961年03月22日	1961-1		鼓笛隊や合唱などで故人しのぶ　久留米，けしけし祭り
55	毎日	1961年03月22日	1961-1		天才画家青木繁をしのぶ　久留米でけしけし祭
56	西日本	1961年03月25日	1961-1		祭典や記念講演　久留米のけしけし祭
57	毎日	1961年05月09日	1961-3	山上高寛	〈火曜文芸〉　筑後の風土と芸術
58	朝日	1961年09月17日	1961-2		〈文化短信〉　青木繁展　〈告示〉
59	朝日	1961年09月19日	1961-1		美術座談会　…「没後五十年青木繁展」の記念に催すもので，テーマは「青木繁の芸術とその今日的意義」…　〈告示〉
60	西日本	1961年09月19日	1961-3	河北倫明	青木繁の世界　天才の画業さぐる
61		1961年	1961-2		没後50年「青木繁展」
62	朝日	1961年09月20日	1961-2		没後五十年青木繁展　博多で開く
63	西日本	1961年09月26日	1961-3		〈風車〉　『青木繁展』の意義
64	毎日	1961年10月14日	1961-3	谷口鉄雄	青木繁　その知られざる画業

65	フクニチ	1961年10月19日	1961-1		ふるさと今昔　(11)　名画「晩帰」　清力(大川)滞在中に完成　明治の画家青木繁　放浪の死とげた不運の天才
66	西日本	1961年10月21日	1961-1		美術の秋をさらう知られざる画業　東京で人気呼ぶ青木繁展
67	西日本	1961年10月30日	1961-3	福田蘭童	父はしあわせ者だった　―東京の青木繁展をみて―
68	西日本	1961年10月31日	1961-1		「天才画家・青木繁」をドラマ化
69	西日本	1961年11月04日	1961-1		郷土の三大芸術家を讃う　青木繁　坂本繁二郎
70	西日本	1961年12月31日	1961-3	き	〈美術〉　意義深い『青木繁展』
71	毎日	1962年03月07日	1962-1		世界名画全集・続巻4　黒田清輝・青木繁　〈図書案内〉
72	西日本	1962年03月18日	1962-1		25日にケシケシ祭り
73	毎日	1962年03月18日	1962-1		天才画家青木繁をしのぶ　けしけし祭近づく　久留米　遺作特別展も開催中
74	西日本	1962年03月19日	1962-1		新作能“ハゼ”の発表会　謡曲は井上画伯作　画家の出会いをモチーフに
75	毎日	1962年03月20日	1962-1		坂本，青木両画伯モチーフに　八女　新作謡曲“はぜ”発表会
76	西日本	1962年03月25日	1962-3	豊田勝秋	第九回「けしけし祭」を迎えて
77	朝日	1962年03月26日	1962-1		詩歌や三曲など献上　久留米で　青木繁をしのぶ“けしけし祭り”
78	毎日	1962年03月26日	1962-1		青木繁しのぶ　久留米で“けしけし祭り”
79	朝日	1962年03月28日	1962-3	六分儀	〈季節風〉　青木繁の書簡
80	フクニチ	1962年03月30日	1962-3		波乱の人たち　(1)　青木繁　(1)　房州の海にたぎる“血”　運命の女「たね」伴って取材旅行
81	フクニチ	1962年03月31日	1962-3		波乱の人たち　(2)　青木繁　(2)　画も人生も情熱だ！　可能性秘めた「たね」に心奪わる
82	フクニチ	1962年04月01日	1962-3		波乱の人たち　(3)　青木繁　(3)　青春をこの一夜に　情熱をこめ彼女に描く海の構図
83	フクニチ	1962年04月03日	1962-3		波乱の人たち　(4)　青木繁　(4)　狂気のように浜辺へ　その翌朝　荒々しい漁民の姿に感動
84	フクニチ	1962年04月05日	1962-3		波乱の人たち　(5)　青木繁　(5)　群像の中に“二つの顔”　力作「海の幸」仕上げ，得意の帰京
85	フクニチ	1962年04月06日	1962-3		波乱の人たち　(6)　青木繁　(6)　ヤリを突き出す父親　硬骨一家　厳格なシツケに育つ
86	フクニチ	1962年04月07日	1962-3		波乱の人たち　(7)　青木繁　(7)　“自己流”ほんぽうな画　過剰な自信　異色の森三美門下生
87	フクニチ	1962年04月08日	1962-3		波乱の人たち　(8)　青木繁　(8)　落第きっかけに上京　画家を志し，負けじ魂秘めて
88	フクニチ	1962年04月09日	1962-3		波乱の人たち　(9)　青木繁　(9)　国粋主義の“アラシ”　50人で始まった“官立美校”廃止
89	フクニチ	1962年04月10日	1962-3		波乱の人たち　(10)　青木繁　(10)　新風吹き込んだ黒田　わが国初の洋画グループ台頭
90	フクニチ	1962年04月11日	1962-3		波乱の人たち　(11)　青木繁　(11)　黒田の講義にソッポ　異常な自負心　小山塾の特異な存在

91	フクニチ	1962年04月12日	1962-3		波乱の人たち　(12)　青木繁　(12)　内心では黒田に敬服　古書，宗教の勉強へ図書館へ日参
92	フクニチ	1962年04月13日	1962-3		波乱の人たち　(13)　青木繁　(13)　貧乏暮らしにも平気　絵具買えず同僚から無断失敬
93	フクニチ	1962年04月14日	1962-3		波乱の人たち　(14)　青木繁　(14)　空前の名文“雨の描写”　久留米の三羽ガラス，信州へ写生旅行
94	フクニチ	1962年04月15日	1962-3		波乱の人たち　(15)　青木繁　(15)　藤村と初めて対面　妙義山から信州へスケッチ旅行
95	フクニチ	1962年04月17日	1962-3		波乱の人たち　(16)　青木繁　(16)　フトンもない年越し　梅野に頼み下宿屋から持ち出す
96	フクニチ	1962年04月19日	1962-3		波乱の人たち　(18)　青木繁　(18)　自信に満つ自画像　上を向いて　生活苦と闘う
97	フクニチ	1962年04月20日	1962-3		波乱の人たち　(19)　青木繁　(19)　みごと初の白馬賞に　耳目を集めた新人・繁の空想画
98	フクニチ	1962年04月21日	1962-3		波乱の人たち　(20)　青木繁　(20)　にぎわう曙町の下宿　恋人と友を得て繁の生活に活気
99	フクニチ	1962年04月22日	1962-3		波乱の人たち　(21)　青木繁　(21)　「たね」にいつしか恋心　写生の疲れ忘れ“梁山泊”の酒宴
100	フクニチ	1962年04月24日	1962-3		波乱の人たち　(22)　青木繁　(22)　世は“旅順攻防”の夏　問題の大作「海の幸」白馬会展へ
101	フクニチ	1962年04月25日	1962-3		波乱の人たち　(23)　青木繁　(23)　“海の幸”画壇を圧倒　すさまじい興奮と感銘よぶ
102	フクニチ	1962年04月26日	1962-3		波乱の人たち　(24)　青木繁　(24)　赤貧の家に“客”ふたり　親身に家を捜し回る坂本
103	フクニチ	1962年04月27日	1962-3		波乱の人たち　(25)　青木繁　(25)　“おれは如来…お前らは羅漢”　繁の人柄に魅せられる有明
104	フクニチ	1962年04月28日	1962-3		波乱の人たち　(26)　青木繁　(26)　相会した“二人の天才”　気心通じる詩と絵の「神話論」
105	フクニチ	1962年04月29日	1962-3		波乱の人たち　(27)　青木繁　(27)　“心肝照らし進もう”　有明にだけは限りない親近の情
106	フクニチ	1962年05月01日	1962-3		波乱の人たち　(28)　青木繁　(28)　「画稿集」日の目みず　出版元とつぎつぎケンカ
107	フクニチ	1962年05月02日	1962-3		波乱の人たち　(29)　青木繁　(29)　まるで女主人のよう　“たね”の態度に腹を立てる姉
108	フクニチ	1962年05月03日	1962-3		波乱の人たち　(30)　青木繁　(30)　“しがらみ”に狂う連夜　恋に，芸術に刻まれる肉体
109	フクニチ	1962年05月04日	1962-3		波乱の人たち　(31)　青木繁　(31)　“海の幸”売却を決意　借金取りに脱け出す大ミソカ
110	フクニチ	1962年05月06日	1962-3		波乱の人たち　(32)　青木繁　(32)　“最後の友”坂本も去る　絶望の二人，思い出の房州へ逃避
111	フクニチ	1962年05月09日	1962-3		波乱の人たち　(34)　青木繁　(34)　「たね」残し久々の帰郷　家族の世話を訴える病床の父
112	フクニチ	1962年05月10日	1962-3		波乱の人たち　(35)　青木繁　(35)　白馬会に激しい憤り　送った「女の顔」が鑑査ではねられる
113	フクニチ	1962年05月11日	1962-3		波乱の人たち　(36)　青木繁　(36)　みつからぬ教師の口　やっと百円の画稿料入って大喜び

114	フクニチ	1962年05月12日	1962-3		波乱の人たち　(37)　青木繁　(37)　すべてを賭けた一作　“わだつみのいろこの宮”に熱意
115	フクニチ	1962年05月13日	1962-3		波乱の人たち　(38)　青木繁　(38)　漱石までもベタほめ　“寵児”へ…自信の高値二千五百円
116	フクニチ	1962年05月16日	1962-3		波乱の人たち　(40)　青木繁　(40)　“たね”との仲も限界に　渡仏の決意に“チチキトク”の報
117	フクニチ	1962年05月17日	1962-3		波乱の人たち　(41)　青木繁　(41)　橋の上で終生の別れ　郷里に待っていたのは“父の死”
118	フクニチ	1962年05月18日	1962-3		波乱の人たち　(42)　青木繁　(42)　紅灯の巷に入り浸り　無軌道の生活さます油絵の依頼
119	フクニチ	1962年05月19日	1962-3		波乱の人たち　(43)　青木繁　(43)　大広間飾る“漁夫晩帰”　謝礼金を手に燃やす上京の熱情
120	フクニチ	1962年05月20日	1962-3		波乱の人たち　(44)　青木繁　(44)　ついに放浪の旅へ　一家からも見放され安宿を転々
121	フクニチ	1962年05月22日	1962-3		波乱の人たち　(45)　青木繁　(45)　繁かばう花屋の女将　ばったり帰京の坂本と遭遇
122	フクニチ	1962年05月23日	1962-3		波乱の人たち　(46)　青木繁　(46)　坂本と生涯の別れ　花屋のユカタ着たまま佐賀へ
123	フクニチ	1962年05月25日	1962-3		波乱の人たち　(48)　青木繁　(48)　病状ようやく表に　唐津，古湯で静養　次々と秀作
124	フクニチ	1962年05月26日	1962-3		波乱の人たち　(49)　青木繁　(49)　カッ血でついに入院　一人寂しく四十四年の正月迎える
125	フクニチ	1962年05月27日	1962-3		波乱の人たち　(50)　青木繁　(50)　手を空に「愛」の一字　28年の生涯，福岡の一隅で閉ず
126	西日本	1962年07月07日	1962-1		歌誌高嶺9月号発刊　…杉森麟『坂本繁二郎画談49』で青木繁が語られている。…　〈雑誌紹介〉
127	フクニチ	1962年08月01日	1962-1		〈書評〉　日本近代絵画全集　「青木繁」
128	朝日	1962年08月19日	1962-3	境忠	〈文化横丁〉　清力美術館
129	朝日	1962年09月18日	1962-3	坂本繁二郎	思い出すまゝに　(2)　青木繁君
130	フクニチ	1962年09月28日	1962-1		芸術の秋でにぎわう　大川の清力美術館　青木繁作品など展示
131	西日本	1962年10月27日	1962-1		青木繁の絶筆みつかる　佐賀の古道具屋で　坂本繁二郎画伯が鑑定
132	西日本	1962年12月12日	1962-1		〈みものききもの〉　悲劇の天才青木繁にスポット　遺児の蘭童氏も登場　福岡放送局制作　教養特集『美術散歩』
133	フクニチ	1962年12月12日	1962-1		悲劇の天才・青木繁　教育特集「美術散歩」〈番組紹介〉
134	西日本	1962年12月16日	1962-3	丸山豊	郷土が生んだ文化を開いた人びと　(6)　青木繁　心のこもった絵かく　生前は認められなかった天才
135	フクニチ	1963年01月12日	1963-1		よきライバル　石橋美術館　八幡美術工芸館　相つぐ名企画展　郷土芸術に大きく貢献
136	毎日	1963年02月06日	1963-2		大阪で“藤山コレクション展”
137	フクニチ	1963年02月09日	1963-1		郷土作家の作品展示　久留米　街の愛好者が個人美術館

138	朝日	1963年03月03日	1963-1		「名画家出よ」と美術館　久留米　町の社長さん奮発　無料開放，個展の場にも
139	毎日	1963年03月12日	1963-1		二十一日から開館　久留米の緒方コレクション
140	朝日	1963年03月22日	1963-1		現れよ！名画家
141	西日本	1963年03月22日	1963-4	二宮冬鳥	郷土画家の傑作を多数　緒方コレクション
142	フクニチ	1963年03月22日	1963-1		郷土の青木繁らの作品展示　久留米　緒方さんの個人美術館開く
143	フクニチ	1963年03月22日	1963-1		24日，久留米で「けしけしまつり」　故青木画伯をしのぶ
144	日日	1963年03月23日	1963-1		けしけし祭　24日歌碑前の山頂で
145	朝日	1963年03月24日	1963-3	保坂英雄	けしけし祭あれこれ
146	西日本	1963年03月24日	1963-1		きょうけしけし祭
147	毎日	1963年07月22日	1963-1		洋画展に青木繁絶筆
148	朝日	1963年10月02日	1963-4		続・新・人国記　福岡　(2)　じゅうげもん
149	朝日	1963年10月04日	1963-3		続・新・人国記　福岡　(4)　ケシケシ祭
150	西日本	1963年12月05日	1963-4	多々羅義雄	青木繁のこと　(上)
151	西日本	1963年12月06日	1963-4	多々羅義雄	青木繁のこと　(下)
152	朝日	1964年02月14日	1964-1		青木繁の絵二つ　晩年のもの　福岡でみつかる
153	朝日	1964年03月01日	1964-2		青木繁のこと　「秋声」を描いたころ　失意が訪れようとは…　モデルの三上さん“気むずかしい人”
154	毎日	1964年03月25日	1964-1		29日，けしけし祭り　青木繁画伯の遺業しのぶ
155	朝日	1964年03月30日	1964-1		花束や歌ささげる　青木繁画伯しのぶ　けしけし祭
156	フクニチ	1964年03月30日	1964-1		〈街灯〉　天才画家しのぶ！
157	毎日	1964年03月30日	1964-1		“放浪の天才画伯”しのぶ　久留米で“けしけし祭り”
158	毎日	1964年05月01日	1964-1		〈記者の目〉　自画像の因縁話
159	朝日	1964年08月30日	1964-2		新・人国記　(681)　栃木県　(11)　いろこのみや
160	西日本	1964年10月19日	1964-4		“天才と俗事”の闘争　『青木繁』　悲劇の生涯と芸術　河北倫明著　〈書評〉
161	フクニチ	1964年11月11日	1964-2		いしぶみの周辺　青木繁(久留米)　自我つらぬいた鬼才　見おろす“はぜ多き国”
162	毎日	1964年11月25日	1964-4	山上高寛	〈読書〉　“明治ロマン”の旗手　悲劇画家の生涯と芸術　河北倫明著「青木繁」　〈書評〉
163	毎日	1965年02月23日	1965-3		〈画廊〉　新収品の名作を展示　東京国立博物館で
164	毎日	1965年03月24日	1965-2		けしけしまつり　久留米で28日　青木繁の偉業をしのぶ
165	朝日	1965年03月27日	1965-1		12回目のけしけし祭り　28日久留米で　故青木繁をしのぶ
166	西日本	1965年03月27日	1965-1		あす，けしけし祭り　天才画家，青木繁しのんで
167	フクニチ	1965年03月27日	1965-1		青木画伯しのび「けしけし祭り」　あす久留米で
168	朝日	1965年03月29日	1965-1		歌碑に“カッポ酒”　青木繁しのぶ「けしけし祭り」　久留米
169	西日本	1965年03月29日	1965-1		青木繁碑囲みしのぶ　久留米　盛大にけしけし祭り
170	フクニチ	1965年03月29日	1965-1		故青木繁しのぶ　久留米で「けしけし祭」

171	毎日	1965年03月29日	1965-1		〈雑記帳〉 久留米が生んだ明治洋画壇の鬼才，青木繁が世を去って五十五年，その画業をしのぶ第十三回“けしけし祭り”が…
172	西日本	1965年04月02日	1965-4		「近代美術の流れ」 日本の美術 24 河北倫明著 〈書評〉
173	朝日	1965年04月03日	1965-1		ろーかる人物誌 (17) 清力美術館の中村太次郎さん
174	朝日	1965年04月20日	1965-3		珍しい師弟展に… 森三美の遺業展
175	朝日	1965年04月29日	1965-3	坂本繁二郎	〈文化〉 恩師・森先生のこと 森三美遺業展によせて
176	西日本	1965年04月30日	1965-3		〈短信〉 森三美遺業展
177	朝日	1965年05月01日	1965-3		〈素描〉 日本洋画の巨匠，坂本繁二郎と青木繁に洋画の手ほどきをした森三美(もり・みよし)の遺業展が…
178	フクニチ	1965年06月07日	1965-2	北川記者	有明海 (62) 有明叙情 (4) 青春への回帰 多くの詩人はぐぐむ 失意の青木繁なぐさめた筑後川
179	読売	1965年11月16日	1965-3		注目の作品ずらり 「大原コレクション，近代日本の洋画名作展」 青木繁の「男の顔」など55点
180		1965年	1965-4		〈ぶっくす〉 『近代洋画の青春像』原田実著 〈書評〉
181	毎日	1965年12月08日	1965-4		河北倫明著 青木繁と坂本繁二郎 〈書評〉
182	毎日	1966年02月02日	1966-4		石橋美術館コレクションから わだつみのいろこの宮
183	朝日	1966年02月13日	1966-4		青木繁著『仮象の創造』 〈書評〉
184	朝日	1966年03月24日	1966-1		けしけし祭 〈行事案内〉
185	西日本	1966年03月24日	1966-1		青木繁 天才画家をしのぶ 久留米で27日に“けしけし祭り”
186	毎日	1966年03月24日	1966-1		けしけし祭り 27日・青木画伯しのんで
187	フクニチ	1966年03月26日	1966-1		青木繁しのぶ“けしけし祭” あす久留米で
188	朝日	1966年03月28日	1966-1		記念碑前でカッポ酒 青木繁しのぶけしけし祭 久留米
189	毎日	1966年03月28日	1966-1		〈雑記帳〉 久留米市の生んだ天才画家，青木繁をしのぶ第十三回けしけし祭りが二十七日，…
190	毎日	1966年03月30日	1966-4		石橋美術館コレクションから 自画像
191	西日本	1966年04月21日	1966-2	野田宇太郎	西日本文学散歩 (71) 筑後路 (四) 画家の墓
192	朝日	1966年05月23日	1966-2	中川一政	折り折りの人 (6) 小杉放庵 (上) 青木繁とにらみ合う 歌集も出した画家歌人
193	毎日	1966年06月08日	1966-3		ライオンズ・チャリティー美術展
194	西日本	1966年06月09日	1966-3		ずらり！傑作40点 あすからチャリティ美術展
195	毎日	1966年06月11日	1966-3		施設の子らに資金を 久留米，ライオンズ・チャリティー美術展開く
196	西日本	1966年06月13日	1966-3	山上高寛	チャリティ美術展を見て 郷土作家ずらり 物語るコレクターの目
197	朝日	1966年07月22日	1966-3	源	名画の中の女性 (24) 福田たね 青木繁作「海の幸」
198	西日本	1966年10月03日	1966-1		天才画家の生涯 九州の百年 『青木繁』 NHKテレビ＝前7・20 〈番組案内〉

199	読売	1966年10月06日	1966-2		福岡百年　(97)　明治賛歌　ヤリ突きつけた父　初志まげぬ少年・青木繁
200	朝日	1966年12月11日	1966-1		青木繁未亡人も出品　有薫会の“粋人迷作懐古展”
201	読売	1966年12月11日	1966-1		画家や詩人の色紙がずらり　有薫会回顧展
202	西日本	1967年02月13日	1967-2		絵に生きた80年　―福田たね子さんを訪れる―
203	西日本	1967年03月12日	1967-2		〈庭〉　大川市長，大川鐘ケ江　中村太次郎さん　粋をこらす　青木繁にもゆかり
204	朝日	1967年03月16日	1967-1		青木繁の歌に振りつけ　踊りを披露　けしけしまつりに奉納
205	毎日	1967年03月16日	1967-1		青木繁の歌を踊りに　久留米　中央公民館で披露
206	読売	1967年03月16日	1967-1		“ケシケシの踊り”できる　青木繁の歌に　久留米
207	西日本	1967年03月17日	1967-1		新しく献舞も　21日にけしけし祭り
208	読売	1967年03月19日	1967-1		望郷の歌　山に流れ　青木繁しのびけしけし祭り
209	朝日	1967年03月20日	1967-1		けしけし祭　〈行事案内〉
210	朝日	1967年03月22日	1967-1		蘭童氏も出席　青木繁の「けしけしまつり」
211	西日本	1967年03月22日	1967-1		故人しのんで　21日に“けしけし祭り”
212	西日本	1967年03月22日	1967-1		けしけし山の碑の前で　青木繁をしのぶ祭り
213	フクニチ	1967年03月22日	1967-1		〈街灯〉　青木繁をしのぶ
214	毎日	1967年03月22日	1967-1		〈雑記帳〉　久留米市が生んだ，明治画壇の天才画家，青木繁をしのぶ“第十四回けしけし祭り”は…
215	西日本	1967年03月28日	1967-1		久留米市内に青木繁の像　篠山神社の境内　豊田氏が制作　来年春までに完成
216	西日本	1967年04月01日	1967-4		国宝・重文の新指定決まる　青木繁の『海の幸』など
217	フクニチ	1967年04月01日	1967-4		青木繁の「海の幸」など　国宝，重文の新指定きまる
218	読売	1967年04月01日	1967-4		国宝・重文新たに93件　青木繁の「海の幸」など　初めて明治以降の洋画
219	毎日	1967年04月02日	1967-4		重要文化財に指定された青木繁の「海の幸」　幻想が生んだ名作　坂本繁二郎画伯の話を素材に　23才の時，千葉で
220	毎日	1967年04月16日	1967-2	石橋正二郎（談）	対談閑話　美神と事業　(2)　青木繁と坂本繁二郎
221	読売	1967年04月21日	1967-3	高階秀爾	選定もっと大胆に　油絵の重文指定
222	西日本	1967年04月29日	1967-2	谷口治達記者	坂本繁二郎の道　(7)　青木繁　ライバル上京す　家族の反対を押し切り
223	西日本	1967年05月04日	1967-2	谷口治達記者	坂本繁二郎の道　(9)　上京　青木の上達にショック　闘志を鋭く刺激
224	西日本	1967年05月14日	1967-1		明治百年洋画展　〈社告〉
225	西日本	1967年05月18日	1967-2	谷口治達記者	坂本繁二郎の道　(12)　無銭旅行　感激，藤村らと会う　青木らとの信州旅行
226	フクニチ	1967年05月18日	1967-2		青木繁　若き日の写真みつかる　親友(明善時代)の手もとに　胸像づくりに貴重な資料
227		1967年	1967-1		篠山城跡に建立　久留米市　青木繁記念碑の趣意書配る
228	毎日	1967年05月18日	1967-1		篠山城跡に青木繁の銅像　建立計画が具体化

229	読売	1967年05月18日	1967-1		篠山城跡　青木繁の記念碑　豊田教授に制作依頼　来年三月の命日に除幕
230	西日本	1967年05月20日	1967-1		郷土の話題　『繁と繁二郎』TNC＝後5･0　〈番組案内〉
231	西日本	1967年05月23日	1967-2	谷口治達記者	坂本繁二郎の道　(13)　福田たね　青木のロマンス　下宿でどんちゃん騒ぎ
232	西日本	1967年06月09日	1967-2	谷口治達記者	坂本繁二郎の道　(15)　海の幸　青木，一気に描く　だが実感と違う虚構の傑作
233	西日本	1967年06月12日	1967-2	谷口治達記者	坂本繁二郎の道　(16)　夏の終わり　青木に猛然抗議　出品作に手を加えられ
234	西日本	1967年06月15日	1967-2	谷口治達記者	坂本繁二郎の道　(17)　親友　“五十年先を見よ”　競い，助け合った青木
235	西日本	1967年06月20日	1967-2	谷口治達記者	坂本繁二郎の道　(18)　台頭　初の文展に入選　青木は画壇から姿消す
236	フクニチ	1967年06月21日	1967-1		色の特徴はっきり　佐賀で青木繁の絵発見
237	西日本	1967年06月29日	1967-2	谷口治達記者	坂本繁二郎の道　(21)　馬鉄通り　明暗，対照の別れ　ばったり青木と出会う
238	フクニチ	1967年07月14日	1967-1		姿を消した“緒方美術館”　久留米　名画や彫刻を公開　無料で7年間　惜しむ各地のファン
239	フクニチ	1967年07月22日	1967-1		青木繁画伯記念碑の募金呼びかけ
240	西日本	1967年07月28日	1967-2		〈風車〉『白秋賞』と『青木賞』
241	毎日	1967年07月28日	1967-2	坂本繁二郎（談）	対談閑話　絵を描くこころ　(3)　わが友･青木繁
242	西日本	1967年08月20日	1967-1		青木繁記念碑建立に協力を　発起人会で呼びかけへ
243	毎日	1967年08月23日	1967-1		青木繁記念碑建立へ　久留米　全市民の協力呼びかけ
244	毎日	1967年09月01日	1967-1		久留米が誇る洋画壇の鬼才･青木繁　記念碑建立が具体化
245	フクニチ	1967年11月03日	1967-2		九州文化活動の登竜門に　絵画　青木賞　文学　白秋賞
246	読売	1967年11月05日	1967-1		白秋賞，青木賞　明治百年に設置の動き
247	西日本	1967年11月09日	1967-2	谷口治達記者	坂本繁二郎の道　(51)　けしけし山　久我と力合わせる　青木繁の記念碑建立
248	毎日	1967年12月09日	1967-1		新春早々に着工　青木繁記念碑　設計図完成，募金順調
249	西日本	1967年12月10日	1967-1		デザイン決まる　久留米市　篠山城跡に青木繁記念碑
250	読売	1967年12月12日	1967-1		来春には完成　故青木画伯の碑
251	西日本	1968年01月01日	1968-3	矢山勲	〈提言〉『青木賞』『白秋賞』に思う
252	朝日	1968年02月28日	1968-3	土方定一	〈文化〉　外面描写から内面化へ　―「明治美術展」を見て―
253	読売	1968年03月17日	1968-1		31日，盛大に「ケシケシ祭り」　久留米　故青木繁画伯の偉業しのぶ　福田蘭童氏も尺八奉納
254	西日本	1968年03月25日	1968-1		「青木繁賞」設定計画進む　地元文化団体が主唱　恒例のケシケシ祭り間近
255	朝日	1968年04月01日	1968-1		カッポ酒をくみかわす　久留米　青木繁をしのぶ祭

256	毎日	1968年04月01日	1968-1		〈雑記帳〉　久留米市の生んだ明治画壇の鬼才，青木繁画伯をしのぶ第十五回“けしけし祭り”が，…
257	読売	1968年04月01日	1968-1		青木画伯をしのぶ　かぶと山で「けしけし祭り」　久留米
258	西日本	1968年04月29日	1968-2	福田蘭童	『けしけし山』を愛す　父・青木繁を憶う
259	読売	1968年05月09日	1968-1		青木繁画伯の記念碑　久留米・篠山城跡に7月完成
260	西日本	1968年05月18日	1968-1		“碑文”の原稿届く　青木繁記念碑建設進む
261	毎日	1968年05月18日	1968-1		計画すべて順調に　青木繁をたたえる記念碑　久留米市　建設資金も集まる　けしけし山望む篠山城跡に　7月13日に除幕式
262	読売	1968年05月18日	1968-1		青木画伯　記念碑準備進む　望郷詩　福田蘭童筆　顕彰文　河北倫明作
263	フクニチ	1968年05月23日	1968-1		碑文もできる　青木繁の記念碑　誕生日に除幕式
264	西日本	1968年06月03日	1968-3	岸田勉	脈打つ伝統への自負　明善校出身の美術家たち
265	西日本	1968年06月06日	1968-1		広がる生家保存運動　画壇の２巨匠（故青木繁　坂本繁二郎）も　当時の面影そのままに
266	西日本	1968年06月09日	1968-1		高まる保存への動き　青木繁，坂本繁二郎氏生家　久留米・関係者の声を聞く　維持保存に努力
267	西日本	1968年06月13日	1968-1		青木繁の記念碑　篠山城で地鎮祭　レリーフなども完成
268	西日本	1968年06月15日	1968-1		青木繁，坂本繁二郎両生家　保存検討会を設置　久留米連文会総会
269	読売	1968年06月24日	1968-1		〈みなと〉　明治画壇の鬼才，青木繁画伯の記念碑の建立が，…
270	西日本	1968年07月02日	1968-2	樋口謙太郎	ひとりごと　(3)　青木繁の描いた肖像画
271	読売	1968年07月02日	1968-1		青木繁など115点　八幡で九州異色画家展
272	西日本	1968年07月10日	1968-3		九州の異色画家展　〈告示〉
273	読売	1968年07月10日	1968-3		青木繁らの113点出品　「九州の異色画家展」
274	西日本	1968年07月11日	1968-1	保坂英雄	〈談話室〉　青木繁の記念碑
275	朝日	1968年07月12日	1968-3		〈美術〉　多彩にしてなお新鮮　アウトサイダーの八人　「九州の異色画家展」
276	読売	1968年07月12日	1968-1		ブロンズ像できる　青木繁記念碑
277	毎日	1968年07月15日	1968-3		〈画廊〉　収穫は瑛九，荒井龍男の作品　九州の異色画家展
278	朝日	1968年07月22日	1968-1		青木画伯の記念碑できる　篠山城跡に
279	西日本	1968年07月22日	1968-1		青木繁の碑完成　悲運の画聖たたえ
280	西日本	1968年07月22日	1968-3		〈美術〉　印象的な横手，野田　九州の異色画家展
281	毎日	1968年07月22日	1968-1		青木繁記念碑　久留米で除幕式
282	読売	1968年07月22日	1968-1		蘭童さん父子が除幕　久留米城跡に青木繁記念碑
283	毎日	1968年08月06日	1968-3	戸嶋和郎	〈福岡評論〉　青木記念碑をたたえる
284	西日本	1968年08月23日	1968-1		青木繁の“再起の手紙”を発見　八女市の旧家で　帰京の望み切々と　悲運の底で飛躍の夢
285	毎日	1968年09月15日	1968-1		青木繁の画業をしのび　油絵“海の幸”を織物に再現　約千万円で“どん帳”　久留米市民会館　来春，ステージを飾る

286	西日本	1968年09月25日	1968-2		洋画の百年　三彩増刊号　〈書評〉
287	毎日	1968年09月27日	1968-1		薄幸の生涯を物語る異色展に　初公開の45点　来月2日から　青木繁をしのぶ特別展
288	西日本	1968年10月02日	1968-1		青木繁をしのぶ特別展　きょうから有馬記念館で
289	フクニチ	1968年10月02日	1968-3		東京芸大資料館　汚損ひどい作品群　自画像など一部修復へ
290		1968年10月03日	1968-3		〈寺〉　順光寺　久留米市日吉町　青木繁の墓がある
291		1968年	1968-1		2日から青木繁記念展　久留米　板戸画「房州風景」など
292	毎日	1968年10月03日	1968-1		苦闘時代の作品など　青木繁をしのぶ特別展が開幕
293	毎日	1968年10月08日	1968-1	戸嶋和郎	〈福岡評論〉　天才・青木繁の回顧展
294	朝日	1968年10月19日	1968-1		〈点描〉　青木繁の生涯しのぶ　久留米で特別展
295	西日本	1968年10月24日	1968-1		“青木繁少年”をしのぶ　数学，大きらい　同級生(中学時代)が写真発見
296	西日本	1968年10月29日	1968-1		〈文化〉　九州・沖縄芸術祭　きょう開幕　九州の画家たち展　開いた日本の洋画史　“隠れたる”名作68点
297	西日本	1968年10月29日	1968-3		名作に見入るファン　九州・沖縄芸術祭開幕　『九州の画家たち展』
298	フクニチ	1968年10月29日	1968-1		デッサンや手紙も出品　久留米で　青木繁の特別展
299	西日本	1968年10月31日	1968-1		栄光の群像　近代日本の洋画史をひらいた九州の画家たち展から　(3)　和田英作　青木繁
300	読売	1968年10月31日	1968-3		青木繁らの名作　九州の画家たち展
301	朝日	1968年11月02日	1968-3	弘	近代洋画と九州人　栄光の座から不振へ
302	西日本	1968年11月14日	1968-1		青木繁展のパンフレットできる
303	読売	1968年11月14日	1968-1		青木繁をしのぶ特別展　作品写真集でる
304	朝日	1968年11月16日	1968-1		〈筑後バイパス〉　お知らせ　青木繁の資料できる
305	西日本	1968年11月18日	1968-3	岸田勉	青木繁の『心中と結婚』への意志　その資料展から
306	茨城毎日	1969年01月07日	1971-1		下館に青木繁の碑　三月末に除幕式　近く市長らが発起人会
307	読売	1969年01月22日	1968-3		〈美術評〉　風格ある作品群　日本の近代洋画
308	毎日	1969年01月29日	1969-1		〈文芸〉　絶頂期の地に碑　青木繁　下館市で建立準備
309	毎日	1969年03月13日	1969-1		23日かぶと山で　青木繁しのぶ第16回けしけし祭
310	朝日	1969年03月16日	1969-1		新しく国宝1，重文51　「玄奘三蔵絵」国宝　重文　青木繁の作品など
311	読売	1969年03月16日	1969-1		文化財保護審議会　国宝に「玄奘三蔵絵」　初めて外人の彫刻も　重文51件を指定
312	朝日	1969年03月19日	1969-1		〈黒板〉　けしけし祭　〈行事案内〉
313	西日本	1969年03月20日	1969-1		天才，青木繁しのぶ　23日に“けしけし祭り”
314	読売	1969年03月20日	1969-1		23日・ケシケシ祭り　青木繁しのぶ　福田蘭童も参列
315	フクニチ	1969年03月22日	1969-1		青木繁しのんで　久留米　あす「けしけし祭り」
316	読売	1969年03月22日	1969-1		〈みなと〉　ちかく完成する久留米市の市民会館大ホールに，…

317	朝日	1969年03月23日	1969-1		市民会館が近く完成　久留米　お城のような建物　落成式は31日　文化活動の中心に
318	西日本	1969年03月23日	1969-1		最後の仕上げ急ピッチ　久留米市民会館　どんちょうは“海の幸”　31日に落成式　講演など多彩な行事
319	朝日	1969年03月24日	1969-1		カッポ酒で青木繁しのぶ　“けしけし祭”
320	西日本	1969年03月24日	1969-1		画聖しのび“けしけし祭り”　青木繁のめい福祈る　柳坂子供会員も参加
321	フクニチ	1969年03月24日	1969-1		青木繁の「海の幸」　久留米　市民会館飾るドン帳
322	毎日	1969年03月24日	1969-1		かっぽ酒で故人しのぶ　第16回けしけし祭り
323	読売	1969年03月24日	1969-1		注ぐ“かっぽ酒”　文人つどい「けしけし祭り」
324	西日本	1969年04月01日	1969-1		久留米と人　財界中心に　異色の人材輩出　“画壇の鬼才”青木，坂本
325		1969年	1969-4		〈すとろぼ〉　同人誌「文学佐賀」の木元光夫が，同誌の8号に二百五十枚の大作「青木繁の放浪」を書いている。…　〈書評〉
326	毎日	1969年07月08日	1969-1		五ヶ月ぶりに帰る　故青木画伯の名作　重文指定後，初めて
327	西日本	1969年08月11日	1969-3		青木繁画伯の絶筆ミステリー　消えた“青い太陽”　裏張り技法にナゾ　ニセ物論まで飛び出す
328	西日本	1969年10月18日	1969-1		人気呼ぶ明善出身画家展
329	読売	1969年10月18日	1969-1		鬼才・青木繁など展示　明善高出身者の作品展開く
330	西日本	1969年11月08日	1969-2		明善物語　(14)　アレキサンダー　芸術こそが我が世界　落第した青木繁　神話に若い情熱
331	読売	1969年11月18日	1969-1		100人の名作を集めた絵画展
332	西日本	1969年11月22日	1969-2	河北倫明	東行西行　(24)　青木繁の友人
333	西日本	1969年11月26日	1969-2	河北倫明	東行西行　(27)　青木繁のファン
334	西日本	1969年12月11日	1969-2		明善物語　(40)　美の系譜　青木繁らぞくぞく　出身画家　めざましい活躍
335	朝日	1970年03月02日	1970-2		〈読書〉　日本絵画館　9　「明治」　〈書評〉
336	フクニチ	1970年03月16日	1970-1		青木繁しのぶ“けしけし祭り”　29日に「かぶと山」で
337	毎日	1970年03月25日	1970-1	米替誓志	〈文芸〉　けしけし山
338	西日本	1970年03月28日	1970-1		あす久留米市でけしけし祭
339	読売	1970年03月28日	1970-1		あす「ケシケシ祭り」　蘭童氏も尺八の奉納
340	西日本	1970年03月30日	1970-1		青木繁をしのんで　「けしけし祭」150人が集る
341	朝日	1970年05月13日	1970-2		〈美術〉　輝かしい洋画畑の人脈　九州出身近代作家秀作展
342		1970年	1970-1		姿を消す青木繁ゆかりの庭園　都市計画道路づくりで　久留米
343	毎日	1970年07月02日	1970-2	戸嶋記者	生きている画像　坂本繁二郎一周忌を前に　(3)　坂本と青木　名作に二つの世界　求道の人(坂本)放浪の人(青木)
344	毎日	1970年07月13日	1970-2		木元光夫著「幻想の画家・青木繁」　〈書評〉
345	西日本	1970年09月14日	1970-2		〈本と人〉　呪われた美　中本達也　“創造”を鋭く追求　既成美術史に容赦ない批判

346	フクニチ	1970年08月09日	1970-2		幻想の画家　青木繁　木元光夫著　造形社　〈広告〉
347	読売	1970年10月27日	1970-2		近代の美術　青木繁と浪漫主義　〈広告〉
348	毎日	1970年11月04日	1970-2		色と形をたずねて　(1)　石橋美術館　福岡県久留米市　“静と動”両極の美の世界　青木・坂本の作品
349	西日本	1970年11月25日	1970-1		〈ミニ・ニュース〉　好評の名画カレンダー
350	毎日	1970年11月25日	1970-1		〈話題〉　カレンダーになった　青木繁の「二人の少女」
351	西日本	1971年02月05日	1971-1		もってのほか　偽作扱い　再評価される不遇の画家　松田諦晶　数々の傑作残す　門下生千人　筑後画壇の指導者
352	西日本	1971年02月09日	1971-3		根づく　(2)　筑後の美術　〈種子〉　すそ野築いた人たち　坂本の恩師森三美ら
353	西日本	1971年02月15日	1971-3		根づく　(5)　筑後の美術　〈もう一つの柱〉　効果大きい美術館　レベル向上・土壌広がる
354	西日本	1971年03月05日	1971-1		呼び起こす“心の友”　青木繁画伯　詩人，高島宇朗　思い出の手紙届く　久留米の田中さんへ　“女星”の斐都子さんから
355	朝日	1971年03月17日	1971-1		けしけし祭り　〈行事案内〉
356	読売	1971年03月19日	1971-1		28日，ケシケシ祭り　献句で青木画伯しのぶ
357	読売	1971年03月20日	1971-3	高階秀爾	世紀末の影　(下)　神の支配から離脱　反発した象徴主義
358	西日本	1971年03月26日	1971-1	田中幸夫	青木繁“けしけし祭”を前に　現存のモデルに聞く　悲運の天才画家　縄帯をして恩師の家に　肉体をむしばんだ佐賀放浪
359	西日本	1971年03月28日	1971-1		晩年の青木繁をうたう　高島宇朗作の詩二編見つかる
360	朝日	1971年03月29日	1971-1		青木繁画伯しのび「けしけし祭」
361	西日本	1971年03月29日	1971-1		“陽春”本番へ　行楽地にぎわう　兜山では“けしけし祭り”
362	フクニチ	1971年03月29日	1971-1		〈街灯〉　カッポ酒をくんで
363	毎日	1971年03月29日	1971-1		青木繁しのんで“けしけし祭”　“かっぽ酒”くみかわして　久留米
364	読売	1971年03月29日	1971-1		明治の鬼才にかっぽ酒　久留米で「けしけし祭り」故青木繁画伯をしのぶ
365	朝日	1971年03月31日	1971-4		近代の美術　第1号　河北倫明編　青木繁と浪漫主義　〈広告〉
366	西日本	1971年04月12日	1971-4	難波田龍起	生前の『青木繁』ほうふつと　「海の幸」渡辺喜美子著　〈書評〉
367	毎日	1971年04月15日	1971-4	鷹	明治の恋
368	西日本	1971年06月01日	1971-4		超ワイド版　現代日本美術全集　集英社版　全12巻　7巻　青木繁　〈広告〉
369	読売	1971年06月21日	1971-1		青木繁の作品みつかる　寄宿の主婦を描く　筑紫野で旅行の途中
370	フクニチ	1971年09月02日	1971-2		佐賀県　博物館の記念行事　…11月15日から28日まで明治，大正，昭和名作美術展，…　〈告示〉

371	西日本	1971年10月19日	1971-4		筑後路に深まる“美術の秋”　平常展にも団体客　石橋美術館　地元著名作品に人気
372	西日本	1971年10月23日	1971-1		下館市に青木繁の歌碑　没後60年を記念して　来月3日に除幕式　地元有志が募金建立
373	朝日	1971年11月03日	1971-4	古賀耕児，青沼茂男，岸田勉，藤田英一（談）	筑後の美術を語る　「青木，坂本に続けー」　実力派どしどし登場
374	毎日	1971年11月03日	1971-1		下館（茨城県）に青木画伯の碑　明治38―40年のゆかりの地
375	朝日（茨城版）	1971年11月04日	1971-1		南限　北限　文化の日　愛した自然石に刻む　青木繁記念碑を除幕
376	茨城読売	1971年11月04日	1971-1		〈三角州〉　明治洋画壇の鬼才，青木繁画伯の記念碑が，…
377	西日本	1971年11月04日	1971-1		ゆかりの下館市に　青木画伯の記念碑除幕
378	フクニチ	1971年11月18日	1971-3		佐賀県　明治，大正，昭和名作美術展　〈告示〉
379	フクニチ	1971年12月08日	1971-2		〈文化短信〉　現代洋画名作展　〈告示〉
380	西日本	1971年12月15日	1971-2		青木繁の未発表作品　珍しい肖像画みつかる　秘めた青春の慕情　佐賀　晩年を知る貴重な資料
381	西日本	1971年12月18日	1971-2		いまなお魅惑する筑後のニジ　死後60年の青木繁　まだ不明の主要作　『秋声』『二少女』にせ物も現われる
382	朝日	1972年03月07日	1972-2		〈ひろば〉《けしけし祭》〈告示〉
383	毎日	1972年03月08日	1972-1		青木繁画伯しのぶ　けしけし祭り　20日にかぶと山，篠山城跡で
384	読売	1972年03月08日	1972-1		〈ミニ・ニュース〉　けしけし祭りにどうぞ　〈行事案内〉
385	西日本	1972年03月18日	1972-1	谷口治達記者	〈レジャー〉　青木繁しのぶ小城路　悲恋の舞台，城下町　絶作『朝日』も大事に保管
386	西日本	1972年03月18日	1972-1	河北倫明	伝説の画家　青木繁　けしけし祭りに寄せて
387	西日本	1972年03月18日	1972-1		〈わが町村〉　久留米市　“けしけし祭り”
388	毎日	1972年03月22日	1972-1		故青木繁画伯しのび“けしけし祭り”
389	読売	1972年03月22日	1972-1		雨の「けしけし祭り」
390	西日本	1972年03月26日	1972-1		20日　けしけし祭り　〈行事案内〉
391	読売	1972年03月27日	1972-3		ユニークな視角と卓見　高階秀爾著　日本近代美術史論　〈書評〉
392	朝日	1972年03月31日	1972-1		生誕九十年記念に青木繁の回顧展
393	西日本	1972年04月18日	1972-2		〈画廊〉　東京ブリヂストン美術館新収作品展
394	朝日	1972年05月06日	1972-1	山上隆之輔	〈このごろ〉　展覧会屋の宿命
395	朝日	1972年05月30日	1972-3		〈展覧会〉　青木繁展　〈告示〉
396	西日本	1972年06月05日	1972-2		11日　青木繁展　〈告示〉
397	朝日	1972年06月06日	1972-2		〈ひろば〉　青木繁記念講演会　〈告示〉
398	朝日	1972年07月10日	1972-3		〈展覧会〉　青木繁展　〈告示〉
399	毎日	1972年09月22日	1972-2		美術の秋のハイライト　東京国立近代美術館　20周年記念展
400	朝日	1972年09月26日	1972-3		日本洋画の人脈　田中穣　型破りの美術史　〈広告〉

401	西日本	1972年10月16日	1972-3		『日本洋画の人脈』 田中穣著 〈書評〉
402	朝日	1972年10月20日	1972-3		生誕90年記念 豪華限定図録 青木繁 河北倫明著 日本経済新聞社 〈広告〉
403	西日本	1973年01月23日	1973-1		〈文化短信〉 東亜画廊が開業
404	西日本	1973年02月05日	1973-5		青木繁 その愛と彷徨 北川晃二 〈広告〉
405	フクニチ	1973年02月14日	1973-5	O	〈文化〉 複雑な人間像に迫る "天才"の高揚と失意描く 「青木繁・その愛と彷徨」 北川晃二著 〈書評〉
406	朝日	1973年02月17日	1973-5		北川晃二著「青木繁その愛と彷徨」 〈書評〉
407	フクニチ	1973年02月17日	1973-5		青木繁その愛と彷徨 北川晃二 講談社 〈広告〉
408	西日本	1973年02月19日	1973-5	田中艸太郎	温かい作者の『仮説』 北川晃二著 青木繁・その愛と彷徨
409	朝日	1973年02月28日	1973-2		〈会と催し〉 北川晃二著「青木繁・その愛と彷徨」出版記念会 〈行事案内〉
410	フクニチ	1973年03月04日	1973-1		盛大に出版記念会 北川晃二氏の「青木繁その愛と彷徨」
411	毎日	1973年03月12日	1973-5		青木繁―その愛と彷徨 北川晃二著 異才の実証的伝記 明治洋画壇の内情を背景に 〈書評〉
412	毎日	1973年03月13日	1973-4	篠原正一	〈文芸〉 高島宇朗と青木繁
413	フクニチ	1973年03月17日	1973-1		〈タウンメモ〉 けしけし祭り 〈行事案内〉
414	西日本	1973年03月19日	1973-1		21日 けしけし祭 〈行事案内〉
415	西日本	1973年03月19日	1973-5		現代日本美術全集 集英社版 全18巻 ヴァンタン 第9回配本《第7巻》好評発売中 青木繁／藤島武二 〈広告〉
416	読売	1973年03月20日	1973-1		けしけし祭り 〈行事案内〉
417	毎日	1973年03月21日	1973-1		きょう第20回けしけし祭り
418	西日本	1973年03月23日	1973-1		青木画伯しのび『けしけし祭』
419	フクニチ	1973年03月24日	1973-4	藤田英一，山上隆之輔，北川晃二（談）	美術ブームあれこれ 青木繁の61回忌から美術館建設と投機買いまで 「天才」育てた筑後の風土 明治維新 乗り遅れたのが幸い
420	西日本	1973年03月30日	1973-1		〈文化短信〉 久留米に九州画廊がオープン
421	西日本	1973年04月05日	1973-1		久留米に本格的な画廊
422	フクニチ	1973年04月06日	1973-1		"九州画廊"オープン
423	毎日	1973年04月06日	1973-1		筑後美術の伝統守ろう 九州画廊，オープン オール九州作家展開幕 久留米市
424	西日本	1973年04月28日	1973-3		若き坂本繁二郎 23歳の手紙福岡で発見 東京の空の下 母想う 悩みながら絵に精進 伯父あて 青木繁との対抗意識も
425	西日本	1973年05月11日	1973-1		栄光をたたえて TNC制作 15周年記念番組 郷土出身の天才画家 『青木繁＝その画業と伝説』
426	西日本	1973年06月09日	1973-1		フィルム構成 青木繁 ―その画業と伝説― 〈番組紹介〉
427	西日本	1973年06月13日	1973-2	朝日晃	百年の美の系譜 近代洋画を築いた五十人展から (3) ロマン主義の開花 青木繁『大穴牟知命』(1905年)

428		1973年	1973-2		近代洋画を築いた50人展
429	西日本	1973年06月20日	1973-2		きょう開幕　近代洋画を築いた五十人展　美術史の勉強に
430	西日本	1973年06月20日	1973-2		美術の流れまざまざ　『近代洋画を築いた50人展』開く
431	西日本	1973年06月21日	1973-2		中ソ文化人“日本のこころ”見る　“青木繁スバラシイ”　ソ連美術史家アーラさん　『50人展』を鑑賞
432	フクニチ	1973年06月23日	1973-2		近代洋画の50人展　巨匠が描く明治100年　県立文化会館　具象から抽象まで
433	毎日	1973年06月26日	1973-3		好評開催中，来月1日まで　全国美術館秘蔵作品を中心に　近代洋画を築いた50人展　〈社告〉
434	西日本	1973年06月28日	1973-4	青木寿	〈文化〉『五十人展』を見て　赤裸々な個性　美術史を彩る九州の魂
435	朝日	1973年07月24日	1973-1		〈点描〉　第一回は青木繁の“世界”　知られざる物故者の作品を無料公開
436	読売	1973年08月23日	1973-2		石橋コレクション展　〈告示〉
437	朝日	1973年10月05日	1973-4		〈点描〉　“パリと日本”の関係見つめる展観
438	毎日	1973年10月29日	1973-2		「近代日本美術史におけるパリと日本」展
439	フクニチ	1973年11月14日	1973-5	N	内面つぶさに初の伝記　坂本繁二郎　岩田礼著　〈書評〉
440	毎日	1973年11月26日	1973-5		〈寸評〉　坂本繁二郎　岩田礼著　〈書評〉
441	西日本	1974年02月20日	1974-1		どん帳で再現　大川市文化センター　清力美術館が寄贈　青木繁の名作『晩帰』
442	朝日	1974年02月25日	1974-3		〈点描〉　上野の森85年の歩み展
443	読売	1974年02月26日	1974-3		〈手帳〉「上野の森85年の歩み展」東京芸大　ずらり近代美術史　印象・写実から幻想まで
444	毎日	1974年03月12日	1974-3		振幅の広い日本画　「上野の森85年の歩み展」
445	西日本	1974年03月18日	1974-4		近代の美術　21　『坂本繁二郎』　岸田勉　著　〈書評〉
446	西日本	1974年03月23日	1974-1		名品，珍品ずらり　久留米市の永田さん　ビル新築を機にギャラリー開く
447	朝日	1974年03月25日	1974-1		「けしけし祭」
448	西日本	1974年03月25日	1974-1		盛大に“けしけし祭り”　久留米市かぶと山　歌碑に“カッポ酒”　青木繁をたたえ　市民ら200人が参加
449	フクニチ	1974年03月25日	1974-1		カッポ酒くみかわし“けしけし祭り”　野草を食べる会　野草料理に舌つづみ　久留米
450	読売	1974年03月25日	1974-1		かっぽ酒で青木画伯しのぶ　碑前で「けしけし祭り」
451	フクニチ	1974年03月30日	1974-4		青木繁など展示　〈告示〉
452	西日本	1974年04月02日	1974-4		〈展覧会〉　石橋コレクション展　〈告示〉
453	読売	1974年05月02日	1974-4		〈ロビー〉　青木繁をめぐる友人の書簡　福岡の雑誌で紹介　〈書評〉
454	朝日	1974年05月04日	1974-3		〈点描〉　青木繁をめぐる新資料を公開　福岡ユネスコ機関誌

455	毎日	1974年05月18日	1974-1		〈雑誌〉 注目される「博物館・美術館」の座談会 福岡・ユネスコ 第9号 〈書評〉
456	西日本	1974年06月18日	1974-1		“青木繁の間”を永久保存 清力美術館『晩帰』描いた部屋
457	朝日	1974年07月01日	1974-3		海の幸 (後1・45) 〈RKB…〉 〈番組紹介〉
458	西日本	1974年07月01日	1974-3		新番組『海の幸』 RKB… テレビ＝後1・45 〈番組紹介〉
459	毎日	1974年07月01日	1974-3		新番組 海の幸 〈後1・45〉 〈番組紹介〉
460	読売	1974年07月01日	1974-3		新番組 海の幸 後1・45 (RKB…) 〈番組紹介〉
461	朝日	1974年07月05日	1974-4		20日から青木と坂本特別展 石橋美術館 〈告示〉
462	西日本	1974年07月05日	1974-4		〈展覧会〉 青木繁・坂本繁二郎特別展示 〈告示〉
463	朝日	1974年07月18日	1974-1		〈展覧会〉 青木繁・坂本繁二郎特別展示 〈告示〉
464	毎日	1974年07月19日	1974-1		〈ぷれえ・がいど〉 ギャラリー 筑後 青木繁・坂本繁二郎作品特別展示 〈告示〉
465	読売	1974年07月26日	1974-4		青木繁，坂本繁二郎名作展 〈告示〉
466	フクニチ	1974年07月27日	1974-4		両巨匠の大作出品 石橋美術館 青木繁・坂本繁二郎展
467	朝日	1974年08月07日	1974-4		〈むつごろう通信〉 「天平時代」を展示
468	西日本	1974年08月07日	1974-1		水彩画の『須崎海岸』 青木繁の絶筆と認定 河北，岸田の両氏 東中洲の病床で描く 陰に豪商の友情 構図，色感に特徴
469	読売	1974年08月07日	1974-4		青木繁「天平時代」 文化センターに展示 〈告示〉
470	フクニチ	1974年08月08日	1974-4		久留米市 特別展観は「天平時代」 〈告示〉
471	朝日	1974年08月11日	1974-4		青木繁の絵解説 〈告示〉
472	西日本	1974年08月17日	1974-4		〈お知らせ〉 久留米 石橋美術館ゲストコーナー 〈告示〉
473	西日本	1974年08月19日	1974-3	岸田勉	青木繁と加野宗三郎 絶筆『須崎海岸』をめぐって 入院中，面倒をみる 関係確かめる資料はない
474	西日本	1974年08月30日	1974-3	次	〈風車〉 青木繁と“薫風郎君”
475	西日本	1974年09月08日	1974-4		〈超短波〉 久留米が生んだ天才画家・青木繁の生涯を描いたテレビドラマ『海の幸』(TBS制作，毎週木曜RKB放映)が話題になり，…
476	西日本	1974年09月13日	1974-4		太陽 10月号 (平凡社) 特集 画家青木繁 愛と放浪の生涯 〈広告〉
477	朝日	1974年10月15日	1974-4		〈名画サロン〉 秋 青木繁(1882－1911)の作品。… 〈作品紹介〉
478	西日本	1974年11月08日	1974-1		青木の芸術への執念 福田蘭童氏らが証言 10日，NHKが『燃えつきた絵筆』放送
479	朝日	1974年11月15日	1974-3		輝く洋画壇の巨匠 数々の賞受けた坂本繁二郎 「海の幸」で世評高めた青木繁
480	西日本	1974年12月10日	1974-3		〈雑誌と同人誌〉 『九州人』12月号 …ほかに田中幸夫『詩人高島泉郷と青木繁』… 〈書評〉
481	西日本	1974年12月13日	1974-3		私は青木繁の最期の看護婦 背広着たきりの闘病 見舞客もほとんどなく 千葉に住む坂口マユミさん

482	朝日	1975年03月10日	1975-1		けしけし祭り　久留米が生んだ偉才，青木繁をしのぶ行事。…　〈行事案内〉
483	西日本	1975年03月16日	1975-3	田中幸夫	〈文化〉　ロマンの詩人青木繁　“けしけし忌”に寄せて
484	西日本	1975年03月24日	1975-1		青木繁しのび“けしけし祭”　関係者150人が集まり耳納連山かぶと山で
485	西日本	1975年03月29日	1975-3	岸田勉	〈文化〉　青木繁のある足跡　従弟宅にあった水彩画から
486	読売	1975年03月29日	1975-3	岸田勉	青木繁の“絶筆”『須崎海岸』　幻想性と安定性間違いない
487	フクニチ	1975年04月22日	1975-3	治	〈鑑賞席〉　わだつみのいろこの宮　〈作品紹介〉
488	西日本	1975年05月23日	1975-5		郷土色強めます　石橋美術館　青木・坂本の作品を一堂に　名づけて『ふるさと美術館』
489	毎日	1975年05月23日	1975-5		青木繁　坂本繁二郎　2巨匠の作品集め　石橋美術館“ふるさと”コーナー
490	朝日	1975年06月11日	1975-5		青木，坂本の作品一堂に　久留米の石橋美術館
491	朝日	1975年06月27日	1975-5	倉本和美記者	同窓会　明善高校　(1)　石橋美術館
492	朝日	1975年07月15日	1975-4		オールカラー愛読愛蔵版　日本の名画　全26巻　中央公論社　第12巻　青木繁　〈広告〉
493	朝日	1975年08月01日	1975-5	井川史朗	青木・坂本を生んだ郷土　近代洋画に不滅の光　大きな比重占める九州
494	朝日	1975年08月30日	1975-4		芸術新潮　9月号　新潮社　…異聞青木繁の絶筆をめぐって／竹藤寛　〈広告〉
495	読売	1975年09月02日	1975-3		青木繁の絶筆論争　岸田九州芸工大教授が唱える新説「須崎海岸」　闘病中，博多の豪商に贈る　福岡ユネスコ協会　竹藤氏は疑問視
496	西日本	1975年11月07日	1975-5		青木・坂本のふるさと美術館　内容を一段と充実　名作さらに33点追加　圧巻『わだつみのいろこの宮』青木，『放牧三馬』坂本
497	西日本	1975年12月01日	1975-1		青木繁晩年の作品か　『海の幸』の系列　民家の土蔵から発見　佐賀
498	フクニチ	1975年12月05日	1975-1		天才画家・青木繁の油絵発見　佐賀市の民家の土蔵から　幻想的ふん囲気漂う　裸の漁師を描く
499	西日本	1975年12月16日	1975-3	次	〈風車〉　古賀春江と青木繁
500	朝日	1976年02月02日	1976-1		天才画家青木繁その愛人福田たね　二人の「愛」の記念碑　栃木で計画　帰化彫刻家が制作
501	西日本	1976年02月18日	1976-4	岸田勉	〈文化〉　60余年ぶりの“目覚め”　青木繁の『織月帰舟図』について
502	フクニチ	1976年02月18日	1976-4	岸田勉（他）	〈文化〉　青木繁の絶筆『須崎海岸』について　青木繁の新発見の作品と署名について
503	朝日	1976年03月19日	1976-1		あす，けしけし祭　青木画伯の業績しのび
504	西日本	1976年03月19日	1976-1		“カッポ酒”をくみかわし　青木繁の偉業しのぶ　久留米市カブト山　あす，けしけし祭
505	西日本	1976年03月21日	1976-1		カッポ酒くみかわす　青木繁しのぶ　“けしけし祭り”
506	読売	1976年03月21日	1976-1		酒注ぎ，青木繁しのぶ　久留米でけしけし祭り

507	フクニチ	1976年03月22日	1976-1		“カッポ酒”でしのぶ　青木繁の「けしけし祭り」　久留米市
508	読売	1976年09月21日	1976-4		〈手帳〉　若き坂本繁二郎の悩み　学生時代「ライバル青木」すでに意識
509	西日本	1976年09月30日	1976-3		土方定一著作集　全12巻　平凡社　6　近代日本の画家論　I　〈広告〉
510	西日本	1976年11月07日	1976-2		あの世で父の元へ　蘭童さん青木繁の墓に納骨
511	朝日	1976年11月24日	1976-1		草葉のかげで結べた父子愛　寺に納骨　蘭童氏，青木繁氏のそばに　久留米
512	西日本	1976年11月24日	1976-1		久留米の青木繁の墓に分骨　蘭童さん，父のもとへ
513	毎日	1976年11月24日	1976-1		福田蘭童さんの分骨式　エータローさんら30人出席し　久留米順光寺
514	読売	1976年11月24日	1976-1		故蘭童さん，父・青木繁と眠る
515	西日本	1977年01月06日	1977-1		青木繁・坂本繁二郎　生家に記念碑　文化人が建設計画　久留米
516	朝日	1977年03月25日	1977-1		けしけし祭りに孫の石橋さんも　27日に青木画伯しのぶ
517	西日本	1977年03月25日	1977-1		青木繁しのんで　27日碑前祭ひらく
518	朝日	1977年03月28日	1977-1		久留米市でけしけし祭　お好きなカッポ酒です　青木画伯しのび歌碑に
519	西日本	1977年03月28日	1977-1		しめやかに“けしけし祭り”　歌碑にカッポ酒　青木繁しのぶ150人　孫の石橋さんも出席　久留米市けしけし山
520	フクニチ	1977年03月28日	1977-1		百人参加し盛大に　春の山菜に舌つづみ　「けしけし祭り」「野草を食べる会」　久留米
521	毎日	1977年03月28日	1977-1		カッポ酒をくみ交わし　けしけし祭り　青木繁しのぶ　久留米
522	読売	1977年03月28日	1977-1		青木繁しのびけしけし祭り
523	西日本	1977年04月17日	1977-2		西日本の群像　“美の極致”黒潮に咲く　黒田頂点に結集　青木，坂本も独自の花
524	朝日	1977年05月18日	1977-1		青木繁のデッサン
525	読売	1977年08月05日	1977-1		〈手帳〉　青木繁作品めぐり遺族と友人が対立　「福岡ユネスコ」に発表
526	朝日	1977年10月15日	1977-3		〈点描〉　日本洋画巨匠展　ほとんどが具象画　地元出身画家を中心に
527	読売	1977年10月15日	1977-3		〈美術〉　日本洋画巨匠展　随所にえり抜きの作品
528	西日本	1977年10月26日	1977-3	二宮冬鳥	青木繁二題
529	朝日	1977年12月01日	1977-2		河北倫明美術論集　講談社版　全5巻　第3巻・青木繁と坂本繁二郎　〈広告〉
530	読売	1978年01月01日	1978-3		はばたく市民文化　“ふるさと美術館”充実　青木・坂本作品が一堂に
531	読売	1978年02月12日	1978-3		青木繁作品「海の幸」など里帰り　石橋美術館　18日から150点展示
532	朝日	1978年02月13日	1978-3		6年ぶり青木繁の『海の幸』特別展　18日から6カ月間　石橋美術館

533	西日本	1978年02月15日	1978-3		18日から常設展示　石橋コレクション　繁二郎の『霧島風景』も
534	読売	1978年02月16日	1978-3		「海の幸」など飾りつけ　石橋美術館，18日から公開
535	読売	1978年02月20日	1978-3		青木繁“里帰り”名作2点　300人じっくり鑑賞　石橋美術館
536	西日本	1978年02月22日	1978-3		『海の幸』など名作ずらり　石橋美術館　常設展示にもどる
537	西日本	1978年02月24日	1978-3		〈文化〉　青木繁の『海の幸』　慎重に里帰り　石橋美術館で当分展示
538	西日本	1978年03月27日	1978-1		にぎわった春の一日　青木繁しのびけしけし祭り　久留米市山本町　山上の歌碑にカッポ酒かけ
539	フクニチ	1978年03月27日	1978-1		“春”漂う二つの行事　久留米市高良山　青木繁「けしけし祭」　石橋エータロー親子も参加　碑にカッポ酒など注ぐ
540	西日本	1978年04月11日	1978-3	早	〈風車〉　『海の幸』を常時久留米に
541	西日本	1978年07月14日	1978-3	岸田勉	〈文化〉　坂本繁二郎特別展について　青春の作や諸資料　青木繁と争った『早春』
542	フクニチ	1978年08月08日	1978-3		青木繁テーマに「炎の海」　NHK福岡で制作
543	朝日	1978年08月25日	1978-3		天才画家青木繁を紹介　「炎の海」に取り組むNHK福岡　主役も福岡出身の米倉
544	毎日	1978年08月26日	1978-3		青木繁“29歳の燃焼”を描く　NHK福岡制作「炎の海」
545	読売	1978年08月26日	1978-3		〈娯楽〉　「炎の海」津屋崎でロケ　放浪画家の晩年描く　青木繁に米倉斉加年　NHK福岡
546	フクニチ	1978年08月27日	1978-3		NHK特集「炎の海」　宗像郡・恋の浦海岸ロケ　“天才”に挑戦　米倉斉加年が青木繁に
547	西日本	1978年09月07日	1978-3		青木繁の波瀾の生涯　『炎の海』NHK福岡で制作
548	朝日	1978年11月17日	1978-1		郷土出身の画家テーマに　福岡で美術座談会
549	朝日	1978年11月22日	1978-2		美術と郷土のかかわりは？　福岡ユネスコ協会主催で座談会　青木・坂本…五画家を中心に
550	西日本	1978年11月22日	1978-2		〈文化〉　美術と風土を考える座談会　福岡出身画家をめぐって
551	読売	1978年11月22日	1978-2		〈手帳〉　作家とふるさと美術と風土探る　福岡でシンポジウム
552	読売	1978年12月26日	1978-3		日本の名画　カンヴァス版　全26巻　第12巻　青木繁　〈広告〉
553	読売	1979年01月05日	1979-3		青木・坂本に続け　偉業たたえ「画家展」　3月石橋美術館
554	読売	1979年01月05日	1979-3		巨匠里帰り静かな歓迎　再出発石橋美術館2年目　青木繁「天平時代」を展示
555	西日本	1979年01月10日	1979-3		〈文芸〉　石橋美術館に展示　青木繁の『天平時代』
556	フクニチ	1979年01月12日	1979-3		青木ファン喜ばせる「天平時代」の里帰り
557	フクニチ	1979年03月26日	1979-1		200人参加，盛大にけしけし祭　歌碑にカッポ酒
558	毎日	1979年03月26日	1979-1		青木繁しのび「けしけし祭」　久留米　カッポ酒くみ交わし

559	フクニチ	1979年04月15日	1979-3		郷土の画才育てた　「清力美術館」ついに閉館　大川　困難な保存と防犯　坂本繁二郎青木繁ら　名画「石橋」に預託
560	毎日	1979年04月15日	1979-3		清力美術館“70歳”で引退　「漁夫晩帰」(青木作品)など4点　石橋コレクションに寄贈
561	毎日	1979年04月27日	1979-3		古賀春江の「曲ろくにつく」も　石橋美術館　あすから公開
562	西日本	1979年04月28日	1979-3		清力コレクション　石橋美術館で展示　青木繁の『漁夫晩帰』など
563	読売	1979年04月28日	1979-2		清力美術館が閉館　大川　無料開放　いたずらにダウン
564	フクニチ	1979年04月29日	1979-2		5代目当主ほろ苦い解放感　「清力美術館」閉館　大川　保管の苦労肩代わり　石橋美術館　民間保存のむずかしさ浮き彫り
565	フクニチ	1979年04月30日	1979-3		青木繁の作品「漁夫晩帰」など勢ぞろい
566	西日本	1979年05月11日	1979-3	岸田勉	〈文化〉　美術館の収集と企画　清力コレクションの寄託によせて
567	西日本	1979年05月26日	1979-3		青木繁の絵が記念切手に　石橋美術館で記念展も　29日から全国で売り出す
568	フクニチ	1979年05月28日	1979-3		青木繁の傑作，近代美術シリーズで切手に登場
569	読売	1979年06月20日	1979-3		3日から石橋財団初の展示会　豊福知徳氏の彫刻も　石橋美術館　繁二郎「自像」など秀作19点
570	毎日	1979年06月22日	1979-3		セザンヌなど19点新登場　石橋美術館　岡鹿之助「雪の発電所」　坂本繁二郎「自像」も
571	フクニチ	1979年06月24日	1979-1		青木繁の絵画など余罪続々　窃盗男，百十件を自供
572	朝日	1979年07月01日	1979-3		絵画，彫刻など19点　3日から石橋コレクション新収蔵品展　坂本の「自像」など傑作も
573	西日本	1979年07月04日	1979-3		坂本繁二郎やセザンヌ　新収蔵の19点展示　久留米・石橋美術館
574	フクニチ	1979年07月04日	1979-3		新たに飾る世界の名画展　美術ファンは大喜び　セザンヌの「入浴図」も
575	毎日	1979年07月04日	1979-3		逸品，新たに19点　新収蔵品展開く　石橋美術館
576	西日本	1979年07月12日	1979-3		ファン魅了する名作19点　坂本繁二郎の自像など　石橋コレクション新収蔵作品展から
577	朝日	1979年08月26日	1979-3		NHKブックス《カラー版》　青木繁　その愛と放浪　松永伍一著　〈広告〉
578	西日本	1979年08月27日	1979-3		NHKブックス〈カラー版〉　青木繁～その愛と放浪～　松永伍一著　〈広告〉
579	西日本	1979年08月29日	1979-2	篠原正一	〈随想〉　青木繁の短歌
580	西日本	1979年09月22日	1979-2	椎の実	〈風車〉　青木繁の評伝
581	西日本	1979年10月26日	1979-3		筑後は絵のふるさと　輩出した有名画人　在野精神にあふれて
582	毎日	1979年11月17日	1979-2		おめでとう関本君(久大付中3年)　総理大臣賞　全国文芸コンクール　坂本繁二郎・青木繁を描いた小説「二人の画家」

583	フクニチ	1979年12月02日	1979-2		〈サンデーストーリー〉 中学3年初の小説が総理大臣賞 お見事！小郡市の関本君 郷土の画家青木・坂本“二人の世界” 「海の幸」にひかれて
584	西日本	1980年01月23日	1980-5		郷土色もくっきりと 改装三年目の石橋美術館 充実した作品，入場者も増える
585	毎日	1980年02月06日	1980-1	丸山豊	めぐりあい 丸山豊 （上） 坂本繁二郎翁
586	毎日	1980年02月07日	1980-1	丸山豊	めぐりあい 丸山豊 （下） 坂本繁二郎翁
587	フクニチ	1980年02月17日	1980-1		美術時評 今春注目の地元3企画展 都市化と風土性
588	西日本	1980年02月24日	1980-2		青木，坂本ら未公開作中心 来月，郷土出身画家の洋画展 県文化会館
589	フクニチ	1980年02月24日	1980-2		郷土の画家“総出演” 有名，無名の64人，93点 青木繁の「繊月帰舟」も初公開 「郷土の物故作家にみる風土と人脈」展 2日から福岡県文化会館
590	読売	1980年02月24日	1980-2		県ゆかりの画家の作品一堂に 「近代洋画と福岡県」 2日から県文化会館で
591	朝日	1980年02月29日	1980-2		近代洋画と福岡県 豊かな土壌探ろう 郷土の画家が一堂に 初公開の作品いっぱい 2日から福岡市・県文化会館
592	フクニチ	1980年03月06日	1980-2	深野治編集委員	ふるさと美術人脈 近代洋画と福岡県 (4) “画風”に生れた土の香り
593	朝日	1980年03月08日	1980-2	源	〈美術〉 地域に密着した好企画 福岡県文化会館特別展「近代洋画と福岡県」
594	読売	1980年03月08日	1980-2	健	〈美術〉 珍しい絵が勢ぞろい 「近代洋画と福岡県」展
595	フクニチ	1980年03月10日	1980-2		ふるさと美術人脈 近代洋画と福岡県 (6) 基礎かたまった明治40年代 若い才能もぞくぞく登場
596	読売	1980年03月12日	1980-3		新刊 櫨の国の画家たち 〈書評〉
597	西日本	1980年03月13日	1980-2		〈展覧会〉 福岡県出身巨匠六人展
598	毎日	1980年03月13日	1980-1	田中幸人	風土と人脈の再評価 二つの企画展の意味
599	西日本	1980年03月14日	1980-1	古川智次	〈文化〉 三地域の人脈たどる 『近代洋画と福岡県』展
600	フクニチ	1980年03月14日	1980-2		〈展覧会〉 福岡県出身巨匠六人展
601	西日本	1980年03月17日	1980-3	岸田勉	〈読書〉 迫力ある克明な資料 櫨の国の画家たち 松田諦晶物語 吉田浩著 〈書評〉
602	西日本	1980年03月22日	1980-5		あす『けしけし祭り』 久留米 〈行事案内〉
603	西日本	1980年03月23日	1980-5		〈お知らせ〉 久留米 けしけし祭 〈行事案内〉
604	朝日	1980年03月24日	1980-5		けしけし祭
605	西日本	1980年03月24日	1980-5		青木繁をしのぶ しめやかに『けしけし祭り』
606	フクニチ	1980年03月24日	1980-5		碑前にはカッポ酒 青木繁をしのぶ 200人参加，けしけし祭
607	毎日	1980年03月24日	1980-5		カッポ酒をくみ交わし 青木繁をしのぶ 久留米でけしけし祭り
608	読売	1980年03月24日	1980-5		青木繁しのぶ けしけし祭 兜山に300人集う

609	西日本	1980年03月26日	1980-5		画伯の偉業しのぶ
610	西日本	1980年04月19日	1980-5		青木繁“天才”への習作　素描など60点発見　故坂本繁二郎が所蔵　6月，石橋美術館で公開
611	西日本	1980年05月13日	1980-2	吉田	〈展覧会〉　筑後洋画山脈の祖　森三美素描展
612	読売	1980年05月16日	1980-2		〈展覧会案内〉　森三美素描展　〈告示〉
613	西日本	1980年05月21日	1980-5		〈文芸〉　能面のデッサンや素描画を公開　青木繁，20歳ごろの作　31日から石橋美術館
614	西日本	1980年05月24日	1980-5		青木繁のデッサン画　久留米　〈告示〉
615	読売	1980年05月26日	1980-5		未発表「青木繁の息吹き」　風景や能面デッサンなど　31日から石橋美術館で展示
616	朝日	1980年05月31日	1980-2		〈展覧会〉　特別展示「青木繁の息吹」　〈告示〉
617	フクニチ	1980年05月31日	1980-2		〈週間ガイド〉　美術　青木繁の息吹き　〈告示〉
618	毎日	1980年06月01日	1980-5		故青木画伯「わだつみのいろこの宮」　“幻の下絵”見つかる　ライバル故坂本画伯宅で
619	西日本	1980年06月10日	1980-5	岸田勉	仮面の世界　青木繁未発表作品について
620	フクニチ	1980年06月10日	1980-5		坂本繁二郎の遺品から青木繁の作品60点が…　水彩やクロッキー代表作(わだつみのいろこの宮)の下絵も　石橋美術館で公開
621	毎日	1980年06月12日	1980-5		美術講座　…石橋美術館二階ロビー。岸田勉同館長が「青木繁未発表作と資料」展の展示作品解説を中心に。二百円。　〈告示〉
622	フクニチ	1980年06月14日	1980-2		〈週間ガイド〉　美術　青木繁の息吹き　〈告示〉
623	読売	1980年06月18日	1980-5		〈よみうり抄〉　石橋美術館土曜特別講座　〈告示〉
624	読売	1980年06月19日	1980-5		〈学ぶ〉　石橋美術館土曜特別美術講座　〈告示〉
625	西日本	1980年06月26日	1980-5		〈カメラスケッチ〉　ロマンへの限りなき情熱　仮面スケッチ中心に　にぎわう石橋美術館　青木繁の未発表作品展
626	朝日	1980年08月18日	1980-1		青木繁の生家，保存へ　地元企業が調査着手　久留米　復元し，市へ寄付も
627	フクニチ	1980年08月21日	1980-3		小説「二人の画家」を出版　久大付設高1年の関本君　〈書評〉
628	毎日	1980年08月25日	1980-3		青木・坂本両画伯モデルに　小説「二人の画家」　久留米の高校生が出版
629	西日本	1980年09月04日	1980-1		〈家庭〉　名画にみる母と子　(21)　青木繁　羽子板《女星》
630	西日本	1980年10月03日	1980-3	桜木信之	青木と坂本比較　『二人の画家』関本善和著
631	西日本	1980年10月23日	1980-5		絵画貸し出し急増　石橋美術館　美術館新築ラッシュで　『同業の付合いもあって…』
632	朝日	1980年10月25日	1980-2		広い視野と問題意識　自主性確立する過程
633	読売	1980年10月31日	1980-1		青木繁の短歌を“改作”　県観光連盟パンフレット　久留米市が単純ミス重ねる
634	フクニチ	1980年12月29日	1980-1	深野治編集委員	〈管見抄〉　美術の解説と歴史

美術館案内　Guide to the Museums

ブリヂストン美術館

所在地　東京都中央区京橋1-10-1（〒104）
TEL. (03) 3563-0241
開館時間　4月－10月　午前10時－午後6時
11月－3月　午前10時－午後5時30分
休館　毎月曜日　年末年始
入場料　個人：
一般 500円　大・高生 400円　中・小生 200円
団体（15名以上）：
一般 400円　大・高生 300円　中・小生 150円
なお，特別展の場合は変更することがある。

Bridgestone Museum of Art

Address　10-1, Kyobashi 1-chome, Chuo-ku, Tokyo 104, Japan
Phone: (03) 3563-0241
Hours　April－October 10:00 to 18:00
November－March 10:00 to 17:30
Closed on Mondays, New year holidays
Admission　Individual:
Adults ¥500; Students ¥400;
Children under 15 ¥200
Group (15 or more):
Adults ¥400; Students ¥300;
Children under 15 ¥150

石橋美術館

所在地　福岡県久留米市野中町1015（〒839）
TEL. (0942) 39-1131
開館時間　4月－9月　午前9時30分－午後5時30分
10月－3月　午前9時30分－午後5時
休館　毎月曜日　年末年始
入場料　個人：
一般 300円　大・高生 200円　中・小生 150円
団体（20名以上）：
一般 250円　大・高生 150円　中・小生 80円
なお，特別展の場合は変更することがある。

Ishibashi Museum of Art

Address　1015, Nonaka-machi, Kurume-shi, Fukuoka-ken 839, Japan
Phone: (0942) 39-1131
Hours　April－September 9:30 to 17:30
October－March 9:30 to 17:00
Closed on Mondays, New year holidays
Admission　Individual:
Adults ¥300; Students ¥200;
Children under 15 ¥150
Group (20 or more):
Adults ¥250; Students ¥150;
Children under 15 ¥80

石橋美術館別館

所在地　福岡県久留米市野中町1015（〒839）
TEL. (0942) 39-0124
開館時間　4月－9月　午前9時30分－午後5時30分
10月－3月　午前9時30分－午後5時
休館　毎月曜日　年末年始
入場料　個人：
一般 300円　大・高生 200円　中・小生 150円
団体（20名以上）：
一般 250円　大・高生 150円　中・小生 80円
なお，特別展の場合は変更することがある。

Ishibashi Museum of Art, Asian Gallery

Address　1015, Nonaka-machi, Kurume-shi, Fukuoka-ken 839, Japan
Phone: (0942) 39-0124
Hours　April－September 9:30 to 17:30
October－March 9:30 to 17:00
Closed on Mondays, New year holidays
Admission　Individual:
Adults ¥300; Students ¥200;
Children under 15 ¥150
Group (20 or more):
Adults ¥250; Students ¥150;
Children under 15 ¥80

石橋財団職員

常務理事　大原　譲

事務局

局長　朝比奈仙二
渡辺　瞳
押本　仁子
小原田鶴子
石黒　経子
土屋　益子

ブリヂストン美術館

館長　石樽　和夫
事務部　事務部長　尾島　聰
中村　邦子
野村　芳雄
利　正美
渡辺　清美
青柳　真子
金子　伸子
原　永子
石川　久子

学芸部　学芸課長　宮崎　克己
中田　裕子
吉城寺尚子
塚田美香子
田中　千秋
貝塚　健
中村　節子
福満　葉子

石橋美術館

館長　中川　洋
事務部　事務部長　平井麟之輔
野田　朋子
富松　弘美
原　朋子

学芸課　学芸課長　田内　正宏
学芸課・課長　(兼) 橋富　博喜
杉本　秀子
植野　健造
後藤　純子
平間　理香

石橋美術館別館

館長　(兼) 中川　洋
事務部　事務部長　(兼) 平井麟之輔
(兼) 野田　朋子
(兼) 富松　弘美
(兼) 原　朋子

学芸課　学芸課長　橋富　博喜
(兼) 杉本　秀子
(兼) 植野　健造
(兼) 後藤　純子
(兼) 平間　理香

1997年3月31日現在